

IMS
15

インストール
(2021-06-25 版)



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[161 ページの『特記事項』](#)に記載されている情報をお読みください。

本書は、IMS 15 (プログラム番号 5635-A06)、IMS Database Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-DS5)、IMS Transaction Manager Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-TM4)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリソースおよびモディフィケーションに適用されます。

© Copyright International Business Machines Corporation 1974, 2020.

目次

| | |
|--|------------|
| 本書について | vii |
| 前提知識..... | vii |
| 新規および変更された情報の識別方法..... | vii |
| 構文図の読み方..... | vii |
| IMS 15 のアクセシビリティ機能..... | ix |
| 第 1 章 IMS インストールの概要 | 1 |
| 第 2 章 IMS インストール検査プログラム (IVP) の概要 | 5 |
| 教育ツールとしての IVP..... | 5 |
| IVP プロセスの段階..... | 6 |
| 初期化段階..... | 6 |
| 変数収集段階..... | 7 |
| ファイル調整段階..... | 7 |
| 実行段階..... | 8 |
| IVP 出力..... | 8 |
| 第 3 章 IVP を使用して、検証可能な処理サンプル IMS システムを構築する | 11 |
| IVP ダイアログの開始..... | 11 |
| ISPF 内からの EXEC コマンドによる IVP の開始..... | 11 |
| 「IMS Application Menu」からの IVP の開始..... | 12 |
| IVP 初期化段階の開始..... | 13 |
| 環境オプションの選択..... | 13 |
| 環境オプション変更の検査..... | 14 |
| サブオプションの選択..... | 15 |
| 表マージの要求..... | 17 |
| IVP 段階および位置付けオプションの選択..... | 17 |
| 変数の収集..... | 18 |
| IVP 変数のエクスポートおよびインポート..... | 19 |
| 変数の一括変更..... | 22 |
| ファイル調整..... | 22 |
| 調整済みのジョブおよびタスクの実行..... | 23 |
| IVP ダイアログ・セッションの終了..... | 24 |
| 第 4 章 IVP によって提供されるサンプル・アプリケーション | 25 |
| IVP により実行されるサンプル・アプリケーション..... | 25 |
| IVP サンプル・アプリケーション..... | 25 |
| 区分化サンプル・アプリケーション..... | 27 |
| IMS Connect サンプル・アプリケーション..... | 28 |
| RDDS を使用した動的リソース定義サンプル・アプリケーション..... | 28 |
| IMSRSC リポジトリを使用した動的リソース定義サンプル・アプリケーション..... | 29 |
| IVP によって検査されるその他のサンプル・アプリケーション..... | 30 |
| IVP によってテストされないサンプル・アプリケーション..... | 31 |
| IMS サンプル・アプリケーション..... | 31 |
| 高速機能サンプル・アプリケーション..... | 37 |
| IMS カタログのサンプル..... | 43 |
| Java 開発用の IMS ソリューションおよび IMS コールアウトのサンプル..... | 44 |
| Java 開発用の IMS ソリューションのサンプル..... | 44 |
| コールアウト機能のサンプル..... | 44 |

| | |
|---|-----------|
| 第 5 章参照情報 | 47 |
| IMS データ・セット..... | 47 |
| IVP ダイアログ・データ・セット..... | 48 |
| SMP/E データ・セット..... | 49 |
| 配布 (DLIB) データ・セット..... | 51 |
| ターゲット (TLIB) データ・セット..... | 59 |
| システム・データ・セット..... | 66 |
| 実行データ・セット..... | 69 |
| IRLM データ・セット..... | 83 |
| ユーザー・データ・セット (USER.ISPTABL)..... | 85 |
| IVP 変数..... | 85 |
| 一般的な変数..... | 85 |
| データ・セット割り振り変数..... | 97 |
| IVP ジョブおよびタスク..... | 100 |
| ステップ Ax ~ IVP 準備用..... | 101 |
| ステップ Cx ~ システム定義用 (SYSDEF)..... | 101 |
| ステップ Dx ~ IMS から z/OS および VTAM へのインターフェース..... | 102 |
| ステップ Ex ~ IVP アプリケーションおよびシステム準備用..... | 103 |
| ステップ Fx ~ IVP 実行 - DBB システム (バッチ)..... | 104 |
| ステップ Gx ~ IVP 実行 - DBC システム (DBCTL)..... | 106 |
| ステップ Hx ~ IVP 実行 - DBT システム (DB/DC)..... | 108 |
| ステップ Ix ~ IVP 実行 - XRF システム (XRF 付き DB/DC)..... | 110 |
| ステップ Jx ~ IVP 実行 - DCC システム (DCCTL)..... | 112 |
| ステップ Nx ~ 実行用 - パーティション・データベースのサンプル・アプリケーション..... | 113 |
| ステップ Ox ~ 共通サービス層および共通キュー・サーバーのサンプル・アプリケーション..... | 115 |
| ステップ Px ~ タイプ 2 コマンド環境のサンプル・アプリケーション..... | 118 |
| ステップ Qx ~ 実行用 - IMS Connect サンプル・アプリケーションを使用する全機能 MPP トランザクション..... | 119 |
| ステップ Rx ~ 並列 RECON アクセス・サンプル用..... | 120 |
| ステップ Sx ~ コールアウト・サンプル用..... | 121 |
| ステップ Tx ~ オープン・データベース・サンプル・アプリケーション..... | 122 |
| ステップ Ux ~ IMSRSC リポジトリ・サンプル・アプリケーション..... | 123 |
| ステップ Zx ~ 追加の PDS メンバーの索引..... | 124 |
| IVP システム定義のステージ 1 の入力ストリーム..... | 134 |
| DBB - DB バッチ (バッチ) ステージ 1..... | 134 |
| DBC - データベース制御 (DBCTL) ステージ 1..... | 134 |
| DBT - データベース/トランザクション・マネージャー (DB/DC) ステージ 1..... | 134 |
| XRF - 拡張回復機能付きデータベース/トランザクション・マネージャー (XRF 付き DB/DC) ステージ 1..... | 134 |
| DCC - トランザクション・マネージャー制御 (DCCTL) ステージ 1..... | 134 |
| IVP 環境オプション..... | 134 |
| 変数収集のダイアログ・オプション..... | 136 |
| ファイル調整のダイアログ・オプション..... | 140 |
| 実行段階のダイアログ・オプション..... | 143 |
| サンプル・アプリケーションのパーツ表および PSB..... | 146 |
| IVP サンプル・アプリケーション表..... | 146 |
| IMS サンプル・アプリケーション表..... | 149 |
| IMS サンプル・アプリケーション PSB..... | 150 |
| 高速機能サンプル・アプリケーション表..... | 152 |
| 区分化サンプル・アプリケーション表..... | 153 |
| IMS Connect サンプル・アプリケーション表..... | 153 |
| サンプル・アプリケーション・データベース..... | 153 |
| IVP サンプル・アプリケーション・データベース..... | 154 |
| 高速機能サンプル・アプリケーション・データベース..... | 156 |
| 区分化サンプル・アプリケーション・データベース..... | 157 |
| 高速機能サンプル・アプリケーションのエラー・メッセージ..... | 158 |

| | |
|--|------------|
| IVP 開始 CLIST を呼び出すための TSO EXEC コマンド構文..... | 159 |
| 「IMS Application Menu」を開始するための REXX EXEC コマンド構文..... | 160 |
| 特記事項..... | 161 |
| 商標..... | 162 |
| 製品資料に関するご使用条件..... | 162 |
| IBM オンライン・プライバシー・ステートメント..... | 163 |
| 参考文献..... | 165 |
| 索引..... | 167 |

本書について

これらのトピックでは、IMS のインストール・プロセスの準備、および IMS インストール検査プログラム (IVP) の実行に関するガイダンス情報を提供します。また、これらのトピックでは、IMS に付属するサンプル・アプリケーションについても説明します。

この情報は、[IBM® 資料](#) で参照できます。

前提知識

本書を使用するには、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) のどちらかの知識が必要になります。また、z/OS® および IMS の基本概念、インストールされている IMS システムを理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

z/OS の詳細については、[IBM 資料](#) の「z/OS basic skills」トピックを参照してください。

IMS の基本概念を理解するには、「*An Introduction to IMS*」(IBM Press 出版)をお読みになると役立ちます。

IBM では、IMS の学習に役立つような講習会や自習講座を数多く提供しています。利用可能な講習の詳しいリストについては、[IBM Skills Gateway](#) にアクセスして、IMS を検索してください。

新規および変更された情報の識別方法

IMS ライブラリーの PDF 資料のほとんどの新規および変更された情報は、左マージン内の文字 (改訂マーカ) によって示されています。「リリース計画」、ならびに「*Program Directory*」および「*Licensed Program Specifications*」の第 1 版 (-00) には、改訂マーカは含まれていません。

改訂マーカは、以下の一般的な規則に従っています。

- 技術的な変更のみにマークが付けられています。形式上の変更や文法的な変更には、マークは付けられていません。
- 段落、構文図、リスト項目、操作手順、または図などの要素の一部が変更された場合、その要素の一部だけの変更であっても、要素全体に改訂マーカが付けられています。
- トピックの変更が 50% を超えた場合には、そのトピック全体に改訂マーカが付けられています (そのため、新規トピックではなくても、新規トピックのように見ることがあります)。

改訂マーカは情報に加えられたすべての変更を示しているとは限りません。削除されたテキストとグラフィックスには、改訂マーカでマークを付けることはできないためです。

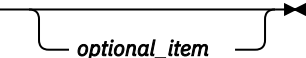
構文図の読み方

本書で使用されている構文図には、以下の規則が適用されています。

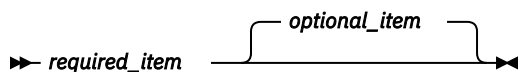
- 構文図は、経路を示す線に沿って、左から右、上から下に読み取ります。以下の規則が使用されます。
 - >>--- 記号は、構文図の始まりを示します。
 - ---> 記号は、構文図が次の行に続くことを示します。
 - >--- 記号は、この構文図が直前の行から続いていることを示します。
 - --->< 記号は、構文図の終わりを示します。
- 必須項目は、水平線 (メインパス) 上に表示されます。

▶▶ *required_item* ◀◀

- オプション項目は、メインパスより下に示されます。

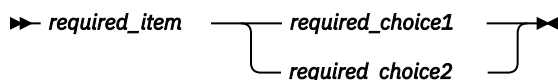
▶▶ *required_item*  ◀◀

メインパスより上にオプション項目が示されている場合は、その項目が構文エレメントの実行に影響することはなく、読みやすくするためのみの表記です。

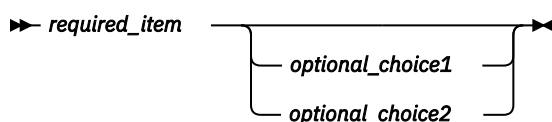


- 複数の項目から選択できる場合は、縦方向に並べて (スタック) 示されます。

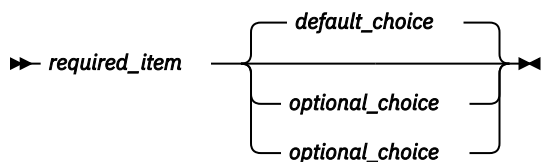
それらの項目の中から 1 つ を選択する必要がある場合は、スタックの中の 1 つの項目がメインパス上に表示されます。



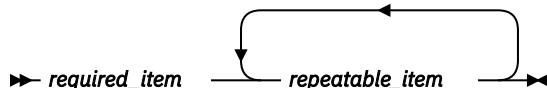
それらの項目から 1 つを選択することがオプションである場合は、スタック全体がメインパスの下に表示されます。



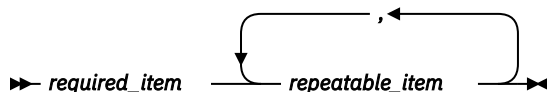
デフォルト項目が含まれている場合、その項目はメインパスより上に示され、他の選択項目はメインパスより下に示されます。



- メインパスの上方にある左に戻る矢印線は、項目が反復可能であることを示します。

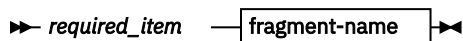


反復矢印線にコンマが含まれている場合は、反復項目をコンマで区切る必要があります。

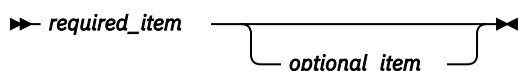


スタック上方の反復矢印線は、スタック内の項目を反復できることを示しています。

- 1つの構文図を複数のフラグメントに分割しなければならない場合もあります。構文フラグメントはメインの構文図とは別に示されますが、フラグメントの内容は、図のメインパス上にあるものとして読む必要があります。



fragment-name



- IMS では、b 記号は、該当位置に空白が 1 つあることを示します。
- キーワード、および該当する場合はキーワードの最小の省略語は、大文字で表されます。これらは、示されているとおりに入力する必要があります。変数は、すべて小文字のイタリック文字で示されます (例えば、*column-name*)。これらは、ユーザーが指定する名前または値を表します。

- キーワードとパラメーターは、構文図で間に句読点が表示されていない場合は、少なくとも1つのスペースで分離します。
- 句読記号、括弧、算術演算子、およびその他の記号は、構文図で示されたとおりに入力します。
- 脚注は、例えば (1) のように、数字を括弧で囲んで示してあります。

IMS 15 のアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。

アクセシビリティ機能

以下のリストは、IMS 15 を含む z/OS 製品の主なアクセシビリティ機能を示しています。これらの機能は、以下をサポートしています。

- キーボードのみの操作。
- スクリーン・リーダー (読み上げソフトウェア) およびスクリーン拡大鏡によって通常使用されるインターフェース。
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ。

キーボード・ナビゲーション

IMS 15 ISPF パネル機能には、キーボードまたはキーボード・ショートカット・キーを使用してアクセスできます。

TSO/E または ISPF を使用して IMS 15 ISPF パネルをナビゲートする詳細については、「z/OS TSO/E 入門」、「z/OS TSO/E ユーザーズ・ガイド」、および「z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第1巻」を参照してください。上記の資料には、キーボード・ショートカットまたはファンクション・キー (PF キー) の使用方法を含む、各インターフェースのナビゲート方法が記載されています。それぞれの資料では、PF キーのデフォルトの設定値とそれらの機能の変更方法についても説明しています。

関連のアクセシビリティ情報

IMS 15 のオンライン資料は、IBM 資料で参照できます。

IBM におけるアクセシビリティ

IBM のアクセシビリティに対する取り組みについて詳しくは、*IBM Human Ability and Accessibility Center* (www.ibm.com/able) を参照してください。

第 1 章 IMS インストールの概要

IMS のインストールには、計画ステップ、ハードウェアおよびソフトウェアの注文、インストール検査プログラム (IVP) の実行が含まれます。

前提条件

本書は、以下の製品または環境を扱った経験があることを前提としています。

- SMP/E を使用したプロダクトのインストールおよびサービス
- z/OS 環境:
 - ジョブ入力サブシステム (JES2 または JES3)
 - ジョブ制御言語 (JCL)
 - ユーティリティ
 - オペレーション
 - システム表示/検索機能 (SDSF)
- タイム・シェアリング・オプション (TSO) 環境:
 - CLIST および REXX EXEC
 - 対話式システム生産性向上機能 (ISPF)
- 仮想記憶アクセス方式 (VSAM) および統合カタログ機能 (ICF)

インストール・プロセス

以下のカテゴリは、IMS をインストールする場合、および新しいバージョンを実動システムにマイグレーションする場合に推奨されるエンドツーエンドのステップとプロセスを提供します。

1. リリース計画

特定の業務に適したソフトウェアおよびハードウェアを注文する前に、いくつかの項目を検討する必要があります。多くの企業は課題に取り組み、重要な問題を解決するためにビジネス・プランを用意しています。問題には以下のようなものがあります。

- どのリリースの IMS にマイグレーションしているのか。
- マイグレーションを行う価値が十分にあるのはどのリリースか。
- 次のリリースへのアップグレードをいつ行うのか。
- アップグレードするため必要なハードウェア要件や人的要件は何か。

上記のビジネス決定に役立つ情報については、マイグレーションを検討している IMS バージョン用の「[IMS Release Planning](#)」を参照してください。IMS および DB2® ツール要件については、[z Systems ソフトウェア Web サイト](#)を参照してください。

2. ハードウェアおよびソフトウェアの注文

特定のニーズを決定したら、ビジネス・プランに固有の製品を注文できます。「IMS V15 リリース計画」、製品発表レター、および「*Program Directory for Information Management System Transaction and Database Servers*」に、IMS の各リリースに固有のハードウェア要件とソフトウェア要件が記載されています。以下の配布メディアを使用して、IMS を注文できます。

- カスタム・ビルド製品デリバリー・オファリング (CBPDO)

CBPDO 製品パッケージは、1 本の論理テープ (複数のボリューム) で構成されています。IMS を含む CBPDO パッケージには、同一システム・リリース (SREL) の他のプロダクトが含まれる場合もあります。CBPDO はまた、製品オーダーに含まれる製品のサービスも提供します。

このサービスには、オーダー履行の 1 週間以内に使用可能となった、すべての PTF が組み込まれます。すべての PTF は、PUTyymm、RSUyymm、SMCREC、HIPER、および SMCCOR を含む、1 つ以上の SOURCEID で識別されます。

詳しくは、CBPDO "DBS Memo to User Extensions" (CBPDO パッケージとともに出荷される) を参照してください。

• ServerPac

ServerPac は、認定ソフトウェア・デリバリー・パッケージです。ServerPac は、IBM が SMP/E インストール・ステップおよび SMP/E インストール後ステップの一部を行っているプロダクトとサービスから成り立っています。このパッケージをユーザーのシステムにインストールし、パッケージに含まれるソフトウェアのインストールを完了するには、CustomPac Installation ダイアログを使用します。このダイアログは、SystemPac (データ・セット別ダンプ形式)、ProductPac[®]、および RefreshPac を含む、すべての CustomPac オファリングに使用されるダイアログと同じです。

ServerPac は以下のものを提供します。

- すべてのデータ・セットを割り振り、カタログし、ロードする
- SMP/E 環境をセットアップする
- PARMLIB (IEFSSNxx、PROGxx、および IEASVCxx) を更新するジョブを提供する
- IVP を開始するよう指示する

ServerPac オーダーには、オーダー作成時に使用可能な最新の非統合サービスが含まれます。オーダーに含まれるサービスおよびインストール後に実行する必要がある予防保守については、付属の資料「*ServerPac: Installing Your Order*」をご覧ください。SMP/E 報告書については、この資料の付録 C、『*Using the Package Reports*』を参照してください。オーダーに含まれていない FMID、または現在使用可能なフィックスがないために、オーダーに統合できないエラー PTF (PE) に対して、解決策を講じる必要が生じる場合があります。エラーがシステムに影響を及ぼすかどうか、およびフィックスが使用可能であるかどうかを確認してください。フィックスが使用不可の場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡をとり、支援をお求めください。

3. インストール計画

IMS をインストールする前に、それぞれの IMS のお客様に固有の以下の考慮事項に留意してください。この項目を決定することは、IMS の正常なインストールおよびその後の管理を確実に行うために重要です。インストール作業と計画作業には、以下のものが含まれます。

- IMS 製品のハードウェア要件
- IMS 製品のソフトウェア要件
- IBM および IBM 以外の両方のツールのツール要件
- 現行リリースのマイグレーション要件および互換性要件

以下に、インストールおよびリリース計画情報のソースをリストします。

- IMS Web サイトにある IBM IMS 発表レター (RFA)
- IMS V15 リリース計画
- 予防サービス計画 (PSP バケット)
- *Program Directory for Information Management System Transaction and Database Servers*

4. IMS 製品のインストール

IMS のインストールおよび予防保守は、SMP/E APPLY および ACCEPT プロセスを使用します。次に、環境オプションを指定して、サンプル・アプリケーションをテストすることにより、IVP を実行してサンプル IMS システムを定義し、妥当性検査を行います。

インストール手順および最新の IMS 保守については、複数の資料が入手可能です。一部の資料は他より最新のものである場合があります。以下に、最新情報を取得するための推奨順番を昇順に示します。

a. CBPDO および ServerPac の資料

この情報は、以下から取得できます。

- IBM ソフトウェア・サポート : 1-800-879-2755
 - [Shopz Web サイト](#)
- b. 予防サービス計画 (PSP バケツ) 情報
- この情報は、以下から取得できます。
- IBM ソフトウェア・サポート : 1-800-879-2755
 - [Shopz Web サイト](#)
 - [メインフレーム・オペレーティング環境のための予防サービス計画バケツ Web サイト](#)
- c. *Program Directory for Information Management System Transaction and Database Servers*
- この情報は、以下から取得できます。
- CBPDO または ServerPac の資料
 - [EMEA オーダー・サポート Web サイト](#)
- d. *IMS V15* インストール

IMS のすべての新規インストールでは、SMP/E 形式でパッケージされた、使用可能な IMS サービスをインストールすることが重要です。

5. IVP の実行

インストール検査プログラムは IBM から提供されます。これは、IMS の製品インストールをテストし、主要機能が動作することを確認します。IVP のジョブおよびタスクは、サンプル IMS システムを構築し、IMS の特定のコンポーネントを検査する複数のサンプル・アプリケーションを提供します。

6. 独自システムのテストまたは実動用のデプロイメント

IMS をインストールし、IVP を使用してインストールを検査したら、この新しい IMS システムをテスト・システムにアップグレードする方法および最終的に実働システムにアップグレードする方法を検討してください。それぞれのお客様には、新しい IMS システムのロールアウトに関する個別の要件および計画があります。

7. 新しいテスト・システムまたは実動システムのテスト

新しいバージョンの IMS 製品の実装後に、各種機能をテストして実装が成功したことを検証してください。具体的なテストはお客様ごとに異なりますが、適宜、オンラインおよびバッチ・システムの両方でテストを組み込む必要があります。

関連概念

[IMS 15 の一般計画情報 \(リリース計画\)](#)

[IMS システム定義プロセスの概要 \(システム定義\)](#)

関連タスク

[単一システム上の IMS サービスのインストール \(システム管理\)](#)

関連資料

[DFSIX メッセージ \(インストール検査プログラム・ダイアログ\) \(メッセージおよびコード\)](#)

[G メッセージ \(システム定義\) \(メッセージおよびコード\)](#)

第 2 章 IMS インストール検査プログラム (IVP) の概要

インストール検査プログラム (IVP) は IBM から提供されます。これは、IMS の製品インストールをテストし、主要機能が動作することを検査します。

IVP のジョブおよびタスクは、サンプル IMS システムを構築し、IMS の特定のコンポーネントを検査する複数のサンプル・アプリケーションを提供します。IVP を使用して、IMS が正しくインストールされたこと、および IMS の主要機能が動作することを検査します。

IVP プロセスでは、ジョブの組み合わせと複数のタスクを実行し、完全に実行可能なサンプル IMS システムを作成します。IVP のジョブおよびタスクを実行して正常に完了したら、IVP が提供するサンプル・アプリケーションまたは IMS Web サイトからダウンロードしたサンプル・アプリケーションを使用して、システムを稼働します。IVP ジョブおよびタスクを手動で実行依頼して、ジョブを検証し、IVP プロセスを構成するタスクを実行します。

IVP ジョブは、ユーザーが実行する JCL です。IVP タスクは、ユーザーが手動で実行する必要があります。IVP は、オンライン・ヘルプにこれらのジョブおよびタスクのステップバイステップの説明を提供しています。また、カスタマイズ済み JCL (ジョブ制御言語)、IMS ステージ 1 システム定義入力、データベース記述 (DBD)、プログラム仕様ブロック (PSB)、メッセージ形式サービス (MFS)、およびアプリケーション・プログラムも提供しています。これらのアプリケーション・プログラムの一部は、IVP ジョブおよびタスクを介して実行されます。

関連概念

[IMS 構文チェッカー \(システム定義\)](#)

教育ツールとしての IVP

IVP は、インストール検査プログラムであることに加えて、ユーザーの IMS システム習得を支援することもできます。

環境に固有の IVP ジョブおよびタスクの完了後、システム・プログラマー、アプリケーション開発者、およびコンピューター・オペレーターは、トレーニング手段として、IVP のサンプル・システム、サンプル・アプリケーション、およびジョブとタスクを使用できます。さらに、IVP ジョブおよびタスクを使用して、IMS アプリケーションの開発環境、テスト、または実動システムのデプロイメントに必要なステップを決定します。

IVP を反復可能なトレーニング環境として使用し、以下のタイプのジョブおよびタスクを実行するためのガイダンスを提供することができます。

- IMS システム定義 (SYSDEF) の実行
- z/OS および VTAM® に対する IMS インターフェースの確立
- IMS アプリケーション・システムの準備
- IMS オンライン・システム (DBCTL、DB/DC、XRF 付き DB/DC、DCCTL など) の操作
- 通常再始動と緊急時再始動の両方を例示するシーケンスの操作
- 非 HALDB データベースから HALDB データベースへの変換の例示
- TSO Single Point of Control (SPOC) の使用の例示
- データベース・リソース・アダプター (DRA) インターフェース・モジュールがアSEMBルされ、IMS.SDFSRESL データ・セットに置かれていることの例示
- JMP および JBP サンプル・アプリケーションのセットアップと使用法の提供と例示
- 並列 RECON アクセスのセットアップと使用法の提供と例示
- IMS Connect のセットアップと使用法の提供と例示
- IMS オープン・データベースのセットアップと使用法の提供と例示
- 動的リソース定義 (DRD) のセットアップと使用法の提供と例示
- IMSRSC リポジトリのセットアップと使用法の提供と例示

- IMS カタログのセットアップと使用法の提供と例示

IVP プロセスの段階

IVP プロセスは、初期化、変数収集、ファイル調整、および実行の4つの段階から構成されます。

IMS の新しい機能が正しく動作することを検証するには、これらの4つの段階をすべて完了する必要があります。最初は、順序どおりに段階を進行する必要があります。変数収集段階およびファイル調整段階の完了後は、これらの2つの段階を、順序に関係なく移動できます。

初期化段階

初期化段階は、IVP ダイアログの開始あるいは、オプションまたはサブオプションの変更のたびに始まります。

IVP は、変数、ジョブ、タスク、および実行する必要のあるジョブとタスクの順序に関する情報を収める ISPF 表のセットから駆動します。この表は IVP ダイアログで更新されるため、IVP を初めて使用したとき、または後からオプションを変更したときに、作業用コピーを作成する必要があります。このプロセスを表マージと呼びます。

初期化段階では、以下のことを実行できます。

- ダイアログの再始動
- 環境オプションの選択
- サブオプションの選択
- 表のマージ
- 別の段階の選択 (変数収集、ファイル調整、または実行)

表のマージ・プロセス

表のマージが必要になるのは、IVP の初回実行時、以前に選択していなかった既存の環境オプションまたはサブオプションの変更時、およびサービスのインストールで必要になったときです。

IVP は、IMS ターゲット・ライブラリーおよび配布ライブラリーに配置されるマスター表と一緒に出荷されます。マスター表には、ジョブおよびタスクの作成に使用される可能性のあるすべての IVP 変数が収められています。環境と環境に適したサブオプションを選択します。表マージ・プロセスは、選択した環境オプションおよびサブオプションに基づいて IVP の実行に必要な IVP 変数、ジョブ、およびタスクをマスター表からカスタマイズ済みの表のセットに格納します。ダイアログはその処理の際に上記の表を更新するため、このマスター表をユーザー・データ・セット INSTATBL へコピーしておく必要があります。表のマージ・プロセスはこのコピーを実行します。

この表マージ・プロセスは、更新が PTF サービスで導入される INSTATBL データ・セットの更新にも使用されます。このサービスには、表マージ・プロセスを再実行する必要があるときには、理由が ACTION の ++HOLD が収められています。

オプションで、表マージを実行して、「Execution phase (LST mode)」パネルなどの段階パネルに表示される！ 標識をリセットすることもできます。表マージ・プロセスは、開始変数のコピー・プロセス、または変数収集段階の CHG アクションで変更された変数値を変更しません。

関連概念

[開始変数のコピー・プロセス](#)

表マージのプロセスを完了または迂回した後、ダイアログは開始変数と、それらと対応する表内の値とを比較します。

開始変数のコピー・プロセス

表マージのプロセスを完了または迂回した後、ダイアログは開始変数と、それらと対応する表内の値とを比較します。

表の値が異なっており、かつ前の「開始変数のコピー」プロセスかまたは変数収集段階における CHG アクションで変更されていない場合は、表の値が開始値で更新されます。このプロセスがあるため、ユーザーは同一の情報を何度も入力する必要はありません。

このプロセスで影響を受ける変数は次の通りです。

- 開始 CLIST に渡された IVP データ・セット高位修飾子 (HLQ)
- 開始 CLIST に渡された DLB データ・セット HLQ
- 開始 CLIST に渡された SYS データ・セット HLQ
- 現行の TSO ユーザー ID

このユーザー ID は、USER および NOTIFY ジョブ・ステートメント・パラメーターに使用されます。

関連概念

表のマージ・プロセス

表のマージが必要になるのは、IVP の初回実行時、以前に選択していなかった既存の環境オプションまたはサブオプションの変更時、およびサービスのインストールで必要になったときです。

変数収集段階

変数収集段階では、ファイル調整など、IVP の後続段階で必要なジョブおよびタスクを生成するためのオプションを選択します。

インストール材料のカスタマイズ (次のファイル調整段階で実行) に使用する、ユーザー変更が可能な変数が、検討および変更のために表示されます。この段階では、ユーザーは次の機能を実行できます。

- それぞれの変数に関連した値を変更する。
- 変数を配布デフォルト値に最新表示する。
- 変数のオンライン記述を表示する。
- 変数に関するオンライン・ヘルプを、ISPF リスト・データ・セットに印刷する。
- IMS の以前のリリースから、または IMS 15 の別のコピーから変数をインポートする。
- マイグレーションを容易に行えるようにするために、インストール済みリリースの IMS から、インストールする同じリリースまたは次のリリースの IMS へ変数をエクスポートする。例えば、現在 IMS V10 を使用しており、IMS 15 へマイグレーションする場合、IMS 15 で使用するために、IMS V10 変数をエクスポートできます。

ファイル調整段階

ファイル調整段階では、変数収集段階からの変数を SDFSSLIB からのスケルトンと結合して、INSTALIB にメンバー (JCL その他の材料) を作成するために、ISPF ファイル調整サービスを使用します。

ファイル調整段階で提示されるジョブ、タスク、および INDEX 項目は、初期設定の時に行われた選択により異なります。ジョブおよびタスクは、実行される順番で提示されます。INSTALIB メンバーの作成に加えて、この段階は、さまざまな INSTALIB、SDFSSLIB、および SDFSISRC のメンバー用のディレクトリーにもなります。

ファイル調整段階では、ユーザーは次のことを行うことができます。

- すべての項目、または選択した項目のファイル調整。
- INSTALIB、SDFSSLIB、または SDFSISRC メンバーのブラウズ。
- INSTALIB メンバーの編集。

- メンバーのオンライン・ヘルプの表示。
- ジョブ、タスク、および INDEX 項目のためのオンライン・ヘルプの ISPF リスト・データ・セットへの印刷。

実行段階

実行段階では、選択したオプションに基づき、IVP システムの構築および実行の完了に必要なジョブとタスクを通じて、1 ステップずつ、ユーザーをガイドします。

初期設定の時に行われた選択に固有のジョブおよびタスクのみが提示されます。ジョブおよびタスクは、実行される順番で提示されます。

実行段階では、ユーザーは次のことを行うことができます。

- INSTALIB メンバーのブラウズ。
- INSTALIB メンバーの編集。編集モードの中からジョブを実行依頼することができます。
- INSTALIB メンバーを実行依頼する。ジョブが正常に実行されたかどうかは、手動で検査する必要があります。
- 個々のメンバーをファイル調整します。
- ジョブおよびタスクのオンライン・ヘルプを表示する。
- ジョブおよびタスクのオンライン・ヘルプを ISPF リスト・データ・セットに印刷する。
- タスクの特別処理ルーチンを実行する。

IVP 出力

IVP システムは、豊富で多様なジョブおよびタスクのセットを提供します。このジョブおよびタスクを完了すると、z/OS 環境に統合されて、IVP パネルから選択した環境でテストされた、全機能装備の IMS システムが提供されます。

選択可能な IMS 環境には、BATCH、DBCTL、DB/DC、XRF 付き DB/DC、および DCCTL が含まれます。IMS の主要機能の多くは、IVP システムを使用して例示およびテストできます。IVP は実行可能なサンプル IMS システムを制御された方法で構築します。このサンプル・システムは検証可能かつ堅固であり、以下のことを実行できます。

- IMS 製品自体または製品の保守、あるいはその両方が正常にインストールされたことを検査します。
- z/OS インターフェースおよび VTAM インターフェースを実装およびテストします。
- IMS アプリケーション・システムを構築および統合します。
- 各種 IMS アプリケーション・システムをテストします。
- 選択した各種機能をテストします。
- DBCTL およびオープン・データベース・アクセス (ODBA) が使用するデータベース・リソース・アダプター (DRA) インターフェース・モジュールをアセンブルして、モジュールを IMS.SDFSRESL に置きます。

例示およびテストする機能およびフィーチャーの一部の例を以下に示します。

- 構文検査機能
- XRF
- IRLM
- 高速機能
- 共用キュー (共通キュー・サーバー)
- High Availability Large Database (HALDB)
- IMS Connect
- IMS システム再始動およびリカバリー
- 共通サービス層
- 拡張コマンド環境

- IMS DB リソース・アダプター (IMS JDBC Connector と呼ばれていたもの)
- 動的リソース定義 (DRD) (Dynamic resource definition (DRD))
- IMS オープン・データベース
- IMSRSC リポジトリ
- IMS カタログ

関連概念

25 ページの『IVP によって提供されるサンプル・アプリケーション』

IVP によって提供されるサンプル・アプリケーションは、IVP サンプル・システムを使用して、IMS 製品インストールを検査します。

CICS: DBCTL のインストールと CICS システム・リソースおよび IMS システム・リソースの定義

関連タスク

11 ページの『IVP を使用して、検証可能な処理サンプル IMS システムを構築する』

IVP を使用して、検証可能な処理サンプル IMS システムを構築できます。このシステムによって、ご使用のシステムを検証し、IMS システムが操作可能であることを確認できます。検証可能な処理サンプル IMS を構築する前に、複数の手順とプロセスを完了する必要があります。

ODBA インターフェースを介した IMS データベースへのアクセス (コミュニケーションおよびコネクション)

関連資料

100 ページの『IVP ジョブおよびタスク』

このセクションでは、IVP プロセスで使用できるすべてのジョブおよびタスクについて説明します。

第3章 IVP を使用して、検証可能な処理サンプル IMS システムを構築する

IVP を使用して、検証可能な処理サンプル IMS システムを構築できます。このシステムによって、ご使用のシステムを検証し、IMS システムが操作可能であることを確認できます。検証可能な処理サンプル IMS を構築する前に、複数の手順とプロセスを完了する必要があります。

始める前に

前提条件:

- 選択したパッケージング・オフリング (CBPDO または ServerPac) の指示に従い、IMS の製品インストールを完了してください。
- SMP/E を使用することによって、IMS 製品インストール時に、環境に対応した FMID がインストールされていることを確認してください。例えば、IRLM、ETO 機能、または IMS Java™ オンデマンド機能を使用する場合、対応する FMID をインストールする必要があります。

このタスクについて

関連概念

8 ページの『IVP 出力』

IVP システムは、豊富で多様なジョブおよびタスクのセットを提供します。このジョブおよびタスクを完了すると、z/OS 環境に統合されて、IVP パネルから選択した環境でテストされた、全機能装備の IMS システムが提供されます。

IVP ダイアログの開始

ISPF ダイアログまたは「IMS Application Menu」から EXEC コマンドを発行して、IVP ダイアログを開始します。

このタスクについて

ISPF 内からの EXEC コマンドによる IVP の開始

単純なコマンドによる部分的な構文または完全な構文を使用して、ISPF 内から IVP ダイアログを開始できます。

このタスクについて

部分的な構文を使用して IVP ダイアログを開始するには、以下の手順を実行します。

1. ISPF アプリケーション・ダイアログを開きます。
2. ISPF パネルのオプション 6 で以下の TSO EXEC コマンドを発行します。

```
----- TSO COMMAND PROCESSOR -----  
ENTER TSO COMMAND OR CLIST BELOW:  
===> EXEC 'qqq.SDFSCLST(DFSIXC01)' 'HLQ(qqq)'
```

図 1. ISPF パネルから IVP ダイアログを開始するための単純なコマンド

qqq は、IVP ライブラリー、システム・ライブラリー、および配布ライブラリーの高位修飾子です。

完全な構文呼び出しを使用して、環境に追加パラメーターを指定することが必要な場合もあります。完全構文方式を使用すると、IVP 開始 CLIST を呼び出して、フルセットまたはサブセットのいずれかの IVP システム・パラメーターを使用できます。例えば、表および他の IVP システム・データ・セットに対して異なる高位修飾子を指定する必要がある場合、診断のために DEBUG パラメーターを呼び出す必要がある場合などに、完全構文方式を使用します。IVP ダイアログは、ダイアログ処理をサポートするために必要なデータ・セットを動的に割り振ります。したがって、IMS ISPF データ・セットをユーザーの TSO ログオン・プロシージャーに入れる必要はありません。

コマンドを呼び出した後、IMS ウェルカム・パネルの後に、IBM 著作権パネルが表示されます。Enter を押して、「IVP Environment Options」パネルに移動します。

関連資料

[159 ページの『IVP 開始 CLIST を呼び出すための TSO EXEC コマンド構文』](#)

以下の構文図は、TSO EXEC コマンドを使用して IVP 開始 CLIST を呼び出す方法を示しています。

「IMS Application Menu」からの IVP の開始

IVP ダイアログは、「IMS Application Menu」から開始できます。

このタスクについて

「IMS Application Menu」を開始します。

1. ISPF アプリケーション・ダイアログを開きます。
2. 以下の TSO EXEC コマンドを発行して、「IMS Application Menu」を開始します。

```
EXEC 'qqq.SDFSEXEC(DFSAPPL)' 'HLQ(ddd)'
```

「IMS Application Menu」が開きます。

```
Help
-----
                    IMS Application Menu
COMMAND ===>-----
Select the desired application and press Enter.
 1 Single Point of Control (SPOC)
 2 Manage resources
 3 Reserved for future use
 4 HALDB Partition Definition utility (PDU)
 5 Syntax Checker for IMS parameters (SC)
 6 Installation Verification Program (IVP)
 7 IVP Export utility (IVPEX)
 8 IPCS with IMS Dump Formatter (IPCS)
 9 Abend Search and Notification (ASN)
```

図 2. IMS Application Menu

3. 「IMS Application Menu」で、オプション 6 を選択して IVP を開始します。

タスクの結果

IVP 環境オプション・パネルが表示されます。

関連タスク

[13 ページの『環境オプションの選択』](#)

環境に適用するオプションを選択します。IVP は、ユーザーの選択に基づいてサブオプションとタスクを提供し、インストール検査用のサンプル IMS システムを構築します。

関連資料

[160 ページの『「IMS Application Menu」を開始するための REXX EXEC コマンド構文』](#)

以下の構文は、「IMS Application Menu」を開始するための REXX EXEC コマンドに適用されます。

IVP 初期化段階の開始

IVP 初期化段階では、インストール・オプション値およびサブオプション値を選択します。IVP はこれらの値を使用して、実行する必要がある特定のジョブおよびタスクのカスタマイズ済みの表を作成します。

このタスクについて

これらの表は、後続の段階に入力を提供します。さらに、変数収集段階の準備として、いくつかの変数がこの段階で初期化されます。

環境オプションの選択

環境に適用するオプションを選択します。IVP は、ユーザーの選択に基づいてサブオプションとタスクを提供し、インストール検査用のサンプル IMS システムを構築します。

このタスクについて

以下の図は、「IVP Environment Options」パネルを示します。このパネルは、IVP ダイアログの「基本オプション・メニュー」と呼ばれます。

```
IVP                      IVP Environment Options                      IMS 15
.1
Command ==>
DFSIX023: DFSIX01 - Prior session completed successfully for "DBB"
Select the desired option and press ENTER
Option. .
  IVP Environments
  1.  DBB - Database Management (Batch)
  2.  DBC - Database Management (DBCTL)
  3.  DBT - Database and Transaction Management (DB/DC)
  4.  XRF - DB/DC with Extended Recovery Facility (DB/DC with XRF)
  5.  DCC - Transaction Management (DCCTL)
```

図 3. IVP 環境オプション・パネル

IVP 環境オプションを選択するには、以下の手順を実行します。

1. 「IVP Environment Options」パネルで、目的のオプションの番号を入力します。

環境オプション・パネル内 (オプション 5 を除く) の各オプションは、それ以前にリストされたオプションを含みます。例えば、オプション 3 を選択した場合、IMS バッチ、DBCTL、および DB/DC IVP 環境をビルドすることになります。ビルドするシステムを表す最も大きい番号を選んでください。オプション 5 に関しては、オプション 1、2、3、および 4 の環境をビルドしません。

環境オプション・パネルは、以下の基本オプションをサポートします。

a. DBB - IMS バッチ環境

この環境は、IMS フル機能データベースのバッチ・ジョブ・アクセスをサポートします。また、Db2 for z/OS アプリケーションのサポートにも使用できます。

b. DBC - IMS DBCTL 環境

この環境は、IMS 全機能データベース、DEDB、および MSDB のオンライン・アクセスをサポートします。データベースおよびバッチ指向 BMP。また、IBM CICS® Transaction Server for z/OS/DBCTL、ODBA、Db2 for z/OS、バッチおよびその他のアプリケーションをサポートする基礎としても使用できます。この環境は、DBB 環境のすべての機能を含んでいます。

c. DBT - IMS DB/DC 環境

この環境は、IMS 全機能データベース、DEDB、および MSDB のオンライン・アクセスをサポートします。IMS DB/DC は、メッセージ起動型のアプリケーションとバッチ指向のアプリケーションの両方をサポートする、完全な IMS トランザクションおよびデータベース管理環境です。また、CICS/

DBCTL、ODBA、Db2 for z/OS、バッチおよびその他のアプリケーションをサポートするのも使用できます。この環境は、DBB および DBC 環境のすべての機能を含んでいます。

d. XRF - IMS XRF 環境

このオプションは、XRF サポートを含むように DBT (DB/DC) 環境を拡張します。単一の CPC 構成 (同じ CPC 上のアクティブ IMS サブシステムと代替 IMS サブシステム) が使用されます。これは、IMS TM 環境、CICS/DBCTL、ODBA、Db2 for z/OS、およびバッチ・アプリケーションのサポートにも使用できます。この環境は、DBB、DBC、および DBT 環境のすべての機能を含んでいます。

e. DCC - IMS DCCTL 環境

IMS DCCTL は、メッセージ・ドリブンのアプリケーションとバッチ指向のアプリケーションの両方をサポートする、完全な IMS トランザクション管理環境です。これは、Db2 for z/OS アプリケーションをサポートするベースとして使用できます。

2. オプションを選択してから、**Enter** を押して続行します。

以前に IVP ダイアログを実行して、「IVP Environment Options」パネルで選択を行った場合は、「Environment Option Change Verification」パネルが開きます。

以前に IVP ダイアログを実行していない場合は、「Sub-option Selection」パネルが開きます。次のトピック [14 ページの『環境オプション変更の検査』](#) をスキップして、直接 [15 ページの『サブオプションの選択』](#) に進んでください。

関連タスク

[12 ページの『IMS Application Menu』からの IVP の開始](#)

IVP ダイアログは、「IMS Application Menu」から開始できます。

関連資料

[134 ページの『IVP 環境オプション』](#)

IVP プロセスの初期化段階では、ユーザーは業務ニーズに固有の環境オプションを選択します。

環境オプション変更の検査

以前に選択していなかった環境オプションを選択すると、「Environment Option Change Verification」パネルが開きます。

このタスクについて

以下の図は、新しいオプション XRF を選択し、前回の選択オプションが DBB であった場合を示しています。

```
Help
-----
IVP -- Environment Option Change Verification - XRF--IMS 15
.1
COMMAND ==>

The Environment Option you have just chosen is not the same as
the Option which was last active:

      XRF - Requested Option
      DBB - Previous Option

To confirm your change of Options to XRF : Press ENTER
To return to the Environment Option Selection menu: Press END
```

図 4. 「Environment Option Change Verification」パネル

環境オプションの変更を検査するには、以下の手順を実行します。

1. パネルの内容と要求したオプション変更を検討します。
2. 要求したオプション変更が正しい場合、**Enter** を押して選択を確認します。

要求したオプションが正しくない場合は、**End** を押して「Environment Option Selection」パネルに戻ります。

関連タスク

13 ページの『環境オプションの選択』

環境に適用するオプションを選択します。IVP は、ユーザーの選択に基づいてサブオプションとタスクを提供し、インストール検査用のサンプル IMS システムを構築します。

サブオプションの選択

基本オプション選択に追加するサブオプションを選択します。

このタスクについて

サブオプションでは、IRLM、高速機能、およびその他の IMS 機能を使用するかどうかを指定します。SMP/E を使用して、IMS 製品インストール時に、選択したサブオプションに対応する FMID がインストールされていることを確認してください。

次の図に、IVP ダイアログのサブオプション選択パネルを示します。

```
Help
-----
IVP ----- Sub-Option Selection - XRF ----- IMS 15
.1
COMMAND ==>

  Select the desired Sub-Options and press ENTER
/ IRLM - Use IRLM in IVP Applications
/ FP - Use Fast Path in IVP Applications
/ ETO Feature Installed
CQS - Add CQS to CSL Application
RACF - Use RACF Security
JAVA - Use JAVA Applications and Open Database
PRA - Use Parallel RECON Access
ICON - Use IMS Connect
REPO - Use IMSRSC Repository
COUT - Use Callout Applications

NOTE: Your Sub-Option selection affects the user variables,
jobs, and tasks that will be presented. If you later change
your selection, you must redo the IVP Table Merge, Variable
Gathering, File Tailoring, and Execution processes.
```

図 5. IVP サブオプション選択パネル

サブオプションを選択するには、以下の手順を実行します。

1. パネルで、選択するサブオプションの横にスラッシュ (/) を入力します。サポートされるサブオプションは次の通りです。
 - IVP アプリケーションでの初期リソース・ロック・マネージャー (IRLM) の使用
IRLM を選択すると、IVP は IRLM 用の構成を作成します。
 - デフォルトでは、このサブオプションを DB バッチ、DBCTL、DB/DC、および XRF 付き DB/DC に対して使用します。このサブオプションは、DCCTL には使用できません。
 - このサブオプションを選択した場合、IRLM はシステム定義の際に定義され、IRLM を単一ロック管理プログラムとして使用し、IVP が実行されます。このサブオプションを選択しない場合は、IRLM は使用されず、単一ロック管理プログラムとしてプログラム分離 (PI) が使用されます。
 - IRLM は、ブロック・レベルのデータ共有を使用する予定がある場合にも、必要です。IVP は、ブロック・レベルのデータ共有をサポートするよう構成されます。ユーザーは、単一ロック管理プログラムとして PI の代わりに IRLM を使用することを、オプションで選択できます。
 - IVP アプリケーションでの高速機能の使用

このオプションを選択すると、IVP は高速機能サンプル・アプリケーションに必要なジョブおよびタスクを追加します。デフォルトでは、このサブオプションを DBCTL、DB/DC、および XRF 付き DB/DC に対して使用します。このサブオプションは、DCCTL には使用できません。

- インストール済み ETO 機能

このオプションを選択すると、IVP は IMS 拡張端末オプション (IMS ETO) に必要なジョブおよびタスクを追加します。

- DB/DC および XRF 付き DB/DC に対しては、デフォルトでこのサブオプションを使用します。このサブオプションは、DB バッチまたは DBCTL には使用できません。
- DCCTL に対しては、デフォルトではこのサブオプションを使用しません。

- CSL アプリケーションへの CQS の追加

このオプションを選択すると、IVP は CSL サンプル・アプリケーションが CQS を使用するために必要なジョブとタスクを追加します。

デフォルトでは、このサブオプションを使用しません。

- RACF® トランザクション・セキュリティの使用

このサブオプションを選択すると、IVP は RACF へのリソースの定義に必要なジョブとタスク、および複数の IMS セキュリティ・ユーザー出口ルーチンの使用のセットアップに必要なジョブとタスクを作成します。

- デフォルトでは、このサブオプションを使用しません。
- このサブオプションは、DB バッチには使用できません。
- サンプル RACF リソース定義タスクは変更することができます。
- サンプル・ユーザー出口ルーチンは、常にリソースに対してユーザーを許可します。

- Java アプリケーションおよびオープン・データベースの使用

このサブオプションを選択すると、IVP は以下を行うために必要なジョブとタスクを追加します。

- a. Java 開発用の IMS ソリューション用のサンプル・アプリケーションおよび Java サンプル・アプリケーションに使用されるデータベースのセットアップ用のサンプル・アプリケーションの実行。
- b. サンプル・オープン・データベース・アプリケーションの開始。

デフォルトでは、このサブオプションを使用しません。

このサブオプションは、DB バッチまたは DCCTL 環境には使用できません。

- 並列 RECON アクセスの使用

このサブオプションを選択すると、IVP は開始、初期化、調整および並列 RECON アクセスのための関連サービスやコンポーネントの検証に必要なジョブとタスクを追加します。

- IMS Connect の使用

このサブオプションを選択すると、IVP は、サンプル IMS Connect アプリケーションの開始に必要なジョブおよびタスクを追加します。

- IMSRSC リポジトリの使用

このサブオプションを選択すると、IVP は IMSRSC リポジトリを実行する環境をセットアップするために必要なジョブおよびタスクを追加します。

- コールアウト・アプリケーションの使用

このサブオプションを選択すると、IVP はコールアウト・サンプルを実行する環境をセットアップするために必要なジョブとタスクを追加します。これには、コールアウト・メッセージの経路指定に必要な OTMA 宛先記述子が含まれます。

2. 適切なサブオプションを選択した後、あるいは表示されるデフォルトのサブオプションを受け入れるために、**Enter** を押します。
3. 「Table Merge Request」パネルが表示され、表マージを実行して選択オプションおよびタスクを収めた表を作成するかどうかを選択できます。

表示された選択内容を変更した場合、「Sub-Option Change Verification」パネルが開きます。ダイアログはユーザーに対して変更の要求の確認を求めてきます。表マージ、変数収集段階、ファイル調整段階、または実行段階の完了後に選択内容を変更する場合は、その段階のジョブおよびタスクを再実行する必要があります。

表マージの要求

環境オプションとサブオプションを選択すると、IVP ダイアログで表マージの処理を実行するかどうかを選択できます。

このタスクについて

表マージを要求するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「Table Merge Request」パネルで、1 と入力して **Enter** を押します。

表マージの進行中は、「Table Merge in Progress」パネルが開き、キーボードがロックされます。このパネルは、表が更新されると更新されます。

次の図は、「Table Merge Process Indicator」パネルの例です。

```
IVP ----- FT Table Merge In Progress - XRF ----- IMS 15
.1

          Table Merge Progress Indicator

Variable Gathering Table: DFSIXBV1
Current row . . . . . : Done.....
Percent completed . . : 100

File Tailoring Table . . : DFSIXBF1
Current row . . . . . : DFSIXS01
Percent completed . . : 19

Execution Table. . . . . : DFSIXBE1
Current row . . . . . : Patience...
Percent completed . . : 000

Please do not interrupt this process
```

図 6. 表マージ進行状況表示パネル

2. 表マージ・プロセスが完了すると、「Table Merge Completed」パネルが表示されます。**Enter** を押して、続行します。

タスクの結果

関連概念

6 ページの『表のマージ・プロセス』

表のマージが必要になるのは、IVP の初回実行時、以前に選択していなかった既存の環境オプションまたはサブオプションの変更時、およびサービスのインストールで必要になったときです。

IVP 段階および位置付けオプションの選択

IVP 段階を選択し、IVP 段階の先頭から、または段階内の最新の位置から始動または再始動します。

このタスクについて

次の図は、IVP ダイアログの「IVP Phase Selection」パネルを示します。

```
Help
-----
IVP                               IVP Phase Selection - XRF                               IMS 15
.1
COMMAND ==>

Select the desired Phase and positioning option and press ENTER

1_ 1. Variable Export Utility (Export variables to a data set)

    VG - Variable Gathering-(Define user values for variables)
    2.  VG1  EX1 Start/Restart from the beginning of the phase

    3.  VG2  FT2 Start/Restart from the last known position within the phase

    FT - File Tailoring - (Create customized INSTALIB members)
    4.  FT1 Start/Restart from the beginning of the phase
    5.  FT2 Start/Restart from the last known position within the phase
    6.  FT3 Start/Restart from the beginning of a selected step

    EX - Execution - (Run the IVP jobs)
    7.  EX1 Start/Restart from the beginning of the phase
    8.  EX2 Start/Restart from the last known position within the phase
    9.  EX3 Start/Restart from the beginning of a selected step
```

図 7. IMS XRF 環境の「IVP Phase Selection」パネル

ヒント:

- ダイアログは、必ずデフォルトの事前選択を行います。初期化段階の完了直後では、デフォルトは変数収集段階の先頭からの開始です。ユーザーはこのデフォルト選択に上書きで入力して、このダイアログの選択をユーザー独自の選択にオーバーライドすることができます。
- 変数収集、ファイル調整、および実行の各段階は順序どおりに実行する必要があります。ただし、各段階を終了して「IVP Phase Selection」パネルに戻り、次の段階を選択したり、前の段階に戻ったりすることができます。

IVP 段階と段階内の位置を選択するには、「IVP Phase Selection」パネルで、実行する段階と位置に関連付けられた番号を入力します。

無効な段階を選択した場合は、通知パネルが開き、エラーが通知されます。**Enter** を押して「Phase Selection」パネルに戻り、適切な選択番号を入力します。

変数の収集

変数の収集には、ファイル調整段階でより高度なカスタマイズに必要な JCL および他の資料を準備するための変更作業が伴います。

このタスクについて

変数収集段階に入ると、IVP パネルには、初期化段階での選択内容に基づいた変数が表示されます。これらの変数は、ファイル調整段階で IVP を環境に合わせてカスタマイズし、INSTALIB データ・セットにメンバーを作成するために後で使用されます。IVP 変数収集のエクスポート/インポート機能を使用すると、以前の IVP ダイアログの反復から変数をインポートできます。

変数収集を完了するには、以下の手順を実行します。

手順

1. オプション: 以前の IMS インストールおよび IVP による検査から変数をインポートします。
2. 「IVP Phase Selection」パネルで、オプション **1** またはオプション **2** を選択します。段階内の各選択内容によって位置付けオプションが異なります。「Variable Gathering」パネルが開きます。
3. 「Variable Gathering (LST mode)」パネルで、表示された変数を検討します。適切な更新を行うための表示モードおよびアクション・コマンドを使用します。変数の説明を表示するか、このパネルの任意のメンバーを編集することができます。PF7 および PF8 を押すと、変数を複数ページの単位でスクロールで

きます。ただし、特定の変数を検索することはできません。いつでも End を押すと「IVP Phase Selection」パネルに戻り、更新を保管できます。

4. 作業が完了したら、PF3、Enter の順に押してこの段階を終了します。

タスクの結果

「IVP Phase Selection」パネルが表示され、ファイル調整段階に進むことができます。

関連タスク

[19 ページの『IVP 変数のエクスポートおよびインポート』](#)

以前に使用した IVP 変数を、IVP 変数エクスポート・ユーティリティを使用して順次データ・セットにエクスポートすることにより、後でインポートすることができます。

関連資料

[136 ページの『変数収集のダイアログ・オプション』](#)

変数収集段階で選択可能なアクション・コマンドおよびモードを使用します。

IVP 変数のエクスポートおよびインポート

以前に使用した IVP 変数を、IVP 変数エクスポート・ユーティリティを使用して順次データ・セットにエクスポートすることにより、後でインポートすることができます。

このタスクについて

IVP 変数は、IMS リリース間、または同じ IMS リリースの異なる IVP ダイアログ・セッション間でエクスポートおよびインポートできます。IVP 変数エクスポート・ユーティリティ (20 ページの図 8 を参照) を使用して、以前に使用した IVP 変数セットを順次データ・セットにコピーまたはエクスポートします。このデータ・セットは、後からターゲット IVP セッションの IVP テーブル・データ・セットにインポートできます。

IVP セッションから変数をエクスポートして、ターゲット IVP セッションにインポートするには、以下の手順を実行します。

1. ISPF パネルから DFSIVPEX コマンドを発行して、IVP 変数エクスポート・ユーティリティを起動します。

ヒント: ISPF 画面分割機能を使用すると、IVP を終了せずに IVP 変数エクスポート・ユーティリティを呼び出せます。

- a. ISPF アプリケーション・ダイアログを開きます。
- b. 以下の TSO EXEC コマンドを発行する。

```
EXEC 'qqq.SDFSEXEC(DFSIVPEX)' 'HLQ(qqq)'
```

▶ EXEC — 'qqq.SDFSEXEC(DFSIVPEX)' — '—HLQ(qqq)' —▶

qqq は、IMS システム (SYS) ライブラリーの高位修飾子です。デフォルトは IVPSYS13 です。
HLQ(qqq) はシステム・ライブラリーの高位修飾子を識別します。

IVP 変数エクスポート・ユーティリティのパネルが開きます。次の図に、IVP 変数エクスポート・ユーティリティのパネルを示します。

```

                                IVP Variable Export Utility
Command ==>

Enter the following information, then press enter.

_ 1. Select the IVP Environment
   1.  DBB - Database Management (Batch)
   2.  DBC - Database Management (DBCTL)
   3.  DBT - Database and Transaction Management (DB/DC)
   4.  XRF - DB/DC with Extended Recovery Facility (DB/DC with XRF)
   5.  DCC - Transaction Management (DCCTL)

   2. Specify the IVP High Level Qualifier (HLQ) of the INSTATBL data set
      -----

   3. Specify the export data set. For a PDS, include the member name.
      If the dataset does not exist, you will be prompted to create the dataset.
      -----

```

図 8. IVP 変数エクスポート・ユーティリティのパネル

ヒント: IVP 変数エクスポート・ユーティリティは、以下のいずれかの方法でも起動できます。

- 「Variable Gathering (LST mode)」パネルでエクスポート (**Exp**) アクション・コマンドを選択します。
- 「Phase Selection」パネルでオプション A を選択します。
- 「IMS Application Menu」から、「IVP Variable Export Utility」オプションを選択します。

2. IVP 変数エクスポート・ユーティリティのパネルでは、以下の情報を提供してください。

- a. 環境オプションを選択します。IVP プロセスの初期化段階で選択したものと同一オプションを選択します。各環境オプションごとに変数が異なるため、環境オプションによってエクスポートする変数が特定されます。
- b. IVP 高位修飾子 (HLQ) を選択します。これにより、変数のエクスポート元となる IVP テーブル・データ・セット (INSTATBL) が特定されます。
- c. エクスポート・データ・セットの名前を TSO 形式で入力します。

TSO データ・セット・フォーマットのエクスポート・データ・セット名を入力してください。データ・セット名は単一引用符で囲む必要があります。データ・セットが区分データ・セットである場合は、メンバー名を含めてください。例えば、XXX.YYY.ZZZ が区分データ・セットで、QQQ がそのメンバー名である場合は、次のように名前を入力します。

```
'XXX.YYY.ZZZ(QQQ)'
```

Enter を押して、現行 IVP 環境の変数をターゲット IVP セッションにエクスポートします。

3. オプション: 「IVP Export Data Set Allocation」パネルからエクスポート・データ・セットを割り振ります。エクスポート・データ・セットが存在しない場合は、「IVP Export Data Set Allocation」パネルは次の図のように開きます。

```

                                IVP Export Data Set Allocation
Command ==>

Export data set does not exist.

Select an option to allocate the data set:

   1.  DSUTIL - ISPF data set utility panel (3.2)
   2.  ALLOC - Allocate using TSO allocate command

TSO Allocate Command:
ALLOC DATASET ('IMS.IVP.EXPORT14') NEW CATALOG SPACE(1 1) TRACKS RECFM(F B)
LRECL(80) BLKSIZE(0)_____
_____
_____

```

図 9. IVP エクスポート・データ・セット割り振りパネル

- a. 以下のいずれかのオプションを選択して、データ・セットを割り振ります。

- i) **DSUTIL**: DSUTIL オプションを選択すると、「ISPF Utility Data Set Utility」パネルが開きます。エクスポート・データ・セットに以下の属性を指定します。
 - DSORG: 順次または区分
 - RECFM: FB
 - LRECL: 80
 - BLKSIZE: 80 の倍数
 - ii) **ALLOC**: ALLOC オプションを選択する場合、「**TSO Allocate Command**」フィールドにデータ・セットの名前を入力します。このパネルで指定するデータ・セット名は、TSO ALLOCATE コマンドを発行してデータ・セットを割り振るために使用されます。エクスポート・データ・セット名にメンバー名が含まれている場合は、TSO ALLOCATE コマンドは PDS データ・セットを割り振ります。このオプションを選択する前に、パネル上でコマンドを編集できます。
 - b. **Enter** を押して、データ・セットを割り振ります。「IVP Variable Export Utility」パネルが開き、データ・セットが正常に割り振られたことを示すメッセージが表示されます。
 - c. **PF3** または **End** を押して、「IVP Variable Gathering」パネルに戻ります。
4. オプション: 現行 IVP 環境が変数のエクスポート先の環境と一致しない場合は、「IVP Import Environment Mismatch」パネルが開きます。インポート・プロセスを継続するか取り消すかを選択できます。エクスポートされた変数は、それらに固有の IVP 環境と関連付けられます。

次の図に、IVP インポート環境ミスマッチ・パネルを示します。

```

IVP Import Environment Mismatch      IMS 15
.1
IVP
Command ==>

The current IVP environment and the export data set IVP environment do not match.
Current Environment:
Export Environment:

Select an option:
  1. Continue import
  2. Cancel import

```

図 10. IVP インポート環境ミスマッチ・パネル

IVP 環境間または IMS リリース間に不一致が生じた場合は、以下の処理が実行されます。

- 現行 IMS リリースで無効な変数、または現在処理対象となっている現行 IVP 環境およびサブオプションにとって無効な変数は、すべて無視されます。
 - エクスポート・データ・セット内で指定されている値を持つ変数は、ユーザーが変更した変数であったとしても、すべてエクスポート値によって置き換えられます。
 - 各変数の値は、現在処理対象となっているリリース内の変数にとっての有効値と比較検査されます。
 - インポート・プロセスの終了後、エクスポート・データ・セット内で指定されていなかった値を持つ変数はすべて未変更のまま、その値はインポートの前と同じです。
5. エクスポート・データ・セットからターゲット IVP セッションに変数をインポートします。
- a. 「Variable Gathering (LST mode)」パネルの任意の変数のアクション・フィールドで、インポート・アクション・コマンド (**Imp**) を発行します。このコマンドにより、IVP エクスポート・データ・セットからすべての変数がインポートされます。ただし、特定の変数はインポートされません。

IVP エクスポート・データ・セット名パネルが表示されて、IVP エクスポート・データ・セットの名前の入力を求めるプロンプトが出されます。
 - b. TSO データ・セット・フォーマットのエクスポート・データ・セット名の名前を入力してください。データ・セット名は単一引用符で囲んでください。データ・セットが区分データ・セットである場合は、メンバー名を含めてください。

タスクの結果

以前の IVP 環境の IVP 変数が、新しい IMS リリースにインポートされます。

関連タスク

変数の一括変更

新しいIMS システムに変数をインポートする前に変数を一括変更する (例えば、リリースを「11」から「12」に変更する場合など) には、変数収集段階でエクスポートおよびインポート処理を使用します。

変数の一括変更

新しいIMS システムに変数をインポートする前に変数を一括変更する (例えば、リリースを「11」から「12」に変更する場合など) には、変数収集段階でエクスポートおよびインポート処理を使用します。

このタスクについて

新しいIMS にインポートする前に、変数を一括変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 使用する IMS バージョンに適した方式で、変数をエクスポート・データ・セットにエクスポートします。

エクスポート・データ・セットの内容は、例えば次のように表示されます。

```
000001 <ivpenv>DBT</ivpenv>
000002 <var>IXUMCP2</var> <val>IMSIVP.IVP11,IMSIVP,DFLT,CYL,3</val>
000003 <var>IXUMCP1</var> <val>IMSIVP.IVP11,IMSIVP,DFLT,CYL,3</val>
000004 <var>IXUSPL3</var> <val>IMSIVP.IVP11,IMSIVP,DFLT,CYL,1</val>
000005 <var>IXUSPL2</var> <val>IMSIVP.IVP11,IMSIVP,DFLT,CYL,1</val>
```

エクスポート・データ・セットでは次のとおりです。

- <ivpenv></ivpenv> タグは、IVP 環境を示します。
 - <var></var> タグは変数名を示します。
 - <val></val> タグは変数値を示します。
2. ISPF エディターを使用して、これらの変数を変更します。
 3. インポート・アクション・コマンド **Imp** を使用して、変数をターゲット IVP にインポートします。

関連タスク

IVP 変数のエクスポートおよびインポート

以前に使用した IVP 変数を、IVP 変数エクスポート・ユーティリティーを使用して順次データ・セットにエクスポートすることにより、後でインポートすることができます。

ファイル調整

ファイル調整段階では、IVP はユーザーが変数収集段階で指定した変数を使用して、カスタマイズ済みの IVP JCL およびタスクのセットを準備し、実行段階用に INSTALIB データ・セットのメンバーとして保管します。

このタスクについて

ISPF ファイル調整機能は、ユーザーがこの段階で選択するオプションに基づいて INSTALIB データ・セットのメンバーを更新または作成することで、この入力を作成します。

INSTALIB メンバーは、選択された環境オプションに応じて、IVP によって以下のように命名されます。

```
IV1ssnnt - DBB - バッチ・システム
IV2ssnnt - DBC - DBCTL システム
IV3ssnnt - DBT - DB/DC システム
IV4ssnnt - XRF - XRF システム
IV9ssnnt - DCC - DCCTL システム
```

ここで、

ss

ステップ番号

nn

ステップ内での JOB/TASK/INDEX 項目番号。

項目番号が昇順になるとは限りません。サービス変更により、外見上の順序がバラバラになることがあります。

t

Jはジョブ、Tはタスク、Nはジョブ以外(例など)

ファイル調整を実行するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「IVP Phase Selection」パネルで、段階を選択します。段階内の各選択ごとに、位置付けオプションが異なります。

| オプション | 説明 |
|-------|----------------------|
| 3 を選択 | 段階の先頭から始動または再始動します。 |
| 4 を選択 | 段階内の最新の位置から再始動します。 |
| 5 を選択 | 選択したステップの先頭から再始動します。 |

3 を選択する場合に、初めてファイル調整を実行するとき、または新しい IVP 環境オプションを選択したときは、「File Tailoring All Request」パネルが開きます。

- a. オプション **1** を選択して、全ファイル調整アクションを実行します。このアクションにより、すべての項目が処理されます。「File Tailoring in Progress」パネルが開き、「Please do not interrupt this process」というメッセージが表示され、キーボードがロックされます。ファイル調整が完了すると、「FT Complete Verification」パネルが開きます。
 - b. 「FT Complete Verification」パネルで、Enter を押して、「File Tailoring」パネルに進みます。
2. 「File Tailoring」パネルで、各種アクション・コマンドを使用して、このパネルのいずれかのメンバーのブラウザ、説明の表示、または編集を行います。
 3. 作業が完了したら、End または PF3 を押します。

タスクの結果

「IVP Phase Selection」パネルが開き、IVP 実行段階に進むことができます。

関連資料

140 ページの『ファイル調整のダイアログ・オプション』

ファイル調整段階で選択可能なアクション・コマンドおよびモードを使用します。

調整済みのジョブおよびタスクの実行

ファイル調整段階で準備されたジョブおよびタスクは、実行段階で個別に処理する必要があります。

このタスクについて

IVP ジョブおよびタスクを実行するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「IVP Phase Selection」パネルで、オプション **6**、**7**、または **8** を選択します。段階内の各選択ごとに、位置付けオプションが異なります。「Execution」パネルが開き、IVP ジョブおよびタスクのリストが表示されます。

- それぞれのジョブおよびタスクを開きます。各ジョブおよびタスクごとに説明を表示するには、**ENT** アクション・コマンドを使用します。適切な表示モードおよびアクション・コマンドを使用します。
 - IVP ジョブの場合:** ジョブをブラウズ、編集、または実行依頼できます。ジョブを実行する用意が整ったら、**EXE** アクションを使用してジョブを実行依頼するか、またはジョブを編集して実行依頼することができます。それぞれのジョブには、それを実行するときにユーザーの援助となる、スクロール可能な説明が付いています。

一部の項目は、実行可能ではないサンプルです。これらの例の場合、実行依頼アクションは使用できませんが、ブラウズと編集のアクションは使用できます。ISPF 分割画面モードを使用して、実行不能な項目の実行可能バージョンを作成することができます。
 - IVP タスクの場合:** タスクの実行においてユーザーの援助となる、スクロール可能な説明が提供されます。
- 用意が整ったら、End または PF3 を押します。次に、すべてのジョブおよびタスクの実行が完了した場合は、もう一度 Enter を押します。あるいは、後から実行段階を完了する場合は、End を押して作業を保管します。

「IVP Phase Selection」パネルの位置付けオプションを使用すると、同じ位置に戻り、前回の時点からジョブまたはタスクを実行できます。

関連資料

143 ページの『[実行段階のダイアログ・オプション](#)』

実行段階で選択可能なアクション・コマンドおよびモードを使用します。

IVP ダイアログ・セッションの終了

IVP ダイアログ・セッションはどのパネルからでも終了できます。

このタスクについて

IVP ダイアログ・セッションを終了するには、以下の手順を実行します。

手順

- ダイアログからバックアウトするまで、**End** を繰り返し押します。**End** を押すたびに、その前に表示したパネルに戻ります。
- Return** を押して、ダイアログから完全にバックアウトします。

第4章 IVP によって提供されるサンプル・アプリケーション

IVP によって提供されるサンプル・アプリケーションは、IVP サンプル・システムを使用して、IMS 製品インストールを検査します。

サンプル・アプリケーションには、IVP ジョブおよびタスクを実行することによりすべて実行されるものや、IVP ダイアログ処理の外部で実行されるものがあります。IVP は、IMS の各種コンポーネントをテストする複数のサンプル・アプリケーションを提供します。これらのサンプル・アプリケーションは、さまざまな方式で実行できるステップで構成されます。サンプル・アプリケーションの多くは、バッチ処理およびオンライン処理を組み合わせで使用します。バッチ方式を使用してサンプル・アプリケーションを実行するには、ジョブを実行依頼します。

オンライン・サンプルを実行するには、IVP ダイアログのオンライン・ヘルプでステップバイステップの説明を参照して、サンプルのジョブとタスクの実行に役立ててください。例外は、Java 開発用の IMS ソリューションおよび IMS コールアウト用に提供されるサンプル・アプリケーションです。

関連概念

8 ページの『IVP 出力』

IVP システムは、豊富で多様なジョブおよびタスクのセットを提供します。このジョブおよびタスクを完了すると、z/OS 環境に統合されて、IVP パネルから選択した環境でテストされた、全機能装備の IMS システムが提供されます。

IVP により実行されるサンプル・アプリケーション

IVP により実行されるサンプル・アプリケーションには、IVP ジョブおよびタスクでサンプル・アプリケーションをセットアップおよび実行するために必要なすべてのステップが含まれます。

IVP サンプル・アプリケーション

IVP サンプル・アプリケーションは、トランザクションを送信して IMS 電話データベースに情報を要求する単純な電話帳アプリケーションです。

IVP 電話帳アプリケーションは、H シリーズの IVP ジョブおよびタスクを介して説明されます。実行段階で IVP ジョブおよびタスクを完了したら、IVP サンプル・アプリケーションはすべて実行され、IVP サンプル・アプリケーションに関連付けられた IMS コンポーネントのテストは完了です。このデータベースを照会して、ファーストネーム、ラストネーム、内線番号、郵便番号などのカスタマー情報を検索できます。電話データベースは、IVP ジョブおよびタスクの処理時にロードされます。

IVP サンプル・アプリケーションの実行によってテストされる機能には、複数の IMS データベースおよび環境が含まれます。

- テストされる IMS データベースは、HIDAM/OSAM、HDAM/VSAM、DEDB/VSAM、MSDB および GSAM データベースから構成されます。
- テストされる IMS 環境には、非会話型および会話型の MPP、会話型 JMP、非会話型 IFP (EMH)、DB バッチ、DLI バッチ、BMP、JBP、メッセージ・ドリブン WFI BMP、非会話型および会話型のメッセージ通信、IFP EMH メッセージ通信、WFI BMP GSAM、および BMP GSAM が含まれます。

IVP アプリケーション・プログラムのアクションは、入力データによって提供される処理コードによって決まります。処理コードは ADD、DELETE、UPDATE、DISPLAY、および TADD です。TADD を除き、処理コードを見るとどのアクションかわかるようになっています。TADD は、アプリケーション・プログラムにデータベースへのレコード追加と WTOR 要求の発行を行わせます。TADD プロセスが発行する WTOR に応答する場合は、任意の文字ストリングを使用できます。データベースは変更されますが、その変更はコミットされません。TADD 処理コードは、IVP スクリプトのリカバリー部分において使用されます。

主記憶データベース (MSDB) にアクセスする EMH プログラムでは、処理コードとして TADD の代わりに TUPD が使用されます。

オンライン・トランザクションは MFS ブロックを通じて行われます。例えば、IMS ユーザー端末で **/FOR IVTNO** と入力してから、処理コードとデータをフォーマット済みの画面に入力すると、DFSIVP1 プログラムが実行されます。

DFSIVP1 プログラムの処理が終わったら、クリア・キーを押して新たな **FORMAT** コマンドを入力し、別のアプリケーション・プログラムを実行します。

バッチ・プログラムまたは BMP プログラムは JCL を使用して実行します。DCCTL 環境内では、IVP データベースはプログラム DFSIVAD (メッセージ・ドリブン WFI BMP) 中のデータ域を使用してシミュレートされます。プログラム DFSIVAE、DFSIVAF、および DFSIVAG はメッセージ通信を実行し、そのトランザクション入力を、処理のために DFSIVAD に送信します。DFSIVAD は、拡張チェックポイント・リスタートの制御のもとでその入力を処理し、出力を発信元の端末に返します。

DFSIVA3 および DFSIVA6 の 2 つのシリーズのプログラムが IVP サンプル・アプリケーションに付属します。DFSIVA3 シリーズ・プログラムは、IMS コンポーネントをオンラインでテストします。DFSIVA6 シリーズ・プログラムは、JCL を使用するバッチ処理を介して実行されます。これらのプログラムは、いくつかの異なるプログラミング言語で提供されています。IVP はこれらのプログラムの一部をアセンブルおよびテストします。アセンブル済みのバージョンを使用しない場合、IVP の外部で IVP 実行をコンパイルおよびバインドする必要があります。

DFSIVA3 シリーズ・プログラムは、HDAM/VSAM データベースにアクセスする会話型 MPP を構成します。電話データベースは、MFS 画面フォーマットを使用してトランザクション入出力を介してアクセスおよび照会されます。MFS 画面の使用方法に関する説明は、IVP タスクに組み込まれています。レコードを表示または削除する場合、処理コードとラストネーム・フィールドのみが必須の入力です。レコードを追加または置換する場合は、すべての入力フィールドが必須です。

次の図は、IVP サンプル・アプリケーションの MFS 画面フォーマットを示します。

```

*****
*      IMS INSTALLATION VERIFICATION PROCEDURE      *
*****

                                TRANSACTION TYPE : NON-CONV (VSAM DB)
                                DATE              : mm/dd/yyyy

PROCESS CODE (*1) : ///////////////
LAST NAME        : ///////////////
FIRST NAME       : ///////////////
EXTENSION NUMBER : ///////////////
INTERNAL ZIP CODE : ///////////////
                  input area

////////////////////// SEGMENT# : 0001
message area
//////////////////////
system message area

```

図 11. IVP サンプル・アプリケーションの MFS 画面フォーマット

DFSIVA6 シリーズ・プログラムは、HIDAM/OSAM データベースにアクセスするバッチ・プログラムまたは BMP プログラムです。このプログラムは、GSAM を使用して、トランザクション入力を受け取り、トランザクション出力を表示します。これらのジョブの実行方法に関する説明は、IVP ジョブおよびタスクの IVP オンライン・ヘルプに用意されています。

関連資料

146 ページの『[IVP サンプル・アプリケーション表](#)』

SDFSISRC ターゲット・ライブラリーには、アプリケーションが使用する、プログラム、PSB、DBD、MFS のソース、およびその他のサポート資料が含まれています。

154 ページの『[IVP サンプル・アプリケーション・データベース](#)』

DCCTL 環境では、IVP データベースはプログラム DFSIVAD 中のデータ域を使用してシミュレートされます。

108 ページの『ステップ Hx ~ IVP 実行 - DBT システム (DB/DC)』

H シリーズのステップには、DBT (DB/DC) サンプル・システムの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

区分化サンプル・アプリケーション

IVP によって提供される区分化サンプル・アプリケーションは、非パーティション・データベースからパーティション・データベースへの移行を示します。

実行段階で IVP ジョブおよびタスクを完了したら、区分化サンプル・アプリケーションはすべて実行され、区分化サンプル・アプリケーションに関連付けられた IMS コンポーネントがテストされます。

このサンプルは、IVP サンプル・アプリケーションの HIDAM データベースおよびアプリケーションに基づいていますが、それに依存するものではありません。この区分化サンプル・アプリケーションは独立型です。つまり、IVP サンプル・アプリケーションを実行する必要はありません。

このサンプルには、パーティション・データベースの定義、作成、および検査のために実行する必要があるすべてのステップが組み込まれています。これらの説明は、IVP N シリーズのジョブおよびタスクのオンライン・ヘルプに用意されています。パーティション・データベースは、MFS 画面フォーマットを使用してセットアップおよび検査されます。

パーティション・データベースの定義には、以下のプロセスが含まれます。

1. 非区分 HIDAM データベースを作成し、初期設定します。
2. Migrate = YES を指定してデータベースをアンロードします。
3. RECON データ・セットから古いデータベースを削除します。
4. %DFSHALDB を使用して、パーティション・データベースを定義します。
5. パーティション・データベースを割り振ります。
6. パーティション・データベースを初期設定します。
7. パーティション・データベースを再ロードします。
8. パーティション・データベースのイメージ・コピーを作成します。

パーティション・データベースの検査には、MFS 画面を介した IMS の初期化とサンプル・トランザクションの実行、IMS の終了、およびクリーンアップ・アクティビティーの実行が含まれます。

関連概念

25 ページの『IVP サンプル・アプリケーション』

IVP サンプル・アプリケーションは、トランザクションを送信して IMS 電話データベースに情報を要求する単純な電話帳アプリケーションです。

関連資料

153 ページの『区分化サンプル・アプリケーション表』

IVP 区分化サンプル・アプリケーションが使用するパーツが、以下の表に示されています。

157 ページの『区分化サンプル・アプリケーション・データベース』

以下のデータベースに関する説明は、区分化サンプル・アプリケーションによって使用されるサンプル・データベースに慣れるために役立ちます。

113 ページの『ステップ Nx ~ 実行用 - パーティション・データベースのサンプル・アプリケーション』

N シリーズのステップには、IMS パーティション・データベース・サンプル・アプリケーションの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

IMS Connect サンプル・アプリケーション

IMS Connect サンプル・アプリケーションは、IMS Connect を使用する全機能 MPP トランザクションを実行することによって、IMS Connect が作動可能であることを示します。

IMS Connect サンプル・アプリケーションは、IVP の Q シリーズのジョブおよびタスクから実行されます。IVP の Q シリーズのジョブおよびタスクには、IMS Connect が正常に稼働していることを検査するために実行する必要があるすべてのステップが収められています。

IMS Connect サンプル・アプリケーションの基本的なメッセージ処理フローを以下に示します。

1. クライアント・アプリケーションが、AN960C10 という名前の部品に関する情報を取得するために、TCP/IP セッションを介してメッセージ要求 (入力メッセージ) を IMS Connect に送信します。
2. IMS Connect は、このメッセージをホスト IMS に渡して処理します。
3. ホスト IMS は、PART という名前のデータベースにアクセスして部品 AN960C10 から情報を取得するためにプログラムをスケジュールに入れます。
4. ホスト IMS は、応答メッセージまたは出力メッセージを IMS Connect に送信します。
5. IMS Connect は、この応答をアプリケーション・クライアントに渡します。

関連資料

[153 ページの『IMS Connect サンプル・アプリケーション表』](#)

以下の表に、IMS Connect サンプル・アプリケーションが使用するパーツを示します。これらのパーツはすべて、IVP ジョブおよびタスクによってインストールされます。

[119 ページの『ステップ Qx ~ 実行用 - IMS Connect サンプル・アプリケーションを使用する全機能 MPP トランザクション』](#)

Q シリーズのステップには、IMS Connect サンプル・アプリケーションを使用する全機能 MPP トランザクションの実行時に使用する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

RDDS を使用した動的リソース定義サンプル・アプリケーション

動的リソース定義 (DRD) サンプル・アプリケーションは、リソース定義データ・セット (RDDS) を使用した DRD のセットアップ方法および操作方法を示します。

IVP では、以下の手順を使用して、DRD 機能を使用するオンライン IMS 実行シナリオを作成します。

1. IVP は、新しいリソースの DBD および PSB を作成してリソースを準備します。
このステップは、E シリーズのジョブとタスクで説明されます。
2. IVP は以下の方法で DRD の環境をセットアップします。
 - a. PROCLIB メンバー DFSDF000 を作成します。IVP は以下のパラメーターを使用します。

| パラメーター | 説明 |
|---|--|
| MODBLKS=DYN | MODBLKS リソースの DRD を使用可能にします。 |
| AUTOEXPORT=AUTO | チェックポイント時にリソースを外部データ・セットに自動的にエクスポートします。 |
| AUTOIMPORT=AUTO | IMS のコールド・スタート時に、リソースを外部データ・セットから自動的にインポートします。 |
| RDDSDSN=(IMS.RDDS1,IMS.RDDS2,IMS.RDDS3) | IMS リソース定義の保管のために使用する 3 つの BSAM データ・セットを定義します。 |

- b. IMS リソース定義の保管のために使用する 3 つのリソース定義データ・セット (IMS.RDDS1、IMS.RDDS2、および IMS.RDDS3) を割り振ります。

このステップは、E シリーズのジョブとタスクで説明されます。

3. IVP は以下の方法で IMS システムをオンラインで実行します。
 - a. 新しい DBD のデータベース・データ・セットを割り振ります。
 - b. IMS システムをコールド・スタートで始動します。
 - c. DRD を使用して、新しいリソース (データベース、プログラム、およびトランザクション) を作成します。
 - d. 新しいプログラムおよびトランザクションを実行して、新しいリソースが有効であることを検査します。
 - プログラム DFSIVPD1 は既存の電話帳データベースにアクセスして、レコードを更新して削除します。
 - プログラム DFSIVPD2 はトランザクション IVTND がユーザー端末から要求されたときに処理されます。また、このプログラムは電話帳データベースにもアクセスし、レコードを表示、追加、更新、または削除するユーザー処置要求に基づいてユーザー端末に応答します。
 - e. IMS システムを正常にシャットダウンします。

このステップは、O シリーズのジョブとタスクで説明されます。

4. IVP は以下の方法で IMS システムを再始動します。
 - a. IMS システムをコールド・スタートで始動します。
 - b. 新しいプログラムおよびトランザクションを再実行して、新しいリソースが依然として有効であることを検査します。
 - c. IMS システムを正常にシャットダウンします。

このステップは、O シリーズのジョブとタスクで説明されます。

IMSRSC リポジトリを使用した動的リソース定義サンプル・アプリケーション

動的リソース定義 (DRD) サンプル・アプリケーションは、IMSRSC リポジトリを使用した DRD のセットアップおよび操作方法を示します。

IVP では、以下の手順を使用して、DRD 機能を使用するオンライン IMS 実行シナリオを作成します。

1. IVP は、新しいリソースの DBD および PSB を作成してリソースを準備します。

このステップは、E シリーズのジョブとタスクで説明されます。
2. IVP は以下の方法で DRD の環境をセットアップします。
 - a. PROCLIB メンバー DFSD000 を作成します。IVP は以下のパラメーターを使用します。

| パラメーター | 説明 |
|---|--|
| MODBLKS=DYN | MODBLKS リソースの DRD を使用可能にします。 |
| AUTOEXPORT=AUTO | チェックポイント時にリソースを外部データ・セットに自動的にエクスポートします。 |
| AUTOIMPORT=AUTO | IMS のコールド・スタート時に、リソースを外部データ・セットから自動的にインポートします。 |
| RDDSDSN=(IMS.RDDS1,IMS.RDDS2,IMS.RDDS3) | IMS リソース定義の保管のために使用する 3 つの BSAM データ・セットを定義します。 |

このステップは、E シリーズのジョブとタスクで説明されます。

3. IVP は以下の方法で IMS システムをオンラインで実行します。
 - a. 新しい DBD のデータベース・データ・セットの割り振り
 - b. IMSRSC リポジトリ・データ・セットおよび RS カタログ・リポジトリ・データ・セットの割り振り
 - c. Operations Manager (OM)、Resource Manager (RM)、および Structured Call Interface (SCI) で構成される、共通サービス層 (CSL) の始動

- d. リポジトリ・サーバー (RS) の始動
- e. IMSRSC リポジトリを RS カタログ・リポジトリに追加してから IMSRSC リポジトリを始動
- f. RS カタログ・リポジトリのすべての IMSRSC リポジトリの状況情報をリスト
- g. IMSRSC リポジトリのデータの設定
- h. RS カタログ・リポジトリの IMSRSC リポジトリを停止および名前変更
- i. 単一の IMSRSC リポジトリの詳細情報のリスト
- j. IMSRSC リポジトリのリソース定義の変更
- k. RS カタログ・リポジトリからの IMSRSC リポジトリの削除
- l. 直前に削除した IMSRSC リポジトリの始動を RS に要求
- m. SCI、OM、RM、および RS のシャットダウン
- n. IMSRSC リポジトリ・データ・セットおよび RS カタログ・リポジトリ・データ・セットの削除

このステップは、U シリーズのジョブとタスクで説明されます。

関連資料

[123 ページの『ステップ Ux ~ IMSRSC リポジトリ・サンプル・アプリケーション』](#)

U シリーズのステップには、IMSRSC リポジトリ・サンプル・アプリケーションの実行中に実行する必要があるジョブやタスクが含まれます。

IVP によって検査されるその他のサンプル・アプリケーション

IVP ジョブおよびタスクを介して、複数の IMS コンポーネントのセットアップの検査やデモンストレーションも行われます。例として、共通サービス層 (CSL) および共通キュー・サーバー (CQS) サンプル・アプリケーション、タイプ 2 コマンド環境のサンプル・アプリケーション、OM 監査証跡 SPOC 表示サンプル・アプリケーション、および並列 RECON アクセス・サンプル・アプリケーションがあります。

IMS コンポーネントをテストするサンプル・アプリケーションには、以下のものがあります。

• CSL および CQS サンプル・アプリケーション

このサンプル・アプリケーションは、Operations manager (OM)、Resource manager (RM)、Structured Call Interface (SCI)、TSO Single Point of Control (SPOC)、および共通キュー・サーバー (CQS) の使用方法を示します。具体的には、このサンプル・アプリケーションは、以下のことを示します。

- IMSplex の定義のために、CSL メンバー OM、RM、および SCI を IMS PROCLIB データ・セットに追加する方法
- CQS メンバーを IMS PROCLIB データ・セットに追加する方法
- IMSplex と CQS を開始および停止する方法
- TSO SPOC アプリケーションを開始および使用する方法 (IMS タイプ 1 コマンドとタイプ 2 コマンドの発行方法も含む)

これらのサンプル・アプリケーションのステップは、O シリーズの IVP ジョブおよびタスクで説明されます。

• タイプ 2 コマンド環境のサンプル・アプリケーション

このサンプル・アプリケーションは、RM を使用せずに OM、SCI、および TSO SPOC を使用する方法を示します。I

さらに、監査証跡からの情報を表示するかどうかを OM に通知できます。

具体的には、このサンプル・アプリケーションは、以下のことを示します。

- OM および SCI メンバーを IMS PROCLIB データ・セットに追加し、RM が不要でタイプ 2 コマンドが発行可能な環境を定義する方法
- TSO SPOC を使用して IMS にコマンドを発行する方法

このサンプル・アプリケーションのステップは、P シリーズの IVP ジョブおよびタスクで説明されます。

- OM 監査証跡 SPOC 表示サンプル・アプリケーション

このサンプル・アプリケーションは、TSO SPOC セッションから OM 監査証跡情報を表示する方法を示します。TSO SPOC メニューを使用して、コマンド入力、関連するコマンド応答出力、および非送信請求出力メッセージの監査証跡を表示できます。

これらのサンプル・アプリケーションのステップは、O シリーズの IVP ジョブおよびタスクで説明されません。

OM 監査証跡機能のサポートは IVP で使用可能です。OM 監査証跡は、非送信請求メッセージならびに、z/OS ログ・ストリームへのコマンド入力とコマンド応答を記録します。z/OS システム・ロガーは、監査証跡用のストレージを確保するために必要です。2つのジョブ IV_E303J および IV_E307T は、監査証跡機能のバックエンド準備の一部です。

z/OS ポリシー (IV_E307T) を定義するサンプル・ジョブは、監査証跡の目的でこの 1 次構造に IMSOM2Q01 という名前を付けています。この構造は、CSLOIxxx メンバー (OM 初期化 IMS PROCLIB データ・セット・メンバー) の AUDITLOG= パラメーターに関連付けられ、ログ・レコードを保管するためのログ・ストリーム・データ・セット名を指定します。

IMS OM 監査証跡の詳細については、「IMS V15 システム管理」を参照してください。

- 並列 RECON アクセス・サンプル・アプリケーション

IMS IVP は、サンプル IMS システムでの RECON データ・セットへの並列アクセスの構成方法、および IMS インストール後の新機能のセットアップの検査方法に関する説明を提供します。

これらのサンプル・アプリケーションのステップは、R シリーズの IVP ジョブおよびタスクで説明されます。IMS 並列 RECON アクセスの詳細については、「IMS V15 システム管理」を参照してください。

関連資料

[115 ページの『ステップ Ox ~ 共通サービス層および共通キュー・サーバーのサンプル・アプリケーション』](#)

O シリーズのステップには、Common Service Layer サンプル・アプリケーションの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

[118 ページの『ステップ Px ~ タイプ 2 コマンド環境のサンプル・アプリケーション』](#)

P シリーズのステップには、拡張コマンド環境サンプル・アプリケーションの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

IVP によってテストされないサンプル・アプリケーション

IVP によって 2 つのサンプル・アプリケーション (IMS サンプル・アプリケーションおよび高速機能サンプル・アプリケーション) がセットアップされますが、これらは IVP によって実行されません。

IVP ジョブおよびタスクは、これらのサンプル・アプリケーションを実行できる環境をセットアップするのみです。これらのアプリケーションは IVP の外部で実行されます。

- [31 ページの『IMS サンプル・アプリケーション』](#)

- [37 ページの『高速機能サンプル・アプリケーション』](#)

IMS サンプル・アプリケーション

IVP ジョブおよびタスクは、IMS サンプル・アプリケーションを実行するための基本構造を作成します。

この構造には、以下のものが含まれます。

- すべての IMS ブロックの作成
- アプリケーション・プログラムの作成
- データベースのロード

IMS サンプル・アプリケーションには、サンプル・アプリケーションの実行に必要な部品データベースの作成、使用、および保守が組み込まれています。このデータベースの検査は、IMS 端末ユーザー・セッションを介して実行する必要があります。

以下の図に、部品データベースのサンプル・アプリケーションの論理ビューを示します。

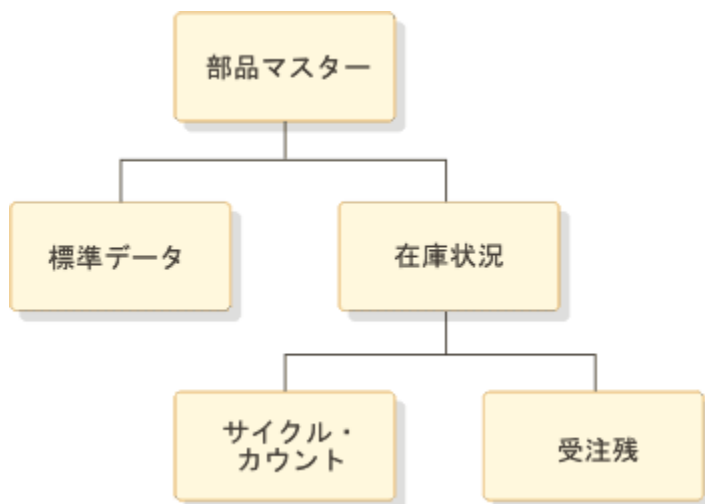


図 12. 部品データベースの IMS サンプル・アプリケーションの論理ビュー

アプリケーションには、部品データベースの 5 つのセグメントが必要です。

- データベース内の各部品ごとに 1 つの部品番号の記述セグメント。
- 部品の標準的な性質に関する追加情報を提供する、各部品ごとの標準データ・セグメント
- 部品ごとの在庫状況セグメント。このアプリケーションは、特定の部品について複数の在庫ロケーションが可能ないように (通常は必須) 設計されています。
- サイクル・カウント・セグメント (0 から n)。
- 特定の部品の在庫ロケーションごとの受注残セグメント。

関連資料

146 ページの『IVP サンプル・アプリケーション表』

SDFSISRC ターゲット・ライブラリーには、アプリケーションが使用する、プログラム、PSB、DBD、MFS のソース、およびその他のサポート資料が含まれています。

108 ページの『ステップ Hx ~ IVP 実行 - DBT システム (DB/DC)』

H シリーズのステップには、DBT (DB/DC) サンプル・システムの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

IMS サンプル・アプリケーションの実行

IMS サンプル・アプリケーション・データベースを検査するには、関連トランザクションおよび 9 つのオンライン機能を持つ 6 つの PSB を使用して IMS サンプル・アプリケーションを実行する必要があります。

始める前に

- H シリーズを介して IVP ジョブおよびタスクを実行し、IMS サンプル・アプリケーション用の基本的なインフラストラクチャーをセットアップします。
- IMS ユーザー端末セッションにサインオンします。

このタスクについて

IMS サンプル・アプリケーションを実行するには、以下の手順を実行します。

手順

1. PART トランザクションを実行する。

トランザクション PART は、特定の部品番号の部品マスターおよび標準情報セグメントからの情報を求めて、部品番号データベースを照会します。以下の形式を使用して、IMS サンプル・アプリケーション・トランザクションを実行します。

```
TRANSACTION_CODE OPERAND,OPERAND,OPERAND, . . .
```

1つの空白で第1オペランドとトランザクション・コードを分離してください。オペランドとオペランドの間には、空白は入力できません。多くのトランザクション・コードは、複数セグメント・トランザクションとして定義されており、入力を完了するには、EOT (伝送終了、2740 の場合) あるいはそれと同等のものがが必要です。

この入力フォーマットは、以下の図に示すとおり、トランザクション・コードと部品番号です。

```
part AN960C10
```

図 13. PART トランザクション - 入力

出力または応答フォーマットは、次の図に示されています。

```
Part..... AN960C10; Desc..... WASHER
Proc Code..... 74; Inv Code..... 2
Make Dept..... 12-00; Plan Rev Num...
Make Time..... 63; Comm Code..... 14
```

図 14. PART トランザクション - 出力

メッセージ処理用にユーザーが使用できる部品番号を以下に示します。

部品番号:

```
AN960C10          7438995P002
3003806 *        7618032P101 *
3007228          922399-001
3013412          82125-869
652799
```

アスタリスク (*) でマークされている部品番号には、従属する受注残セグメントがあります。すべての部品番号に、少なくとも1つの従属する在庫状況セグメントがあります。

2. DSPALLI トランザクションを実行する。

DSPALLI トランザクションは、指定された部品のすべての在庫、サイクル・カウント、および受注残情報を表示します。以下の図に、トランザクション・コードと部品番号の入力フォーマットを示します。

```
dspalli AN960C10
```

図 15. DSPALLI トランザクション - 入力

結果の端末出力は、次の図に示されています。

```
Part=AN960C10; Desc=WASHER; Proc Code=74

Area  Inv  Proj  Div  Unit  Current  On  In  Total  Count  Back
Dept  CD   Price Reqmts Order Stock Disburse Taken Ordr
----  -
1.    AA   165   11  0.000  146    20  126  104    No    0
2.    AK   287   7F  0.000  88     0   88   37     No    0
3.    2    80   091  26  0.000  630   15  680  1157  No    0
```

図 16. DSPALLI トランザクション - 出力

3. DSPINV トランザクションを実行する。

DSPINV トランザクションは、特定の在庫ロケーションからの在庫情報を表示します。33 ページの図 16 に表示されているうちの 3 番目の在庫項目のみを表示したいとします。AREA、INVDEPT、PROJCD、および DIV を連結し、在庫ロケーションを取得します。

以下の図に、トランザクション・コードおよびそれに続く部品番号と在庫ロケーション・キーの入力フォーマットを示します。

```
dspinv AN960C10,28009126
```

図 17. DSPINV トランザクション - 入力

結果の端末出力は、次の図に示されています。

```
Part..... AN960C10; Desc..... WASHER
Proc..... 74; Area..... 2
Inv Dept..... 80; Prj..... 091
Div..... 26; Price..... 0.000
Stk Ct Date... 513; Unit..... EACH
Curr Reqmts... 630; On Order..... 15
Total Stock... 680; Disb Planned... 1053
Disb Unplanned. 104; Stk Ct Variance 0
```

図 18. DSPINV トランザクション - 出力

4. ADDPART トランザクションを実行する。

ADDPART トランザクションは、新たな部品と関連する記述、および調達コードをデータベースに追加します。このトランザクションの入力フォーマットは、以下の図の入力内容のとおり、トランザクション・コード、続いて部品番号、説明、および調達コードです。

```
addpart AB960C10,RIVET,74
```

図 19. ADDPART トランザクション - 入力

結果の端末出力は、次の図に示されています。

```
Part Number AB960C10 Added To Data Base
```

図 20. ADDPART トランザクション - 出力

5. ADDINV トランザクションを実行する。

ADDINV トランザクションは、在庫ロケーション・キー情報をデータベース内の既存の部品に追加します。このトランザクションの入力フォーマットは、以下の図の入力内容のとおり、トランザクション・コード、続いて部品番号、および在庫ロケーション・キーです。

```
addinv AB960C10,80091260
```

図 21. ADDINV トランザクション - 入力

結果の端末出力は、次の図に示されています。

```
Inventory 80091260 Added To Part Number AB960C10
```

図 22. ADDINV トランザクション - 出力

その部品の更新後の在庫情報を表示したい場合は、次の図に示すコマンドを入力します。

```
dspinv AB960C10,80091260
```

図 23. DSPINV トランザクション - 入力

結果の端末出力は、次の図に示されています。

```
Part..... AB960C10; Desc..... RIVET
Proc..... 74; Area..... 8
Inv Dept..... 00; Prj..... 912
Div..... 60 ; Price..... 0.000
Stk Ct Date... ; Unit.....
Curr Reqmts... 0; On Order..... 0
Total Stock... 0; Disb Planned... 0
Disb Unplanned. 0; Stk Ct Variance 0
```

図 24. DSPINV トランザクション - 出力

6. DLETINV トランザクションを実行する。

DLETINV トランザクション・コードは、指定した部品の特定の在庫項目を削除します。このトランザクションの入力フォーマットは、以下の図の入力内容のとおり、トランザクション・コード、続いて部品番号、および在庫ロケーション・キーです。

```
dletinv AB960C10,80091260
```

図 25. DLETINV トランザクション - 入力

結果の端末出力は、次の図に示されています。

```
Inventory 80091260 Deleted From Part Number AB960C10
```

図 26. DLETINV トランザクション - 出力

7. DLETPART トランザクションを実行する。

すべての在庫項目が削除される場合、トランザクション・コード DLETPART を使用して特定の部品番号をデータベースから削除できます。入力フォーマットは、以下の図の入力内容のとおり、トランザクション・コード、続いて部品番号です。

```
dletpart AB960C10
```

図 27. DLETPART トランザクション - 入力

結果の端末出力は、次の図に示されています。

```
Part Number AB960C10 Deleted From Data Base
```

図 28. DLETPART トランザクション - 出力

8. CLOSE トランザクションを実行する。

CLOSE トランザクション・コードを用いて、指定した部品の特定の在庫項目に対するオープン・オーダーをクローズすることができます。この入力フォーマットは、以下の図の入力内容のとおり、トランザクション・コード、部品番号、在庫ロケーション・キー、注文数減少、総在庫増加です。

```
close AN960C10,28009126,15,15
```

図 29. CLOSE トランザクション - 入力

結果の端末出力は、次の図に示されています。

```
17:43:38 PN= AN960C10 Invty Key=28009126 Excess Stock On Hand
```

図 30. CLOSE トランザクション - 出力

サンプル・データベースの更新状況に応じて、その他のメッセージが後に続く場合があります。最初に PA1 を押すことが必要な場合があります。次の図にその例を示します。

```
Update Complete
```

図 31. CLOSE トランザクション - 出力 (追加)

CLOSE トランザクションのオペレーションを検証するために、部品 AN960C10 の在庫項目 28009126 を表示することができます。この入力フォーマットはトランザクション・コード、部品番号、在庫 - ロケーション - キーで、次の図に示されている通りです。

```
dspinv AN960C10,28009126
```

図 32. DSPINV トランザクション - 入力

結果の端末出力は、次の図に示されています。

| | | | |
|-----------------|-----------|-----------------|--------|
| Part..... | AN960C10; | Desc..... | WASHER |
| Proc..... | 74; | Area..... | 2 |
| Inv Dept..... | 80; | Prj..... | 091 |
| Div..... | 26; | Price..... | 0.000 |
| Stk Ct Date.... | 513; | Unit..... | EACH |
| Curr Reqmts.... | 630; | On Order..... | 0 |
| Total Stock.... | 695; | Disb Planned... | 1053 |
| Disb Unplanned. | 104; | Stk Ct Variance | 0 |

図 33. DSPINV トランザクション - 出力

入出力を比較してください。'on-order' の数量が 15 減り、合計の在庫数量が 15 増えて 695 になりました。

9. DISBURSE トランザクションを実行する。

DISBURSE トランザクション・コードは、在庫ロケーションからある部品の特定の数量を、計画に基づいて、または計画にもとづかないで、割り振ります。この入力フォーマットはトランザクション・コード、部品番号、在庫ロケーション・キー、計画済みか計画外かを示すコード、数量です。次の図に示すとおり、コマンドを入力してください。

```
disbursed AN960C10,28009126,U,10
```

図 34. DISBURSE トランザクション - 入力

結果の端末出力は、次の図に示されています。

```
17:47:40 PN= AN960C10 Invty Key=28009126 Excess Stock On Hand
```

図 35. DISBURSE トランザクション - 出力

サンプル・データベースの更新状況に応じて、その他のメッセージが後に続く場合があります。最初に PA1 を押すことが必要な場合があります。次の図にその例を示します。

Update Complete

図 36. DISBURSE トランザクション - 出力 (追加)

キーが 28009126、部品番号が AN960C10 の在庫情報を表示したい場合は、次の図に示すようにコマンドを入力してください。この入力はトランザクション・コード、部品番号、在庫ロケーション・キーです。

```
dspinv AN960C10,28009126
```

図 37. DSPINV トランザクション - 入力

結果の端末出力は、次の図に示されています。

```
Part..... AN960C10; Desc..... WASHER
Proc..... 74; Area..... 2
Inv Dept..... 80; Prj..... 091
Div..... 26; Price..... 0.000
Stk Ct Date... 513; Unit..... EACH
Curr Reqmts... 630; On Order..... 0
Total Stock... 685; Disb Planned... 1053
Disb Unplanned. 114; Stk Ct Variance 0
```

図 38. DSPINV トランザクション - 出力

関連資料

150 ページの『IMS サンプル・アプリケーション PSB』

この PSB は、IMS サンプル・アプリケーションが使用する部品データベースの処理用に提供されます。

高速機能サンプル・アプリケーション

この高速機能サンプル・アプリケーションでは、銀行アプリケーションを示します。

IVP ジョブおよびタスクは、ユーザーが高速機能サンプル・アプリケーションを実行できるようにするインフラストラクチャーをセットアップしますが、サンプル・アプリケーションは実行しません。高速機能サンプル・アプリケーションは 4 つのデータベースを作成して使用します。それぞれの勘定について、データは総勘定元帳 (MSDB)、出納 (MSDB)、ローン (HDAM)、および顧客勘定 (DEDB) 情報に関連付けられています。DEDB データベースおよび HDAM データベースは、IMS 提供のユーティリティを使用してオフラインで IVP にロードされます。4 のデータベースはすべて、メッセージ処理領域 (MPP) および高速機能領域 (IFP) を使用して、オンラインで処理されます。

以下の 2 つのトランザクション・コードが高速機能サンプル・アプリケーションで使用されます。

- FPSAMP1 - IFP 領域で実行します
- FPSAMP2 - MPP 領域で実行します

2 つのトランザクション・コードは両方とも、同一のアプリケーション機能を実行します。これらのトランザクションが使用する MFS フォーマットの MOD 名は、DBFSMOUT です。IMS /FORMAT DBFSMOUT コマンドを使用して、このフォーマットを表示します。

次の図に、高速機能サンプル・アプリケーションの 4 つのデータベースの関係を示します。

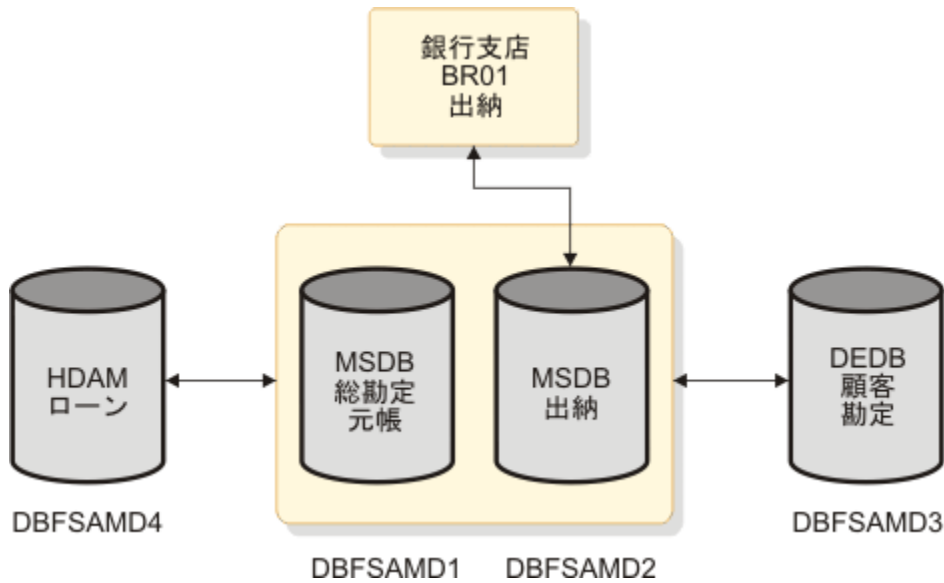


図 39. 高速機能サンプル・アプリケーションのデータベースの関係

総勘定元帳データベースは、非端末関連の MSDB です。総勘定元帳ファイル用の DBD には、以下の項目から構成されるセグメント記述が入っています。

- 総勘定元帳顧客番号
- 総勘定元帳勘定残高
- トランザクション・カウント
- 充てん文字エリア

出納データベースは、端末関連の MSDB です。出納ファイル用の DBD には、以下の項目から構成されるセグメント記述が入っています。

- 引き出し金額
- 預金金額
- ローン支払い金額
- 出納残高
- トランザクション・コード
- 総勘定元帳へのキー
- 充てん文字エリア

顧客勘定データベース (DEDB) には、9つのセグメント・タイプが以下の図に示すように3階層の形で含まれています。セグメント・タイプとしてはルート・セグメント・タイプ、順次従属セグメント・タイプ、および直接従属セグメントの7タイプがあります。さらに、サブセット・ポインターが、このデータベースに示されている3つの顧客セグメント・タイプを指示します。この構成により、このアプリケーションで、DEDBの場合の複数のSSAの使用法およびコマンド・コード(サブセット・ポインター参照を含む)の使用法を示すことができます。

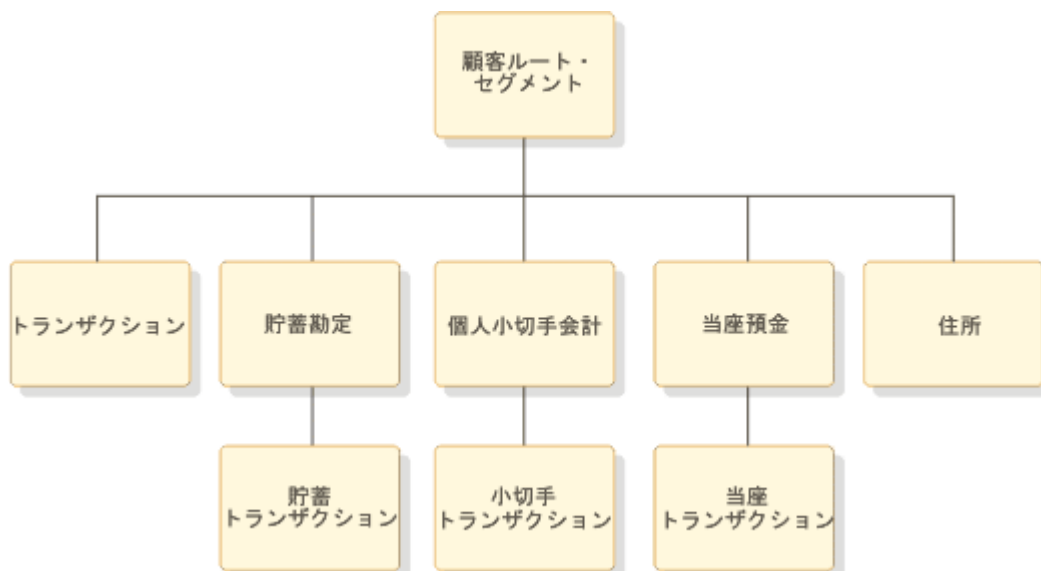


図 40. 顧客勘定データベース (DEDB) の階層図

2 次レベルのトランザクション・セグメントは順次従属です。それ以外はすべて、直接従属です。

ローン・データベース (HDAM) には、顧客識別情報およびトランザクション情報が入っています。トランザクション情報には、ローン情報や顧客番号、およびトランザクションの日時など、すべての銀行例の局面を含めることができます。

以下の図の階層図は、HDAM/VSAM ローン・データベースのセグメント (顧客ルートおよびローン) を示します。

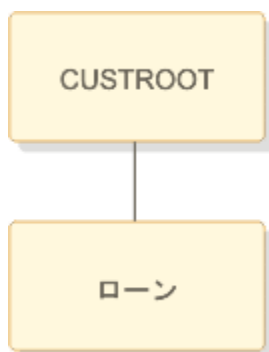


図 41. HDAM/VSAM ローン・データベースのセグメント

関連資料

[152 ページの『高速機能サンプル・アプリケーション表』](#)

以下の表に、高速機能サンプル・アプリケーションが使用するパーツの情報を示します。これには、各パーツに関連する言語、PSB、MFS、トランザクション・コード、DBD、および説明が含まれます。

[156 ページの『高速機能サンプル・アプリケーション・データベース』](#)

以下の表で説明されているトランザクションは、高速機能サンプル・アプリケーション・データベースについての知識を深めるのに役立ちます。以下の顧客勘定情報と共に、これらの表はオペレーターおよびプログラマーのオンライン訓練の準備をする場合のリソースとなります。

高速機能サンプル・トランザクションの実行

端末から高速機能サンプル・トランザクションを実行して、高速機能インフラストラクチャーのセットアップが適切であることを検査します。

始める前に

Hシリーズを介して IVP ジョブおよびタスクを実行し、高速機能サンプル・アプリケーション用のインフラストラクチャーをセットアップします。

このタスクについて

サンプル・トランザクションを実行するには、以下の手順を実行します。

手順

1. IMS ユーザー端末セッションにサインオンします。
2. Clear を押してから PA2 を押します。空白画面が戻るまで、このシーケンスを繰り返します。このシーケンスにより、キューにあったメッセージが表示されます。
3. /FORMAT DBFSMOUT と入力し、MFS フォーマットを表示します。
4. 下記のトランザクション・シーケンスに従ってください。
端末入力は以下の形式になります。

```
aaaaaaa bbbbbbbbcc def gggggggg
```

これらのトランザクションの入力の一般的な形式を以下の表に示します。

表 1. 高速機能サンプル・アプリケーション・トランザクションの入力フォーマット例

| フィールド | 変数 | 説明 |
|--------------|-----------|---|
| トランザクション・コード | aaaaaaa | <ul style="list-style-type: none">• FPSAMP1 - FP メッセージ・ドリブン領域でトランザクションを実行します• FPSAMP2 - トランザクションを IMS MPP 領域で実行します |
| 顧客勘定 | bbbbbbbcc | <ul style="list-style-type: none">• bbbbbbb- 8 文字の顧客番号• cc - 2 文字の勘定タイプ |

表 1. 高速機能サンプル・アプリケーション・トランザクションの入力フォーマット例 (続き)

| フィールド | 変数 | 説明 |
|--------------|------------------|--|
| トランザクション・タイプ | <i>def</i> | <ul style="list-style-type: none"> • <i>d</i> - 下記の 4 つの文字のいずれか: <ul style="list-style-type: none"> - L - ローン^a - S - 貯蓄勘定 - C - 小切手勘定 - U - 当座預金 • <i>e</i> - 下記の 3 つの文字のいずれか: <ul style="list-style-type: none"> - W - 引き出し - D - 預金 - P - 勘定ステートメント • <i>f</i> - 下記の 5 つの文字のいずれか: <ul style="list-style-type: none"> - P - 通帳^b - 1 - 本日^c - 2 - 今週^c - 3 - 今月^c - 4 - 今四半期^c |
| トランザクション金額 | <i>ggggggggg</i> | 金額 (\$3000.00 など 9 文字以内) |

注:

- a. トランザクション金額は、ローン・トランザクションおよび勘定ステートメント要求では不要です。ローン支払い金額は、データベースに事前定義されています。
- b. 通帳による貯蓄勘定の預金と引き出しの場合。通帳なしの場合は、文字はブランクのままにします。
- c. ステートメント要求の組み合わせとして有効なものは、次の通りです。SP3、SP4、CP2、CP3、CP4、UP1、UP2、UP3、およびUP4。

a) 以下の端末情報を入力する。FPSAMP1 BR01-H01M1 L

表示される端末出力は以下のとおりです。

```

LOAN PAYMENT DETAILS:
BR01-H01M1 L      $482.77
$60,000.00 $59,517.23 0001
    
```

高速機能サンプル・アプリケーション・トランザクションの出力の一般的な形式を以下の表にリストします。

表 2. 高速機能サンプル・アプリケーション・トランザクションの出力フォーマット例

| トランザクション | 戻り出力 | 構文記述 |
|----------|---|---|
| 顧客勘定 | <pre> CUST.ACCT TRANSACTION: BRxxxxxxxx yyy zzzzzzzzz wwwwwwwww TRANS TO BE ENTERED IN PASSBK: YYDDD HHMM t aaaaaaaaa YYDDD HHMM t aaaaaaaaa YYDDD HHMM t aaaaaaaaa YYDDD HHMM t aaaaaaaaa END OF PASSBOOK TRANSACTIONS </pre> | <p>ここで、それぞれの意味は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • xxxxxxxx: 顧客勘定番号 • yyy: トランザクション・タイプ • zzzzzzzzz: トランザクション金額 • wwwwwwww: 勘定残高 • YYDDD: トランザクション日付 • HHMM: トランザクション時刻 • t: トランザクション・タイプ (D または W) • aaaaaaaaa: トランザクション金額 |
| 勘定取引明細 | <pre> CUST. ACCT REQUEST BALANCE: BRxxxxxxxx yyy wwwwwwww TRANSACTIONS THIS PERIOD: YYDDD HHMM t aaaaaaaaa YYDDD HHMM t aaaaaaaaa YYDDD HHMM t aaaaaaaaa YYDDD HHMM t aaaaaaaaa END OF TRANSACTIONS </pre> | <ul style="list-style-type: none"> • xxxxxxxx: 顧客勘定番号 • yyy: トランザクション・タイプ • wwwwwwww: 勘定残高 • YYDDD: トランザクション日付 • HHMM: トランザクション時刻 • t: トランザクション・タイプ (D または W) • aaaaaaaaa: トランザクション金額 |
| ローン支払い | <pre> LOAN PAYMENT DETAILS: BRxxxxxxxx L zzzzzzzzz wwwwwwwww uuuuuuuuu vvvv </pre> | <ul style="list-style-type: none"> • xxxxxxxx: 顧客勘定番号 • L: トランザクション・タイプ (ローン支払い) • zzzzzzzzz: ローン支払い金額 • wwwwwwww: 元ローン残高 • uuuuuuuuu: 新ローン残高 • vvvv: 内金として支払われたローン支払い回数 |

b) 以下の端末情報を入力する。FPSAMP2 BR01-A01S1 SWP 1000.00

端末出力:

```

CUST. ACCT TRANSACTION:
BR01-A01S1 SWP          $1,000.00   $1000.00
TRANS TO BE ENTERED IN PASSBK:
YYDDD HHMM W $1000.00          END OF PASSBOOK TRANSACTIONS

```

顧客勘定トランザクション

c) 以下の端末情報を入力する。FPSAMP1 BR02-T02C1 CD 1000.00

端末出力:

```

CUST. ACCT TRANSACTION:
BR02-T02C1 CD          $1,000.00   $1,900.00

```

d) 以下の端末情報を入力する。FPSAMP2 BR01-F01C1 CW 900.00

端末出力:

```
REQUEST CAN NOT BE SERVICED:
PROCSG ERROR OD          BR01-F01C1    CW    $900.00
```

- e) 以下の端末情報を入力する。FPSAMP2 BR01-F01C1 CP2

端末出力:

```
CUST. ACCT REQUEST          BALANCE:
BR01-F01C1 CP2              $800.00
NO TRANSACTIONS THIS PERIOD
```

- f) 以下の端末情報を入力する。FPSAMP1 BR01-A01S1 SW 500.00

端末出力:

```
CUST. ACCT TRANSACTION:
BR01-A01S1 SW                $500.00    $500.00
```

- g) 以下の端末情報を入力する。FPSAMP1 BR01-B01A1 L

端末出力:

```
LOAN PAYMENT DETAILS:
BR01-B01A1 L    $145.20    $4,500.00    $4,354.80    0001
```

- h) 以下の端末情報を入力する。FPSAMP1 BR01-A01S1 SDP 400.00

端末出力:

```
CUST. ACCT TRANSACTION:
BR01-A01S1 SDP    $400.00    $900.00
TRANS TO BE ENTERED IN PASSBK:
YYDD HHMM W      $500.00    YYDD HHMM D  $400.00
END OF PASSBOOK TRANSACTIONS
```

- i) 以下の端末情報を入力する。FPSAMP2 BR01-A01S1 SP3

端末出力:

```
CUST. ACCT REQUEST          BALANCE:
BR01-A01S1 SP3              $900.00
TRANSACTIONS THIS PERIOD:
YYDD HHMM W    $1,000.00    YYDD HHMM W    $500.00
YYDD HHMM D    $400.00    END OF TRANSACTIONS
```

- j) 以下の端末情報を入力する。FPSAMP1 BR02-T01U1 UW 11500.00

端末出力:

```
CUST. ACCT TRANSACTION:
BR02-T01U1    UW    $11,500.00    $30,000.00
```

タスクの結果

IMS 高速機能サンプル・アプリケーションの実行を完了し、高速機能インフラストラクチャーのセットアップが適切であることを検査しました。

関連資料

158 ページの『高速機能サンプル・アプリケーションのエラー・メッセージ』

以下の情報を使用して、高速機能サンプル・アプリケーションのエラーを診断します。

IMS カタログのサンプル

IVP は、IMS カタログをセットアップし、IMS カタログが予想通りに動作していることを検証するサンプル・アプリケーション・プログラムを提供します。

IVP ジョブ IV_E319J は、IMS カタログをセットアップするために、以下のアクションを実行します。

1. 既存の IMS カタログ・データ・セットをすべて削除する
2. 新しい IMS カタログ・データ・セットを割り振る
3. IMS カタログ・データベースをロードする
4. IMS カタログ・データ・セットのイメージ・コピーを作成する

セットアップ時に、IXUCATAL IVP 変数を指定することで、IMS カタログの別名を定義できます。この変数は、DFSDFxxx メンバーの IMS カタログ・セクション内の ALIAS= パラメーターで別名を設定します。

セットアップが完了すると、IVP ジョブ IV_O260J は、DFSDDLT0 テスト・アプリケーション・プログラムを実行します。このプログラムは、IMS カタログの最初の 100 個のセグメントをリトリブして、IMS カタログの内容を検査します。

Java IVP 機能が有効になっている場合、IVP のいくつかの O シリーズ・ジョブで、IMS カタログを使用してサンプル電話帳データベース内のデータの読み取り、挿入、更新、および削除を行う、4 つのサンプル Java アプリケーション・プログラムが提供されます。

Java アプリケーション・プログラムのうちの 2 つ (DFSCATS2 と DFSCATD2) は、タイプ 2 IMS Universal ドライバーを使用します。DFSCATS2 は SQL を使用します。DFSCATD2 は DL/I を使用します。

サンプル Java アプリケーション・プログラムの CAT1GO と CAT2GO は、タイプ 4 IMS Universal ドライバーを使用します。アプリケーション・プログラム CAT1GO は SQL を使用します。アプリケーション・プログラム CAT2GO は DL/I を使用します。

以下の IVP ジョブは、サンプル Java アプリケーション・プログラムを実行します。

- IV_O261J O2 JOB - Java サンプル (SQL - タイプ 2) を実行します
- IV_O262J O2 JOB - Java サンプル (DLI - タイプ 2) を実行します
- IV_O275J O2 JOB - Java サンプル (SQL - タイプ 4) を実行します
- IV_O276J O2 JOB - Java サンプル (DLI - タイプ 4) を実行します

Java 開発用の IMS ソリューションおよび IMS コールアウトのサンプル

IVP には、Java 開発用の IMS ソリューションおよび IMS コールアウトが実行可能であることを示すサンプル・アプリケーションの環境をセットアップするジョブおよびタスクが含まれています。

IVP はこれらのサンプルをそのジョブおよびタスクを介しては説明しません。

Java 開発用の IMS ソリューションのサンプル

IVP は、Java 開発用の IMS ソリューションに対して、いくつかの検査を実行します。

- JMP アプリケーション (IVP タスク IV_H216T - FF JMP トランザクション) および JBP アプリケーション (IVP ジョブ IV_H213J - FF JBP) を IVP 電話帳データベースに対して実行します。これらのアプリケーションにより、Java 従属領域のインストールおよびセットアップが適切に行われていること、また、OMVS (UNIX システム・サービス) が正常に実行されていることが確認されます。
- IVP 電話帳データベースに加えて、IVP はシステム定義に販売代理店データベース用の環境もセットアップします。このデータベースは、Java 開発用の IMS ソリューションの多くのサンプル・アプリケーションで使用されます。この環境がセットアップされると、このデータベースをサンプル Java アプリケーションから使用する準備が整います。

オープン・データベース・タイプ 2 サポートに対応したサンプル・アプリケーションなど、Java 開発用の IMS ソリューションのサンプル・アプリケーションは、IMS Exchange on the developerWorks® Web サイトから入手可能です。各サンプル・パッケージには、ユーザーが IMS データにアクセスして照会するアプリケーションを作成するのに役立つ説明とサンプル・コードが収められています。

コールアウト機能のサンプル

IVP はシステム定義に環境をセットアップし、アセンブリー、Java、および COBOL の各言語サンプルと、関連する 2 種類の XML コンバーターを非同期および同期のコールアウト機能用に提供します。これらの

サンプルは、IMS アプリケーションが要求サービスへのアウトバウンド・メッセージを送信する方法、および外部の Web サービスまたは Java アプリケーションのデータを送信する方法を示します。さらに、オプションで、同一または異なるトランザクションで応答を受け取る方法についても説明します。

これらのサンプルは、S シリーズのジョブおよびタスクで提供され、この概要情報は IV_S001T にあります。

パーツ DFSACALO および DFSSCALO は、ユーザー提供の IMS Connect クライアント・アプリケーションのサンプルをアセンブリー言語で提供します。ジョブ IV_E206J を実行してこれらのサンプルをコンパイルおよびバインドします。非同期サンプルを開始するにはジョブ IV_S222J を実行し、同期サンプルを開始するにはジョブ IV_S225J を実行します。

パーツ DFSJASMP および DFSJSSMP で使用可能な 2 つの Java サンプルは、Java で記述されたユーザー提供の IMS Connect クライアント・アプリケーションのサンプルを非同期および同期のコールアウト機能用に提供します。これらのサンプルは、分散型プラットフォームまたは z/OS プラットフォームで実行できます。

パーツ DFSASCBL および DFSSCBL で使用可能な 2 つの COBOL サンプルは、IMS TM リソース・アダプターでサポートされているとおりの非同期および同期のコールアウト機能を示します。DFSASCBL は、SDFSISRC データ・セットにあります。サンプルを、ジョブ IV_S227J を通じて実行したり (非同期)、ジョブ IV_S228J を通じて実行したり (同期) する前に、それらのサンプルをコンパイルおよびバインドしてください。

2 つの XML コンバーター (DFSACCBL および DFSSCBL) は、コールアウト要求が IMS Enterprise Suite SOAP Gateway を介して経路指定されるときに提供されます。DFSACCBL は、SDFSISRC データ・セットにあります。サンプルを、ジョブ IV_S230J を通じて実行したり (非同期)、ジョブ IV_S231J を通じて実行したり (同期) する前に、それらのサンプルをコンパイルおよびバインドしてください。

これらのサンプルがコールアウトする Web サービスまたは Java アプリケーションは、IMS TM Resource Adapter および IMS Enterprise Suite SOAP Gateway Web ページからダウンロードできます。各サンプルのパッケージに詳細な説明が収められています。

第 5 章 参照情報

このセクションには、IVP についての参照情報が記載されています。

- [47 ページの『IMS データ・セット』](#)
- [85 ページの『IVP 変数』](#)
- [100 ページの『IVP ジョブおよびタスク』](#)
- [134 ページの『IVP システム定義のステージ 1 の入力ストリーム』](#)
- [134 ページの『IVP 環境オプション』](#)
- [136 ページの『変数収集のダイアログ・オプション』](#)
- [140 ページの『ファイル調整のダイアログ・オプション』](#)
- [143 ページの『実行段階のダイアログ・オプション』](#)
- [146 ページの『サンプル・アプリケーションのパーツ表および PSB』](#)
- [153 ページの『サンプル・アプリケーション・データベース』](#)
- [158 ページの『高速機能サンプル・アプリケーションのエラー・メッセージ』](#)
- [159 ページの『IVP 開始 CLIST を呼び出すための TSO EXEC コマンド構文』](#)
- [160 ページの『「IMS Application Menu」を開始するための REXX EXEC コマンド構文』](#)

IMS データ・セット

データ・セット情報を使用すると、トラブルシューティングを行い、IMS について学習することができます。

各データ・セットごとに与えられる属性値を以下に示します。

DSORG

データ・セット編成

制約事項: IMS は、MODBLKS、PGMLIB、SMPLTS、および SDFSJLIB のライブラリーのための拡張区分化データ・セット (PDSE) のみをサポートします。

注: 外部サブシステム接続機能 (ESAF) は、PDSE がライブラリー・データ・セットをロードするのをサポートします。

DSNTYPE

データ・セット名タイプ

RECFM

レコード・フォーマット

LRECL

論理レコード長

BLKSIZE

ブロック・サイズ

DLIB データ・セット、SYSTEM データ・セット、EXECUTION データ・セットの DSNAME 高位修飾子は、IMSGEN マクロの NODE パラメーターで指定する必要があります。TLIB データ・セットは、SYSTEM データ・セットの NODE パラメーターに組み込まれます。IMS オンライン変更機能では、システム・データ・セット IMS.ACBLIB、IMS.MODBLKS、および IMS.FORMAT の複数コピーを必要とします。これらのデータ・セットの基本コピーのことを「ステーjing・ライブラリー」と呼び、これらのコピーは「アクティブおよび非アクティブ・ライブラリー」を構成します。

IVP ダイアログ・データ・セット

IVP ダイアログ・データ・セットは、IVP ダイアログが必要とするユーザー・データ・セット (SMP/E により認識されない) です。

IMS.INSTALIB データ・セット

INSTALIB データ・セットには、IVP ダイアログのファイル調整段階により作成された IMS インストール材料が入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.INSTATBL データ・セット

INSTATBL データ・セットには、IVP ダイアログにより読み取られ更新される、ISPF 表が入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.IVP.EXPORT データ・セット

IMS.IVP.EXPORT データ・セットは、IVP 変数収集段階での変数のエクスポートおよびインポート・プロセスで使用されるエクスポート・データ・セットです。このデータ・セットには、任意の名前を付けられます。データ・セットが存在しない場合は、エクスポート・プロセスの間に作成できます。

DSORG

順次または区分

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

SMP/E データ・セット

SMP/E データ・セットは、IMS 用の SMP/E 環境を設定します。これらのデータ・セットを他の製品と共有しないでください。

1 つの SMP/E 統合ソフトウェア・インベントリ (CSI) で複数のゾーンをサポートすることができます。同一の SMP/E SREL (IMS の場合 P115) を持つ製品は、同一の SMP/E CSI を共用することができます。

IMS.DLIBZONE.CSI データ・セット

DLIBZONE (配布、または DLIB、ゾーン) データ・セットは、配布ライブラリーの状況と構造に関する情報を記録します。配布ゾーンごとに、ゾーンの作成時に 1 から 7 文字までの範囲で名前を割り当てます。この名前が、SET BDY コマンドに表示されます。

DLIBZONE データ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG
VSAM KSDS

IMS.GLBLZONE.CSI データ・セット

GLBLZONE (グローバル・ゾーン) データ・セットには、SMP/E RECEIVE コマンドにより処理される SYSMODS および HOLDDATA に関する情報が収められます。データ・セットには、SMP/E が DLIBZONE および TRGTZONE にアクセスできるようにする情報や、ユーザーが SMP/E 処理の部分を調整できるようにするための情報が含まれています。

GLBLZONE データ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG
VSAM KSDS

IMS.SMPLTS データ・セット

SMPLTS データ・セットは、ロード・モジュールの基本バージョンを保持するターゲット・ライブラリーです。このロード・モジュールは、暗黙的にモジュールを組み込むための SYSLIB 割り振りを指定します。ロード・モジュールの基本バージョンには、ロード・モジュールに対して明示的に定義されたモジュールのみが組み込まれます。ロード・モジュールが SMP/E に対して SYSLIB 割り振りにより定義されている場合、データ・セットは SMPLTS 内に保持されます (つまり、そのロード・モジュールの LMOD 項目には、CALLLIBS サブ項目リストが入っていることとなります)。SMP/E は、ロード・モジュールをその指定されたターゲット・ライブラリーにバインドする時に、SMPLTS にあるロード・モジュールを入力として使用します。

それぞれのターゲット・ゾーンは、独自の SMPLTS データ・セットを持つ必要があります。SMPLTS を他のターゲット・ゾーンが共用することはできません。

SMPLTS データ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG
拡張区分データ・セット (PDSE)

DSNTYPE
LIBRARY

RECFM
U

LRECL
0

BLKSIZE
6144 以上

IMS.SMPPTS データ・セット

SMPPTS データ・セットは、SYSMOD の一時ストレージとして使用され、受け取られたそれぞれの SYSMOD について 1 つのメンバーを含んでいます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SMPSCDS データ・セット

SMPSCDS データ・セットには、APPLY 処理中にインライン JCLIN により変更された、ターゲット・ゾーン項目のバックアップ・コピーが入っています。

それぞれのターゲット・ゾーンは、独自の SMPSCDS データ・セットを持つ必要があります。SMPSCDS を他のターゲット・ゾーンが共用することはできません。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SMPSTS データ・セット

SMPSTS データ・セットは、配布ライブラリーの中だけに存在するソース・モジュールのための、一時的なターゲット・ソース・ライブラリーです。

それぞれのターゲット・ゾーンは、独自の SMPSTS データ・セットを持つ必要があります。SMPSTS を他のターゲット・ゾーンが共用することはできません。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.TRGTZONE.CSI データ・セット

TRGTZONE (ターゲット・ゾーン) データ・セットは、ターゲット・ライブラリーの状況と構造に関する情報を記録します。ターゲット・ゾーンごとに、作成時に1～7文字の名前を割り当てます。この名前が、SET BDY コマンドに表示されます。

それぞれの TRGTZONE データ・セットは、独自の SMPLTS、SMPMTS、SMPSTS、および SMPSCDS の各データ・セットを持つ必要があります。各 TRGTZONE は、所定のプロダクトの1つのリリースのみサポートできます。同一の SMP/E SREL (IMS の場合 P115) を持つ製品は、同一の SMP/E TRGTZONE を共用できます。ただし、この方法はお勧めしません。

TRGTZONE データ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

VSAM KSDS

関連概念

[z/OS: SMP/E data sets and files](#)

配布 (DLIB) データ・セット

IMS 配布ライブラリー (DLIB) には、IMS 内のエレメントのマスター・コピーが含まれています。この配布ライブラリーは、ターゲット・ライブラリーへの SYSMOD の復元またはターゲット環境の再作成に使用できます。これらのデータ・セットは、SMP/E により保守されます。

- [51 ページの『システム・サービス・データ・セット』](#)
- [56 ページの『データベース・マネージャー・データ・セット』](#)
- [56 ページの『トランザクション・マネージャー・データ・セット』](#)
- [56 ページの『IMS 拡張端末オプション・サポート・データ・セット』](#)
- [56 ページの『IMS Java オンデマンド機能データ・セット』](#)

システム・サービス・データ・セット

以下の DLIB は、システム・サービス・コンポーネント FMID により使用されます。

IMS.ADFSBASE
IMS.ADFSCLST
IMS.ADFSDATA
IMS.ADFSEXEC
IMS.ADFSISRC
IMS.ADFSJJCL
IMS.ADFSLOAD
IMS.ADFSMAC
IMS.ADFSMLIB
IMS.ADFSPLIB
IMS.ADFSPROC
IMS.ADFSRRTRM
IMS.ADFSSLIB
IMS.ADFSSMPL
IMS.ADFSSRC
IMS.ADFSTLIB

IMS.ADFSBASE: ADFSBASE データ・セットには、IMS をインストールする SMP/E サンプル・ジョブが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSCCLST: ADFSCCLST には TSO CLIST が入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSADATA: ADFSADATA には、データが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSEEXEC: ADFSEEXEC には TSO REXX EXEC が入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSISRC: ADFSISRC には、DBRC 基幹 JCL メンバー、サンプル・アプリケーション、および各種ソース・エレメントが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSLOAD: ADFSLOAD には、個別にリンクされたロード・モジュールが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

6144 以上。

IMS.ADFSMACT: ADFSMACT には、システム定義マクロ、ユーティリティ・マクロ、および IMS モジュール・アセンブリーに必要となるマクロが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数。このデータ・セットの場合のブロック・サイズは、SYS1.AMACLIB および SYS1.AMODGEN のブロック・サイズの大きい方よりも大きいかまたは等しくなければなりません。

IMS システム定義および SMP/E 処理における DCB 競合を回避するために、ADFSMACT のブロック・サイズと OPTIONS のブロック・サイズは同じ値にしてください。

IMS.ADFSMLIB: ADFSMLIB には、ISPF ダイアログ・メッセージ・メンバーが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSPLIB: ADFSPLIB には、ISPF ダイアログ・パネルが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSPROC: ADFSPROC には、IMS をインストールする SMP/E サンプル・ジョブが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSRTM: ADFSRTM には、IVP ダイアログにより使用される記述メンバーが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSSLIB: ADFSSLIB には、ISPF ダイアログ・ファイル調整スケルトンが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSSMPL: ADFSSMPL には、サンプル・ジョブおよびサンプル出口が入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSSRC: ADFSSRC には、IMS DB ライセンス・プログラム、システム・サービス・コンポーネント、および Transaction Manager ライセンス・プログラムのソース・モジュールが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.ADFSTLIB: ADFSTLIB には、ISPF ダイアログ・テーブルが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

データベース・マネージャー・データ・セット

以下の DLIB は、Database Manager FMID により 使用されます。

IMS.ADFSCLST

IMS.ADFSLOAD

IMS.ADFSPLIB

IMS.ADFSPROC

IMS.ADFSRC

IMS.ADFSAMPL

トランザクション・マネージャー・データ・セット

以下の DLIB は、Transaction Manager FMID により 使用されます。

IMS.ADFSEXEC

IMS.ADFSLOAD

IMS.ADFSPLIB

IMS.ADFSPROC

IMS.ADFSAMPL

IMS.ADFSRC

IMS 拡張端末オプション・サポート・データ・セット

IMS 拡張端末オプション・サポート FMID は、IMS.ADFSLOAD DLIB を使用します。

IMS Java オンデマンド機能データ・セット

IMS Java オンデマンド機能は、以下の DLIB データ・セットを使用します。

IMS.ADFSJLIB

IMS.ADFSIC4J

IMS.ADFSJHFS

IMS.ADFSJRAR

IMS.ADFSJSAM

IMS.ADFSJCIC

IMS.ADFSJLIB: ADFSJLIB には、クラシック・タイプ 2 ドライバーで使用される C コード・ライブラリーが含まれています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG
区分
DSNTYPE
PDSE
RECFM
U
LRECL
0
BLKSIZE
32760

IMS.ADFSIC4J: ADFSIC4J には、z/OS プラットフォーム用 IMS TM リソース・アダプターのランタイム・コンポーネントが含まれています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG
区分
DSNTYPE
PDS または PDSE
RECFM
VB
LRECL
255
BLKSIZE
259 以上。

IMS.ADFSJHFS: ADFSJHFS には、IMS Universal ドライバー (タイプ 2 およびタイプ 4) の Java クラス・ライブラリーが含まれています。これらは、IMS TM メッセージ・キューおよびトランザクション処理のため、および Java インターフェース用 JDBC や DLI を介して IMS DB アクセスするために使用されます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG
区分
DSNTYPE
PDS または PDSE
RECFM
VB
LRECL
255
BLKSIZE
259 以上。

IMS.ADFSJRAR: ADFSJRAR には、WebSphere® Application Server for z/OS などの Java EE ランタイム環境から直接 IMS DB にアクセスするための、Universal JCA ドライバー (タイプ 2 およびタイプ 4) が含まれています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG
区分

DSNTYPE

PDS または PDSE

RECFM

VB

LRECL

255

BLKSIZE

259 以上。

IMS.ADFSJSAM: ADFSJSAM には、オープン・データベース・サンプル (クラス・ファイルのみ) が含まれています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS または PDSE

RECFM

VB

LRECL

255

BLKSIZE

259 以上。

IMS.ADFSJCIC: ADFSJCIC は、IMS Connect 環境で IMS データベース JDBC ドライバーを使用しているときに、IMS にアクセスするために必要なコードを収めます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS または PDSE

RECFM

VB

LRECL

255

BLKSIZE

259 以上。

IMS.ADFSJJCL: ADFSJJCL には、C コードにリンクするための SideDeck が入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE
32720

ターゲット (TLIB) データ・セット

TLIB データ・セットは、IMS SMP/E のターゲット・ライブラリー (SYSLIB) であり、IMS の実行および使用に用いられるライブラリーです。

SMP/E によって保守される IMS データ・セット

以下のデータ・セットは、SMP/E APPLY 処理により保守されます。

IMS.MODBLKS
IMS.SDFSBASE
IMS.SDFSCLST
IMS.SDFSDATA
IMS.SDFSEXEC
IMS.SDFSISRC
IMS.SDFSJLIB
IMS.SDFSJSID
IMS.SDFSJMAC
IMS.SDFSMLIB
IMS.SDFSPLIB
IMS.SDFSPROC
IMS.SDFSRESL
IMS.SDFSRTM
IMS.SDFSRLIB
IMS.SDFSAMPL
IMS.SDFSRC
IMS.SDFSRLIB

UNIX システム・サービス・ファイル・システムにある以下のデータ・セットは、次の SMP/E APPLY プロセスによっても保持されます。

SDFSJCPS
SDFSJTOL
SDFSIC4J
SDFSJCIC
SDFSJCPI
SDFSJHFS
SDFSJRAR
SDFSJSAM

IMS システム定義データ・セット

以下のデータ・セットは、最初は IMS システム定義プロセスのステージ 2 によってロードまたは更新されます。

IMS.MODBLKS
IMS.SDFSRESL

IMS.MODBLKS

MODBLKS には、IMS システム 定義により作成された制御ブロック・モジュールが入っています。この内容は、オンライン変更ユーティリティーにより、IMS.MODBLKSA または IMS.MODBLKSB のいずれかにコピーされます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

32 760 以下。デフォルトは 32 760 です。IMS.SDFSRESL、MODBLKS、MODBLKSA、および MODBLKSB の BLKSIZE は同じでなければなりません。

IMS.SDFSBASE

SDFSBASE は ADFSBASE のターゲット・ライブラリーであり、サンプル・ジョブが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSCLST

SDFSCLST は ADFSCLST 用のターゲット・ライブラリーであり、これには TSO CLIST が入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSDATA

SDFSDATA は ADFSDATA のターゲット・ライブラリーであり、データが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSEXEC

SDFSEXEC は ADFSEXEC 用のターゲット・ライブラリーであり、これには TSO REXX EXEC が入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSISRC

SDFSISRC は ADFSISRC 用のターゲット・ライブラリーであり、これには DBRC 基幹 JCL メンバー、およびサンプル・アプリケーションや各種ソース・モジュールが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSJLIB

SDFSJLIB には、IMS Java オンデマンド機能ロード・モジュールのバインド出力が収められています。これは、APF 許可されている必要があります。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

拡張区分データ・セット (PDSE)

DSNTYPE

LIBRARY

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

32 760 以下。デフォルトは 32 760 です。

IMS.SDFSJSID

SDFSJSID は ADFSJJCL のターゲット・ライブラリーであり、SIDEDECK が入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSMAC

IMS.SDFSMAC は ADFSMAC 用のターゲット・ライブラリーであり、これには IMS マクロが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数。このデータ・セットの場合の BLKSIZE は、SYS1.AMACLIB および SYS1.AMODGEN の BLKSIZE の大きい方よりも大きいかまたは等しくなければなりません。

IMS システム定義および SMP/E 処理における DCB 競合を回避するために、SDFSMAC のブロック・サイズと OPTIONS のブロック・サイズは同じでなければなりません。

IMS.SDFSMLIB

SDFSMLIB は ADFSMLIB 用のターゲット・ライブラリーであり、これには ISPF ダイアログ・メッセージ・メンバーが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSPLIB

SDFSPLIB は ADFSPLIB 用のターゲット・ライブラリーであり、これには ISPF ダイアログ・パネルが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSPROC

SDFSPROC は ADFSPROC のターゲット・ライブラリーであり、サンプル・ジョブが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSRESL

IMS.SDFSRESL には、IMS の中核および必要とされるアクション・モジュールが入っています。このデータ・セットは、システム定義と SMP/E APPLY 処理の組み合わせによってビルドされます。

IMS.SDFSRESL は、18 KB 以上の最大レコード・サイズをサポートする DASD 上に常駐していなければなりません。

IMS.SDFSRESL データ・セット、および JOBLIB DD ステートメントまたは STEPLIB DD ステートメント上で IMS.SDFSRESL データ・セットに連結されているすべてのデータ・セットを APF 許可します。

IMS バッチの場合、IMS.SDFSRESL データ・セット、および DFSRESLB DD ステートメント上で IMS.SDFSRESL データ・セットに連結されているすべてのデータ・セットを APF 許可します。この DD ステートメントは、IMS SVC モジュール用の許可ライブラリーを提供します。IMS バッチのための JOBLIB ステートメントまたは STEPLIB ステートメントを許可する必要はありません。DFSRESLB DD ステートメントを省略すると、IMS SVC モジュールが JOBLIB または STEPLIB からロードされ、JOBLIB データ・セットまたは STEPLIB データ・セットが APF 許可されている必要があります。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

32 760 以下。デフォルトは 32 760 です。IMS.SDFSRESL、IMS.MODBLKS、IMS.MODBLKSA、および IMS.MODBLKSB の BLKSIZE は同じでなければなりません。

IMS.SDFSRTM

SDFSRTM は ADFSRTM 用のターゲット・ライブラリーであり、これには IVP ダイアログが使用する記述メンバーが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSSLIB

SDFSSLIB は ADFSSLIB 用のターゲット・ライブラリーであり、これには ISPF ダイアログ・ファイル調整スケルトンが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSSMPL

SDFSSMPL は ADFSSMPL のターゲット・ライブラリーであり、サンプル・ジョブやサンプル出口が入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSSRC

SDFSSRC は ADFSSRC のターゲット・ライブラリーであり、ソース・プログラムが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDFSTLIB

SDFSTLIB は ADFSTLIB 用のターゲット・ライブラリーであり、これには ISPF ダイアログ・テーブルが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDSE または PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数。INSTATBL と SDFSTLIB は同じ BLKSIZE でなければなりません。

システム・データ・セット

システム・データ・セットは、IMS システム・ライブラリーです。これらのデータ・セットは、ユーザー・データ・セット (SMP/E により認識されない) です。

IMS ファイル・システム・パス名

IMS は、z/OS ファイル・システムにある以下のパスを使用します。

SDFSJCIC: PathPrefix/usr/lpp/ims/ims15 /imsjava/cics/IBM/ にマップします

SDFSJHFS: PathPrefix/usr/lpp/ims/ims15 /imsjava/IBM/ にマップします

SDFSJSAM: PathPrefix/usr/lpp/ims/ims15 /imsjava/samples/IBM/ にマップします

SDFSJRAR: PathPrefix/usr/lpp/ims/ims15 /imsjava/IBM/ にマップします

SDFSIC4J: PathPrefix/usr/lpp/ims/ims15 /ico/IBM/ にマップします

IMS SYSDEF データ・セット

以下のデータ・セットは、最初は IMS システム定義 (SYSDEF) プロセスのステージ 2 によってロードされます。

IMS.FORMAT

IMS.OBJDSET

IMS.PROCLIB

IMS.REFERAL

IMS.TFORMAT

JOBS データ・セット

JOBS データ・セットには、さまざまな IMS ジョブが入っています。

MODBLKS データ・セット

IMS 制御領域である MSVERIFY ユーティリティーは、オンライン変更により影響を受ける制御ブロック・モジュールのための IMS システム定義出力が入っている、IMS.MODBLKS データ・セットを使用します。MODBLKS データ・セットには次のものが組み込まれています。

IMS.MODBLKS

IMS.MODBLKSA

IMS.MODBLKSB

RDDS データ・セット

リソース定義データ・セット (RDDS) には、MODBLKS データ・セットのリソース定義とリソース記述子が収められています。RDDS データ・セットには次のものが含まれます。

IMS.RDDSnn

エクスポート機能をサポートするには、少なくとも 2 つの RDDS が必要です。

TCFSLIB データ・セット

TCFSLIB データ・セットには、TCO SCRIPTS が入っています。

IMS.JOBS データ・セット

JOBS には、IMS オペレーター・コマンド /START REGION または z/OS コマンド **START IMSRDR,MBR=** のいずれかによって実行依頼されたジョブ・ストリームが入っています。このデータ・セットに保管されたジョブを、ユーザーのインストール・ジョブ名、ジョブ・ステートメント・パラメーター、およびその他の適切な指定を使用して、カスタマイズする必要があります。このデータ・セットには、RACF パスワードまたはユーザー ID (ジョブ・ステートメント上) も入っているため、読み取り保護する必要があります。このデータ・セットに RACF パスワードとユーザー ID を割り当て、オプションで RACF システム・タスク許可出口ルーチンをコーディングし、保護データ・セットの使用を検査することができます。そうしない場合は、システム・セキュリティは保証されません。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.MODBLKSA、IMS.MODBLKSB データ・セット

MODBLKSA と MODBLKSB データ・セットには MODBLKS メンバーが入っています。これらのライブラリーのうち 1 つがアクティブであるとき (オンライン・システムによる使用中)、IMS.MODBLKS の内容が他方の、すなわち非アクティブのライブラリーにコピーされ、次のオンライン変更プロセス時に使用されます。

IMS.MODBLKSA または IMS.MODBLKSB は、一連のマスター端末オペレーター /MODIFY コマンドでオンラインにできます。

オンラインで実行する前に、これらのデータ・セットを z/OS システムに対して APF 許可する必要があります。

MODBLKS データ・セットは、区分データ・セット (PDS) または拡張区分データ・セット (PDSE) のいずれかとして定義することができます。MODBLKS データ・セットが PDS として定義される場合、データ・セットのメンバーのサイズは 16 M に制限されます。または、MODBLKS データ・セットが PDSE として定義される場合、データ・セットのメンバーのサイズは最大 2G までのサイズになります。MODBLKS データ・セットが PDS として定義されるか、PDSE として定義されるかは、ご使用の環境に必要な以下のリソースの数とサイズによって決まります。

- データベース。マクロ DFSDDIR で DDIRLEN によって定義されます。
- プログラム。マクロ DFSPDIR で PDIRLEN によって定義されます。

- 宛先コードの長さ。マクロ DBFRCTE で RCTELEN によって定義されます。
- トランザクション。マクロ IAPS で SMBTOTSZ によって定義されます。

MODBLKS データ・セットを PDSE として定義するには、割り振りジョブで **DSNTYPE=LIBRARY** を指定します。

これらのデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS または PDSE

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

32760 以上。デフォルトは 32760 です。IMS.SDFSRESL、MODBLKS、MODBLKSA、および MODBLKSB の BLKSIZE は同じでなければなりません。

IMS.OBJDSET データ・セット

OBJDSET データ・セットには、IMS システム定義ステージ 2 の実行時に作成されたアsembler出力が入っています。ユーザーは、このデータ・セットの名前を IMSGEN マクロで指定します。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数で、3200 以下。この 3200 という BLKSIZE の限度は、INCLUDE により参照されるオブジェクト・モジュールを含んだデータ・セットに対してバインダーが設定した最大値です。

IMS PROCLIB データ・セット

IMS PROCLIB データ・セットには、カタログ式プロシージャおよび制御ステートメント・メンバーが入っています。一部の制御ステートメント・メンバーは、IMS システム定義によって作成されます。その他の制御ステートメント・メンバーおよびプロシージャは、SMP 処理によって生成され、ユーザーがそれらを IMS.SDFSPROC データ・セットからコピーする場合があります。また、IMS を調整するのに使用される、ユーザー作成の制御ステートメント・メンバーも入っています。システム定義の後で、一部のプロシージャを SYS1.PROCLIB に移動する必要がある場合があります。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数で、3200 以下。

IMS.TCFSLIB データ・セット

TCFSLIB データ・セットには、IMS 時間制御操作 (TCO) によって使用される制御ステートメント・メンバー (スクリプト) が入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

F

LRECL

80

BLKSIZE

80

実行データ・セット

実行データ・セットは、IMS システムおよび関係するユーティリティの実行の際に使用されます。これらのデータ・セットは、SMP/E により認識されないユーザー・データ・セットです。

ACBLIB データ・セット

ACBLIB データ・セットには、アプリケーション記述およびデータベース制御ブロックが入っています。ACBLIB データ・セットには次のものが含まれます。

IMS.ACBLIB

IMS.ACBLIBA

IMS.ACBLIBB

ACBLIB データ・セットは、各 PSB とすべての固有の物理 DBD のためのスペースを必要とします。

データを共有する複数のシステムにおいては、両システムの ACBLIB が同一か、そうでなければ、両システムが同一の ACBLIB を共有する必要があります。

DBDLIB データ・セット

IMS.DBDLIB データ・セットには、データベース記述生成 (DBDGEN) ユーティリティにより作成されたデータベース記述ブロック (DBD) が入っています。

DBRC RECON データ・セット

RECON データ・セットはシステム再始動およびシステム・リカバリーに関する情報を収めます。RECON データ・セットには次のものが含まれます。

IMS.RECON1

IMS.RECON2

IMS.RECON3

FORMAT データ・セット

FORMAT データ・セットには、MFS 定義が入っています。FORMAT データ・セットには次のものが含まれます。

IMS.FORMAT
IMS.FORMATA
IMS.FORMATB
IMS.REFERAL
IMS.TFORMAT

IMS.REFERAL、IMS.FORMAT、および IMS.TFORMAT は、IMS システム 定義のステージ 2 で初期設定されます。IMS.FORMATA と IMS.FORMATB は、ステージング・ライブラリー IMS.FORMAT をコピーすることにより作成されます。ユーザーは、IMS.FORMAT、IMS.REFERAL、および IMS.TFORMAT データ・セットのそれぞれのユーザー定義のフォーマット/メッセージ記述子セットに対して 1 つの追加のトラックを割り当てる必要があります。

ログ・データ・セット

ログ・データ・セットには、次のものが入っています。

IMS.DFSOLPnn
IMS.DFSOLSnn
IMS.DFSWADSn
IMS.IEFRDER
IMS.IEFRDER2
IMS.IMSMON
IMS.MSDBCP1
IMS.MSDBCP2
IMS.MSDBCP3
IMS.MSDBCP4
IMS.RDS
IMS.RDS2

メッセージ・キュー・データ・セット

メッセージ・キュー・データ・セットは、メッセージ・キューイングのために使用されます。メッセージ・キュー・データ・セットには、次のものが含まれます。

IMS.LGMSG
IMS.LGMSG1-LGMSG9
IMS.LGMSGGL
IMS.MODSTAT
IMS.QBLKS
IMS.QBLKSL
IMS.SHMSG
IMS.SHMSG1-SHMSG9
IMS.SHMSGGL

MSDB データ・セット

MSDB データ・セットには、MSDB データベースに関連する情報が入っています。MSDB データ・セットには次のものが含まれます。

- IMS.MSDBCP1

- IMS.MSDBCP2
- IMS.MSDBCP3
- IMS.MSDBCP4
- IMS.MSDBDUMP
- IMS.MSDBINIT

オンライン変更データ・セット

オンライン変更データ・セットには、次のものが含まれます。

- IMS.MODSTAT
- IMS.MODSTAT2
- IMSPLEX.OLCSTAT

PGMLIB データ・セット

IMS.PGMLIB データ・セットには、ユーザー作成のアプリケーション・プログラムが入っています。このデータ・セットは、PDS または PDSE とすることができます。

制約事項: COBOL5 では、すべてのロード・モジュールを PDSE 内に入れる必要があります。

PSBLIB データ・セット

IMS.PSBLIB データ・セットには、プログラム仕様ブロック生成 (PSBGEN) ユーティリティーにより作成されたプログラム仕様ブロック (PSB) が入っています。

SYSOUT データ・セット

SYSOUT データ・セットには次のものが含まれます。

- IMS.SYSOnnn データ・セット
- 直接出力データ・セット

トレース・データ・セット

トレース・データ・セットには、IMS 内部トレースの出力が含まれています。トレース・データ・セットには次のものが含まれます。

- IMS.DFSTRA01
- IMS.DFSTRA02
- IMS.DFSTRA0T

IMS.ACBLIB

ACBLIB は、アプリケーション制御ブロック保守 (ACBGEN) ユーティリティーにより作成されたアプリケーション制御ブロック (ACB) を収めます。この内容は、オンライン変更コピー・ユーティリティーによって IMS.ACBLIBA または IMS.ACBLIBB のいずれかのデータ・セットにコピーされます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

ユーザー選択。デフォルトは 6144 です。

IMS.ACBLIBA、IMS.ACBLIBB

ACBLIBA と ACBLIBB には ACBLIB メンバーが入っています。これらのライブラリーのうち 1 つがアクティブのとき (オンライン・システムにより使用されているとき)、IMS.ACBLIB の内容が他方の、すなわち非アクティブの、ライブラリーにコピーされ、次のオンライン変更の実行で使用されるのに備えます。

IMS.ACBLIBA または IMS.ACBLIBB は、一連のマスター端末オペレーター /MODIFY コマンドでオンラインにできます。

APPLCTN マクロで DOPT を指定した場合、非 DOPT PSB を収めたライブラリーの後 (つまり、IMS.ACBLIBA または IMS.ACBLIBB DD ステートメントによって指示されたライブラリーの後) に、これらの PSB を収めたライブラリーを連結します。連結の順序は、IMS.ACBLIBA データ・セットと IMS.ACBLIBB データ・セットで同じでなければなりません。

これらのデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

ユーザー選択。デフォルトは 6144 です。

IMS.DBDLIB

DBDLIB には、データベース記述生成 (DBDGEN) ユーティリティーにより作成されたデータベース記述ブロック (DBD) が入っています。各 DBD (各データベースごとに 1 つ) は、約 1500 ~ 2500 バイトの直接アクセス・ストレージを必要とします。正確な所要量は、データ・セット・グループ、セグメント、フィールド、および水平レベルの数により異なります。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

ユーザー選択。デフォルトは 6144 です。

IMS.DFSOLPnn、v.DFSOLSnn

DFSOLPnn と DFSOLSnn は、IMS オンライン・システムにより使用されるオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) です。OLDS は単独の場合 (SNGL) とペアの場合 (DUAL) があります。DFSOLPnn は 1 次 (または SNGL) OLDS です。DFSOLSnn は 2 次 OLDS です。接尾部 nn は 00 から 99 までの範囲内です。IMS を開始するには、最低でも 3 つの OLDS (SNGL または DUAL) が使用可能でなければなりません。OLDS は圧縮をサポートしていません。

これらのデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

VB

LRECL

BLKSIZE-4

BLKSIZE

2048 の倍数で、6144 以上。これらのデータ・セットは、単一のエクステント (連続したトラック) として割り振らねばなりません。2 次割り振りを指定してはなりません。トラックあたり 1 から 4 ブロックとなるようなブロック・サイズを選択してください。

IMS.DFSTRA01、IMS.DFSTRA02

DFSTRA01 と DFSTRA02 は、IMS オンライン・システムにより使用される外部トレース・データ・セットです。この 2 つのデータ・セットは、DFSVSMxx OPTIONS ステートメントでトレース・テーブル OUT パラメーターが使用される時か、あるいは /TRACE SET ON TABLE nnn OPTION LOG コマンドが用いられる時に、使用されます。DFSTRA01 が充てんされた場合は、DFSTRA02 が使用されます。DFSTRA02 が充てんされた場合は、DFSTRA01 が使用されます。

これらのデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

VB

LRECL

4016

BLKSIZE

$(LRECL \times n) + 4$ 。ブロック・サイズは、LRECL (4016) の倍数に、ブロック記述子ワードの 4 バイトを加えたものでなければなりません。

推奨事項: BLKSIZE は 20,084 を使用してください。これは 5 つの論理レコード (4016 x 5) にブロック記述子ワード (4) を加えたものです。現行の DASD は 1/2 トラックであるため、20,084 の BLKSIZE をお勧めします。

これらのデータ・セットは、単一のエクステント (連続したトラック) として割り振らねばなりません。2 次割り振りを指定してはなりません。

IMS.DFSTRA0T

ユーザーが外部トレース・データ・セットとしてテープを使用する場合、DFSTRA01 および DFSTRA02 の代わりに、DFSTRA0T を使用する必要があります。

DFSTRA0T は動的に割り振られる必要があります。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

VB

LRECL

4016

BLKSIZE

(LRECL x n) + 4

IMS.DFSWADSn

DFSWADSn は、IMS オンライン・システムが使用する、先行書き込みデータ・セット (WADS) です。WADS は単独の場合 (SNGL) とペアの場合 (DUAL) がありますが、OLDS の場合のような、1 次や 2 次という概念は適用されません。接頭部 *n* は 0 から 9 の範囲内です。IMS を開始するには、最低でも 1 つの WADS が使用可能でなければなりません。

これらのデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

VSAM 線形

RECFM

F

LRECL

4096

BLKSIZE

4096

これらのデータ・セットは、単一のエクステンツ (連続したトラック) として割り振らねばなりません。2 次割り振りを指定してはなりません。

IMS.FORMAT

FORMAT には、MFS 言語ユーティリティーが作成するメッセージ形式サービス (MFS) ブロックが入っています。この内容は、オンライン変更ユーティリティーによって IMS.FORMATA または IMS.FORMATB のいずれかにコピーされます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

ユーザー選択。デフォルトは 6144 です。FORMAT、FORMATA、FORMATB、および TFORMAT データ・セットの BLKSIZE はすべて同じでなければなりません。

IMS.FORMATA、IMS.FORMATB

FORMATA と FORMATB には FORMAT メンバーが入っています。これらのライブラリーのうち 1 つがアクティブのとき (オンライン・システムにより使用されているとき)、IMS.FORMAT の内容が他方の、すなわち非アクティブの、ライブラリーにコピーされ、次のオンライン変更の実行で使用されるのに備えます。

IMS.FORMATA または IMS.FORMATB は、一連のマスター端末オペレーター /MODIFY コマンドでオンラインにできます。

これらのデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

ユーザー選択。デフォルトは 6144 です。FORMAT、FORMATA、FORMATB、および TFORMAT データ・セットの BLKSIZE はすべて同じでなければなりません。

IMS.IEFRDER、IMS.IEFRDER2

IEFRDER は、一般に、1 次 IMS バッチ・ログを参照します。IEFRDER2 は、一般に、2 次 IMS バッチ・ログを参照します。またこれらは、IMSRDR プロシージャにある入力データ・セットも参照できます。

バッチ・ロギングにおいて、これらのデータ・セットは次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

VB

LRECL

BLKSIZE-4

BLKSIZE

ユーザー選択 (4 KB から 32 KB)

推奨事項: 2K の倍数で、6K 以上のブロック・サイズを選択してください。

IMS.IMSDALIB

IMSDALIB は、動的に割り振られたメンバーを保管できる無許可の区分データ・セット (PDS) を定義します。例として、RECON 定義、データベース定義、DFSMDA メンバー内のあらゆる要素などがあげられます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

ユーザー選択

注: デフォルトは 6144 です。

IMS.IMSMON

トレース・レコードが IMS ログへ経路指定されていない場合、DB モニターか IMS (システム) モニターのいずれかのトレース・レコードが IMSMON に含まれます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

VB

LRECL

BLKSIZE-4

BLKSIZE

ユーザー選択

推奨事項: 2K の倍数で、6K 以上のブロック・サイズを選択してください。

IMS.MODSTAT

MODSTAT には、以下の接尾部付きデータ・セットのうちのどれを IMS オンライン・システムが初期設定時に使用すべきかを示す情報が入っています。MODSTAT は、以下のデータ・セットの ddname である必要があります。

ACBLIBA または ACBLIBB

FORMATA または FORMATB

MODBLKSA または MODBLKSB

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

F

LRECL

80

BLKSIZE

80

このデータ・セットは単一レコード BSAM データ・セットであり、1トラック分のストレージを必要とします。

IMS システムを実行する前に、ユーザーは IMS.MODSTAT を初期設定しておく必要があります。

IMS.MODSTAT2

MODSTAT2 は XRF 複合でのみ使用されます。このデータ・セットは、機能としては IMS.MODSTAT と同じです。この ddname は MODSTAT2 でなければなりません。MODSTAT の場合と同様に、ユーザーは IMS システムを実行する前にこのデータ・セットを初期設定しておく必要があります。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

F

LRECL

80

BLKSIZE

80

このデータ・セットは単一レコード BSAM データ・セットであり、1トラック分のストレージを必要とします。

IMS.MSDBCP1、IMS.MSDBCP2

MSDBCP1 と MSDBCP2 は、MSDB がシステムに対して定義されている場合に必要です。それぞれの IMS チェックポイントの際に、MSDB によって占められた仮想記憶域の連続したブロックの内容を伴った制御レコードが、これらのデータ・セットのうちのいずれかに書き込まれます。これらのデータ・セットは、連続するチェックポイントによって交代に使用され、各後続のチェックポイントによって直前のチェックポイントが上書きされます。

これらのデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

IMS が決定

LRECL

IMS が決定

BLKSIZE

IMS が決定

これらのデータ・セットは、単一のエクステント (連続したトラック) として割り振らねばなりません。2次割り振りを指定してはなりません。

IMS.MSDBCP3、IMS.MSDBCP4

MSDBCP3 と MSDBCP4 は、XRF 複合でのみ使用されます。これらのデータ・セットは、機能としては MSDBCP1 および MSDBCP2 と同じです。XRF を使えば、その4つのうちの任意の2つに、最新の MSDB チェックポイントを入れることができます。アクティブ・サブシステムは、最新の MSDB チェックポイントが入っているデータ・セットも、その他のデータ・セットも選択できますが、代替サブシステムでは、アクティブ・サブシステムが使用していない2つのデータ・セットを選択しなければなりません。

これらのデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

IMS が決定

LRECL

IMS が決定

BLKSIZE

IMS が決定

これらのデータ・セットは、単一のエクステント (連続したトラック) として割り振らねばなりません。2次割り振りを指定してはなりません。

IMS.MSDBDUMP

MSDBDUMP は、コマンド /DBDUMP がデータベース MSDB を指定している時に必要となります。このコマンドにより、すべての MSDB のダンプがこのデータ・セットに書き込まれます。書き込まれる内容は、MSDBCPx の内容と同じです。このコマンドを繰り返し実行すると、直前の内容は上書きされます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

IMS が決定

LRECL

IMS が決定

BLKSIZE

IMS が決定

このデータ・セットは、単一のエクステント (連続したトラック) として割り振らねばなりません。2 次割り振りを指定してはなりません。

IMS.MSDBINIT

MSDBINIT は、MSDB を含んだ IMS システムの場合、必須です。このデータ・セットには、それぞれの MSDB セグメントごとに 1 つのレコードが入っています。これは、すべてのコールド・スタート時に、また、/NRESTART コマンドに対して MSDBLOAD パラメーターが指定されている場合は正常再始動時に、読み取られます。MSDBINIT は、MSDB ダンプ・リカバリー・ユーティリティーか MSDB 保守ユーティリティーを実行すると作成されます。MSDBINIT には、定義済み MSDB を 1 個、数個、あるいはすべてを入れることができます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

VBT

LRECL

BLKSIZE-4

BLKSIZE

ユーザー選択

このデータ・セットは、単一のエクステント (連続したトラック) として割り振らねばなりません。2 次割り振りを指定してはなりません。

IMS.PGMLIB

PGMLIB には、ユーザー作成のアプリケーション・プログラムが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分または拡張区分 (PDSE)

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

ユーザー選択。デフォルトは 6144 です。

IMSPLEX.OLCSTAT

OLCSTAT はオプションのデータ・セットであり、グローバル・オンライン変更情報および状況が入っています。また、OLCSTAT はグローバル・データ・セットであり、IMS によって動的に割り振られます。MODSTAT および MODSTAT2 データ・セットは、OLCSTAT が使用されている場合、IMS 制御領域 JCL で定義する必要はありません。

グローバル・オンライン変更を可能にするには、ローカル MODSTAT データ・セットの代わりに OLCSTAT を定義する必要があります。1 つの IMSplex 内のすべての IMS システムは、同じ物理 OLCSTAT データ・セットを定義する必要があります。それを行わないと、IMS の初期設定が失敗します。OLC=GLOBAL が定義されている場合は、OLCSTAT が必要です。

OLCSTAT データ・セットを初期化するには、グローバル・オンライン変更ユーティリティー DFSUOLC0 を実行します。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

V

LRECL

5204

BLKSIZE

デフォルトは 5208 です。

IMS.PSBLIB

PSBLIB には、PSBGEN ユーティリティーによって作成されたプログラム仕様ブロック (PSB) が入っています。各 PSB (各プログラムごとに 1 つ) は、約 250 ~ 500 バイトの直接アクセス・ストレージを必要とします。正確な所要量は、PSB 内の入出力 PCB の数とデータベース (PCB) の数、およびセンシティブ・セグメントの数により異なります。このデータ・セットは、DB および DB/DC システムにおいては必須です。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

ユーザー選択。デフォルトは 6144 です。

IMS.QBLKS、IMS.SHMSG/1-9、IMS.LGMSG/1-9

QBLKS、SHMSG、および LGMSG は、IMS DB/DC システムがメッセージ・キューイングを実行するために必要です。メッセージ・キュー・データ・セットのスペース要件は、システム環境によって変わります。

これらのデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

IMS が決定

LRECL

IMS が決定

BLKSIZE

IMS が決定

これらのデータ・セットは、単一のエクステント (連続したトラック) として割り振らねばなりません。2 次割り振りを指定してはなりません。

SHMSG および LGMSG の場合、それぞれについて 10 個以内のデータ・セットを提供できます。複数のメッセージ・キュー・データ・セットにより、構成の柔軟性とパフォーマンスが向上します。

複数データ・セットを使用する場合、以下を行う必要があります。

- データ・セットを順番に追加します。その際、SHMSG または LGMSG を最初に指定します。
- すべてのデータ・セットに対して、同じスペース割り振りを指定します。もしユーザーが複数データ・セットに対して異なる量の割り振りを行った場合、指定された中で最小の量がすべてのデータ・セットに使用されます。例えば、4 つのデータ・セットにそれぞれ 600、600、500、および 400 シリンダーが割り振られている場合、実際に使用可能な合計スペースは、2100 シリンダー (割り振り量の合計) ではなく、1600 シリンダー (400 X 4) となります。レコードは、それぞれのデータ・セットに循環的に割り振られるため、割り振られた中で最も小さいスペースが、全体のスペース量を決定し、使用可能な合計スペース量と有効な最大レコード番号も決定します。

データ・セットの DD 名は、次のとおりでなければなりません。

- SHMSG の場合:

- SHMSG
- SHMSG1
- SHMSG2
- SHMSG3
- SHMSG4
- SHMSG5
- SHMSG6
- SHMSG7
- SHMSG8
- SHMSG9

- LGMSG の場合:

- LGMSG
- LGMSG1
- LGMSG2
- LGMSG3
- LGMSG4
- LGMSG5
- LGMSG6
- LGMSG7
- LGMSG8
- LGMSG9

IMS.QBLKSL、IMS.SHMSGL、IMS.LGMSGL

QBLKSL、SHMSGL、および LGMSGL は、XRF 複合でのみ使用されます。これらのデータ・セットは、機能としては標準のメッセージ・キュー・データ・セットと似ています。これらのデータ・セットは、開始してから、標準のメッセージ・キューが使用可能になってテークオーバーが完了するまで、いつもコールド・スタートされて、XRF 代替サブシステム上のローカル・メッセージ・キューとして使用されます。ローカル・メッセージ・キュー・データ・セットについての DCB 指定は、標準のメッセージ・キュー・データ・セットと一致している必要があります。ただし、ローカル・メッセージ・キューをはるかに小さくすることは可能です。ローカル・メッセージ・キューは、シャットダウン・メッセージ・マージンと、1 次および 2 次 IMS マスター端末メッセージがデキューされるまで、それらを保持するのに十分な大きさがなければなりません。

これらのデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

IMS が決定

LRECL

IMS が決定

BLKSIZE

IMS が決定

これらのデータ・セットは、単一のエクステント (連続したトラック) として割り振らねばなりません。2 次割り振りを指定してはなりません。

IMS.RDS

再始動データ・セット (RDS) には、IMS の再始動に必要なチェックポイント ID 表を含めた、リカバリーに必要な情報が入っています。また、RDS には、緊急時再始動の全体で保持されるように **UPDATE POOL TYPE (DBAS)** コマンドによって作成された OSAM および VSAM バッファ・プールの定義変更も入っています。ただし、RDS にはログ・レコードは入っていません。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

IMS が決定

LRECL

IMS が決定

BLKSIZE

IMS が決定

BLKSIZE 値は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバーの **RDS=** パラメーターまたは JCL で指定されたバッファ・サイズに設定されます。デフォルトは 4 KB です。

このデータ・セットには、連続したトラックのうち、少なくとも 1 つのシリンダーを割り当てる必要があります。このデータ・セットには、RDS1 コンポーネントの BCPT、RRE、SIDX、および LCRE 用に予約された少なくとも 90 ブロックを入れるのに十分な大きさを割り振る必要があります。

IMS.RDS2

RDS2 は XRF 複合でのみ使用されます。このデータ・セットは、機能としては IMS.RDS と同じです。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

IMS が決定

LRECL

IMS が決定

BLKSIZE

IMS が決定

BLKSIZE 値は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバーの **RDS=** パラメーターまたは JCL で指定されたバッファ・サイズに設定されます。デフォルトは 4 KB です。

このデータ・セットには、連続したトラックのうち、少なくとも 1 つのシリンダーを割り当てる必要があります。このデータ・セットには、RDS1 コンポーネントの BCPT、RRE、SIDX、および LCRE 用に予約された少なくとも 90 ブロックを入れるのに十分な大きさを割り振る必要があります。

本来割り振られていたボリューム以外のボリュームにデータ・セットを再呼び出しする可能性があるマイグレーション・システムや再呼び出しシステムで、いずれの RDS も管理してはなりません。そうすると、IMS はウォーム・スタートやシステムの緊急開始を行えなくなる可能性があります。

IMS.RECON1、IMS.RECON2、IMS.RECON3

RECON1、RECON2、および RECON3 データ・セットには、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能によって管理される、システム再始動情報およびリカバリー情報が入っています。

これらのデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

VSAM KSDS

IMS.REFERAL

REFERAL には、MFS 言語ユーティリティーに提供される 説明の中間テキスト・コピーが入っています。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SYSOnnn

SYSOnnn DASD データ・セットは、スプール SYSOUT データを保管するために使用されます。これらのデータ・セットの内容は、SPOOL SYSOUT 印刷ユーティリティーを使用して印刷することができます。このユーティリティーは、LINEGRP システム定義マクロのオプション次第で、自動的にスケジュールされるか、または手動で実行依頼する必要があります。nnn は、1 から 3 桁の接尾部で、システム定義の際に IMS によって順番に割り当てられます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

順次

RECFM

UM

これらのデータ・セットは、単一のエクステンツ (連続したトラック) として割り振らねばなりません。2次割り振りを指定してはなりません。

これらのデータ・セットは、IMSによって使用される以前に初期設定されている必要があります。例えば、これらのデータ・セットは、IEBGENERユーティリティーの場合であればSYSUT2 DDステートメント上に割り当てることができます。SYSUT1にはDD DUMMYを使用します。SYSUT1およびSYSUT2の両方に対してDCB属性を指定します。

IMS.TFORMAT

TFORMATには、MFS言語ユーティリティーによってMFSTEST (テスト・モード) オンライン実行用に作成される、オンラインMFS記述子が入ります。

このデータ・セットは、IMS実行プロシージャのIMSTFMATAまたはIMSTFMATB DDステートメント内の、FORMATATAまたはFORMATATBの前に連結される必要があります。

MFSフォーマットをオンラインで変更する場合は、2つのDDステートメントはこのTFORMATデータ・セットを指し示す必要がありますが、そうでない場合は、それらが2つの別個のTFORMATデータ・セットを指示することもできます。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

ユーザー選択。デフォルトは6144です。FORMAT、FORMATATA、FORMATATB、およびTFORMATデータ・セットのBLKSIZEはすべて同じでなければなりません。

このデータ・セットは、単一のエクステンツ (連続したトラック) として割り振らねばなりません。2次割り振りを指定してはなりません。

IRLM データ・セット

IRLM データ・セットは、IRLMに関連した配布ライブラリーおよびターゲット・ライブラリーです。

IMS.ADXRLOAD

ADXRLOADは、オブジェクト・モジュールが入っているIRLM配布ライブラリーです。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

ユーザー選択。6144 以上。

IMS.ADXRSAMP

ADXRSAMP は、JCL が入っている IRLM 配布ライブラリーです。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDXRSAMP

SDXRSAMP は、ロード・モジュールが入っている IRLM ターゲット・ライブラリーです。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IMS.SDXRRESL

IMS.SDXRRESL は、ロード・モジュールが入っている IRLM ターゲット・ライブラリーです。

オンラインで実行する前に、IMS.SDXRRESL を z/OS システムに対して APF 許可する必要があります。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

U

LRECL

0

BLKSIZE

ユーザー選択。32760 以上。

ユーザー・データ・セット (USER.ISPTABL)

これらのデータ・セットは、ユーザーが割り当てることができます。

いくつかの IMS 機能は、ISPF をダイアログ・マネージャーとして使用します。この場合、ユーザー表データ・セットを使用する必要がある可能性があります。また、DFSSPOC、DFSHALDB、および構文検査の機能を使用するには、ユーザー・データ・セットが必要である可能性があります。ファイル ISPTABL には、USER.ISPTABL データ・セットのみを割り当てるようにする必要があります。また、ISPTLIB 連結ではこのデータ・セットを IMS.SDFSTLIB データ・セットより前に置く必要もあります。

複数のユーザーが同時に同じ USER.ISPTABL データ・セットを使用することはできません。1 人のユーザーが複数の USER.ISPTABL データ・セットを持つことはできませんが、複数のデータ・セットを同時に使用することはできません。

このデータ・セットは、次のような属性を持っています。

DSORG

区分

DSNTYPE

PDS

RECFM

FB

LRECL

80

BLKSIZE

80 の倍数

IVP 変数

IVP ダイアログは、ジョブの作成時および IVP プロセスに使用する資料のサポート時に、ユーザーによる変更が可能な変数を使用します。

IVP ダイアログにより提示される変数は、初期化段階でユーザーが選択する環境オプションによって決まります。IVP 変数に関する追加資料は、IVP ダイアログの変数収集段階で DOC アクションを使用して印刷できます。

IVP ダイアログを使用して、IVP 変数に関する現行情報を入手できます。これらのトピックのリストでは、変数は IVP ダイアログで使用されているものと同じ順序で示されています。

- [85 ページの『一般的な変数』](#)
- [97 ページの『データ・セット割り振り変数』](#)

一般的な変数

IVP ダイアログは、データ・セット割り振りではなく、以下のジョブおよびタスクの変数を使用します。

名前

表題

IXUIVPHQ

IVP - High-level DSNAME qualifier for IVP (IVP) data sets

IXURLMHQ

IVP - High-level DSNAME qualifier for IRLM (RLM) data sets

IXUSMPHQ

IVP - 高位 DSNAME 修飾子 (SMP/E (SMP) データ・セット用)

IXUDLBHQ

IVP - 高位 DSNAME 修飾子 (IMS DLIB (DLB) データ・セット用)

IXUSYSHQ

IVP - 高位 DSNAME 修飾子 (IMS System (SYS) データ・セット用)

IXUEXEHQ

IVP - High-level DSNAME qualifier for Execution (EXE) data sets

IXUUTLHQ

IVP - 高位 DSNAME 修飾子 (ユーティリティ (UTL) データ・セット用)

IXUVSMHQ

IVP - 高位 DSNAME 修飾子 (VSAM (VSM) データ・セット用)

IXUSSCLS

SMS - ストレージ・クラス

IXUSSCL2

SMS - ストレージ・クラス (PRA RECON データ・セット用)

IXUSMCLS

SMS - 管理クラス

IXUSMCL2

SMS - 管理クラス (PRA RECON データ・セット用)

IXUSDCL2

SMS - データ・クラス (PRA RECON データ・セット用)

IXUIVPVS

IVP - VOLSER (IVP (IVP) データ・セット用)

IXUDLBVS

IVP - VOLSER (IMS 配布、DLIB、(DLB) データ・セット用)

IXUSYSVS

IVP - VOLSER (IMS システム、(SYS) データ・セット用)

IXUEX1VS

IVP - VOLSER (IMS 実行 (EX1) データ・セット用) - グループ 1

IXUEX2VS

IVP - VOLSER (IMS 実行 (EX2) データ・セット用) - グループ 2

IXUUTLVS

IVP - VOLSER (ユーティリティ (UTL) データ・セット用) - 非 VSAM

IXUUTVVS

IVP - VOLSER (ユーティリティ (UTL) データ・セット用) - VSAM

IXUIVPDT

IVP - 装置タイプ (IVP (IVP) データ・セット用)

IXUDLBDT

IVP - 装置タイプ (IMS 配布 (DLB) データ・セット用)

IXUSYSDT

IVP - 装置タイプ (IMS システム (SYS) データ・セット用)

IXUEX1DT

IVP - 装置タイプ (IMS 実行 (EX1) データ・セット用)

IXUEX2DT

IVP - 装置タイプ (IMS 実行 (EX2) データ・セット用)

IXUUTLDT

IVP - 装置タイプ (ユーティリティ (UTL) データ・セット用) - 非 VSAM

IXUUTVDT

IVP - 装置タイプ (ユーティリティ (UTL) データ・セット用) - VSAM

IXUTEMPU

IVP - 装置タイプ (一時データ・セット用)

IXUPDSFB

IVP - BLKSIZE (RECFM=FB と LRECL=80 の PDS 用) - (PFB)

IXUPDSUO

IVP - BLKSIZE (RECFM=U と LRECL=0 の PDS 用) - (PUO)

IXUSEQVB

IVP - BLKSIZE (RECFM=VB 順次データ・セット用) - (SVB)

IXUOBJFB

IVP - BLKSIZE (OBJDSET (STAGE2 アセンブリー出力) (OBJ) 用)

IXURESUO

IVP - BLKSIZE (IMS SDFSRESL (RESLIB) 用)

IXUOLDVB

IVP - BLKSIZE (IMS OLDS (オンライン・ログ・データ・セット) (OLD) 用)

IXULOGVB

IVP - BLKSIZE (IMS MONITOR およびバッチ・ログ・データ・セット (LOG) 用)

IXUTRCVB

IVP - BLKSIZE (IMS 外部トレース・データ・セット (TRC) 用)

IXUVSAMD

IVP - BLKSIZE (VSAM データ CI (VSD) 用)

IXUGZDSN

SMP - 完全修飾 DSNAME - IMS SMP/E グローバル・ゾーン

IXUTZONE

SMP - ゾーン ID - IMS SMP/E ターゲット・ゾーン

IXUSPROC

IVP - 完全修飾 DSNAME - SYS1.PROCLIB

IXUSMACL

SMP - 完全修飾 DSNAME - SYS1.MACLIB (または AMACLIB)

IXUSAMOD

SMP - 完全修飾 DSNAME - SYS1.MODGEN (または AMODGEN)

IXUSMACT

SMP - 完全修飾 DSNAME - High Level Assembler ツールキット機能 MACLIB

IXUUMAC1

SMP - 完全修飾 DSNAME - ユーザー・マクロ・ライブラリー #1 >>> 説明参照

IXUUMAC2

SMP - 完全修飾 DSNAME - ユーザー・マクロ・ライブラリー #2 >>> 説明参照

IXUUMAC3

SMP - 完全修飾 DSNAME - ユーザー・マクロ・ライブラリー #3 >>> 説明参照

IXULELKD

SMP - 完全修飾 DSNAME - IBM Language Environment® for z/OS データ・セット

IXULESPC

SMP - 完全修飾 DSNAME - IBM Language Environment for z/OS 常駐データ・セット

IXULECRL

JCL - 完全修飾 DSNAME - システム C ランタイム・ライブラリー

IXUTCPDS

JCL - 完全修飾 DSNAME - TCP/IP データ・セット

IXUTCPHN

JCL - TCP/IP ホスト名

IXUJESTY

JCL - JES バージョン (JES2 または JES3)

IXUUPROC

JCL - ユーザー PROCLIB ddname (JES2) または ddname 接尾部 (JES3)

IXUJOBNM

JCL - JOBNAME - IVP JOBNAME を使用 (Y) または TSO USERID を使用 (N)

IXUJACT1

JCL - JOB ステートメント 会計情報 - 5 の 1

IXUJACT2

JCL - JOB ステートメント 会計情報 - 5 の 2

IXUJACT3

JCL - JOB ステートメント 会計情報 - 5 の 3

IXUJACT4

JCL - JOB ステートメント 会計情報 - 5 の 4

IXUJACT5

JCL - JOB ステートメント 会計情報 - 5 の 5

IXUPGMNM

JCL - JOB ステートメント・プログラマー名

IXUJCLAS

JCL - JOB ステートメント CLASS パラメーター - IVP JOB

IXUJCLS2

JCL - JOB ステートメント CLASS パラメーター - SYSDEF STAGE2 JOB

IXUMCLAS

JCL - JOB ステートメント MSGCLASS パラメーター

IXUGROUP

JCL - JOB ステートメント GROUP パラメーター

IXUUSRID

JCL - JOB ステートメント USER パラメーター

IXUPASWD

JCL - JOB ステートメント PASSWORD パラメーター

IXUNOTFY

JCL - JOB ステートメント NOTIFY パラメーター

IXURGNSZ

JCL - JOB ステートメント REGION パラメーター (4M 以上)

IXUJTIME

JCL - JOB ステートメント TIME パラメーター

IXUSTIM1

JCL - EXEC ステートメント TIME パラメーター (SMP/E、STAGE1、STAGE2 用)

IXUSTIM2

JCL - EXEC ステートメント TIME パラメーター (DL/I バッチおよび BMP ジョブ用)

IXUSTIM3

JCL - EXEC ステートメント TIME パラメーター (MPP、IFP、その他プログラム用)

IXUJESC1

JCL - JESx ステートメント - 5 の 1

IXUJESC2

JCL - JESx ステートメント - 5 の 2

IXUJESC3

JCL - JESx ステートメント - 5 の 3

IXUJESC4

JCL - JESx ステートメント - 5 の 4

IXUJESC5

JCL - JESx ステートメント - 5 の 5

IXUJPATH

JCL - パス接頭部 (Java ネイティブ・コード用)

IXUSPATH

JCL - パス接頭部 (Java サンプル・アプリケーション用)

IXUJHOME

JCL - パス名 (JDK インストール用)

IXUJOUT

JCL - 標準出力ファイルおよびパス名

IXUJERR

JCL - 標準エラー・ファイルおよびパス名

IXUIMIDB

GEN - IMSID の (バッチ用) >>> 説明を参照してください

IXUIMID1

GEN - IMSID (DB/DC (および XRF 付き DB/DC) 用) >>> 説明を参照してください

IXUIMID2

GEN - IMSID (XRF 付き DB/DC 用) >>> 説明を参照してください

IXUIMID3

GEN - IMSID (DBCTL 用) >>> 説明を参照してください

IXUIMID4

GEN - IMSID (DCCTL 用) >>> 説明を参照してください

IXUCRC1

GEN - コマンド認識文字 (CRC) (CCTL - IVP1 用)

IXUCRC2

GEN - コマンド認識文字 (CRC) (CCTL - IVP2 用)

IXUCRC3

GEN - コマンド認識文字 (CRC) (CCTL - IVP3 用)

IXUSVCT2

GEN - IMS タイプ 2 SVC

IXUSVCT4

GEN - IMS タイプ 4 SVC (DBRC 用)

IXURLSS

IVP - IRLM サブシステム名

IXURLNM1

IVP - IRLM #1 JOBNAME

IXUIMNM1

IVP - IMS DB/DC JOBNAME および PROC 名 (システム IVP1 用)

IXUIMNM2

IVP - IMS DB/DC JOBNAME および PROC 名 (システム IVP2 用)

IXUIMNM3

IVP - IMS DBCTL JOBNAME および PROC 名 (システム IVP3 用)

IXUIMNM4

IVP - IMS DCCTL JOBNAME および PROC 名 (システム IVP4 用)

IXURCNM1

GEN - DBRC プロシージャ名 (システム IVP1 用)

IXURCNM2

IVP - DBRC プロシージャ名 (システム IVP2 用)

IXURCNM3

GEN - DBRC プロシージャ名 (システム IVP3 用)

IXURCNM4

GEN - DBRC プロシージャ名 (システム IVP4 用)

IXUDLNM1
GEN - DLISAS プロシージャー名 (システム IVP1 用)

IXUDLNM2
IVP - DLISAS プロシージャー名 (システム IVP2 用)

IXUDLNM3
GEN - DLISAS プロシージャー名 (システム IVP3 用)

IXUPRDR1
GEN - IMSRDR プロシージャー名 (システム IVP1 用)

IXUPRDR2
IVP - IMSRDR プロシージャー名 (システム IVP2 用)

IXUPRDR3
IVP - IMSRDR プロシージャー名 (システム IVP3 用)

IXUPRDR4
IVP - IMSRDR プロシージャー名 (システム IVP4 用)

IXUCQSN1
IVP - CQS ジョブ名 (システム IVP1 用)

IXUSCIN1
IVP - SCI ジョブ名 (システム IVP1 用)

IXUOMNM1
IVP - OM ジョブ名 (システム IVP1 用)

IXURMNM1
IVP - RM ジョブ名 (システム IVP1 用)

IXUMPP11
IVP - MPP #1 - JOBNAME および JOBS メンバー名 - IVP1

IXUMPP21
IVP - MPP #1 - JOBNAME および JOBS メンバー名 - IVP2

IXUMPP41
IVP - MPP #1 - JOBNAME および JOBS メンバー名 - IVP4

IXUIFP11
IVP - IFP #1 - JOBNAME および JOBS メンバー名 - IVP1

IXUIFP21
IVP - IFP #1 - JOBNAME および JOBS メンバー名 - IVP2

IXUIFP41
IVP - IFP #1 - JOBNAME および JOBS メンバー名 - IVP4

IXUIFP12
IVP - IFP #2 - JOBNAME および JOBS メンバー名 - IVP1

IXUIFP22
IVP - IFP #2 - JOBNAME および JOBS メンバー名 - IVP2

IXUIFP13
IVP - IFP #3 - JOBNAME および JOBS メンバー名 - IVP1

IXUJMP11
IVP - JMP #1 - JOBNAME および JOBS メンバー名 - IVP1

IXUJMP21
IVP - JMP #1 - JOBNAME および JOBS メンバー名 - IVP2

IXUHWSN1
IVP - IMS Connect ジョブ名 (システム IVP1 用)

IXUTCPJN
IVP - TCP/IP ジョブ名 (IMS Connect 用)

IXUTCPPI
IVP - TCP/IP ポート ID

IXUCICSP

IVP - CICS と通信するローカル TCP/IP ポート

IXUKEEPI

IVP - TCP/IP キープアライブ間隔の秒数

IXRHSTNM

JCL - リモート CICS サブシステムの TCP/IP ホスト名

IXRMTCNM

IVP - リモート CICS サブシステムの名前

IXRMTPNB

IVP - リモート CICS サブシステムのポート番号

IXUISCID

IVP - この ISC ステートメントの固有 ID

IXUISCND

IVP - ローカル IMS に対して定義されている ISC ノード名

IXUISCPX

IVP - IMSplex 内で IMS Connect を識別する名前

IXUCICSA

IVP - リモート CICS サブシステムの APPLID

IXUCICSN

IVP - リモート CICS サブシステムの NETWORK ID

IXUXCFGN

IVP - XCF グループ名 (IMS OTMA 用)

IXUVAPL1

GEN - VTAM APPLID (システム IVP1 用)

IXUVAPL2

GEN - VTAM APPLID (システム IVP2 用)

IXUVAPL4

GEN - VTAM APPLID (システム IVP4 用)

IXUVPWD1

GEN - VTAM PASSWORD (システム IVP1 用)

IXUVPWD2

GEN - VTAM PASSWORD (システム IVP2 用)

IXUVPWD4

GEN - VTAM PASSWORD (システム IVP4 用)

IXUVNDP1

GEN - VTAM ノード名 (マスター端末用) - IVP1

IXUVNDP2

GEN - VTAM ノード名 (マスター端末用) - IVP2

IXUVNDP4

GEN - VTAM ノード名 (マスター端末用) - IVP4

IXULTNP1

GEN - LTERM 名 (マスター端末用)

IXULTNS1

GEN - LTERM 名 (2 次マスター端末用)

IXUVNDU1

GEN - VTAM ノード名 (IMS ユーザー端末 #1 用)

IXULTNU1

GEN - LTERM 名 (IMS ユーザー端末 #1 用)

IXUVNDU2

GEN - VTAM ノード名 (IMS ユーザー端末 #2 用)

IXULTNU2

GEN - LTERM 名 (IMS ユーザー端末 #2 用)

IXUSUFIX

GEN - IMS Nucleus 接尾部として割り当てられる文字

IXURSENM

IVP - IMS RSE 名 (XRF 用)

IXURAIID1

IVP - RACF 定義済みユーザー ID #1

IXURAIID2

IVP - RACF 定義済みユーザー ID #2

IXURAIID3

IVP - RACF 定義済みユーザー ID #3

IXURAPSW

IVP - RACF ユーザー・ログオン・パスワード

IXURAGRP

IVP - RACF 定義済みグループ

IXUDBRGR

IVP - DBRC グループ ID (共用 RECON 用)

IXUIPLEX

IVP - IMSplex 名

IXUOBJD

OBJDSET 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXULGNI

LGENIN 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXULGNO

LGENOUT 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUPROC

PROCLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMBKS

MODBLKS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMBKA

MODBLKSA 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMBKB

MODBLKSB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMTRX

MATRIX 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMRXA

MATRIXA 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMRXB

MATRIXB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUPGML

PGMLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUPSBL

PSBLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUDBDL

DBDLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUACBL

ACBLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUACBA

ACBLIBA 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUACBB

ACBLIBB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUFMTL

FORMAT 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUFMTA

FORMATA 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUFMTB

FORMATB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUTFMT

TFORMAT 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

```
00206000 DFSIXV48 N EXE SYS PU0 N
```

IXURFRL

REFERAL 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMST1

MODSTAT 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUMST2

MODSTAT2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXUMON1

IMSMON 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC

IXUMON2

IMSMON2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC - IVP2

IXUTRC1

DFSTRA01 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUTRC2

DFSTRA02 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUTRC3

DFSTRA01 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUTRC4

DFSTRA02 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXURDS1

IMSRDS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXURDS2

IMSRDS2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXURCN1

RECON1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC

IXURCN2

RECON2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC

IXURCN3

RECON3 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC

IXUOLP0

DFSOLP00 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP1

DFSOLP01 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP2

DFSOLP02 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP3

DFSOLP03 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP4

DFSOLP04 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP5

DFSOLP05 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP9

DFSOLP99 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS0

DFSOLS00 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS1

DFSOLS01 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS2

DFSOLS02 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS3

DFSOLS03 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS4

DFSOLS04 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS5

DFSOLS05 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS9

DFSOLS99 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUWADO

DFSWADS0 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUWAD1

DFSWADS1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUWAD8

DFSWADS8 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUWAD9

DFSWADS9 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUJOB1

JOBS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUJOB2

JOBS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR - IVP

IXUTCFS

TCFSLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUQBK1

QBLKS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUQBK2

QBLKS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUQBL1

QBLKSL 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXUQBL2

QBLKSL 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSHM1

SHMSG 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUSHM2

SHMSG 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSHM3

SHMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUSHM4

SHMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSHL1

SHMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXUSHL2

SHMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXULGM1

LGMSG 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXULGM2

LGMSG 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXULGM3

LGMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXULGM4

LGMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXULGM5

LGMSG2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXULGM6

LGMSG2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXULGL1

LGMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXULGL2

LGMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSPL1

SYSO1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUSP12

SYSO1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSPL2

SYSO2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUSP22

SYSO2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSPL3

SYSO3 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUSP32

SYSO3 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUMCP1

MSDBCP1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUMCP2

MSDBCP2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUMCP3

MSDBCP3 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXUMCP4

MSDBCP4 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXUMDM1

MSDBDUMP 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUMDM2

MSDBDMP2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXUODBM

IVP - ODBM ジョブ名

IXUODNM

IVP - ODBM 名

IXUCSLD

CSLD サフィックス

IXUBPEC

OPDB に使用される BPE 構成ファイル

IXUDRDA

DRDA ポート ID

IXUCSLC

PROCLIB のメンバー CSLDCXXX のサフィックス

IXUMCRE

通信再試行の最大数

IXUCORM

メモリー内ストレージの最大容量 (キロバイト)

IXUS AFC

SAF セキュリティー・クラス名

IXUVBFN

VSAM LSR プールの VSAM バッファース数

IXUVBFS

VSAM LSR プール・バッファースのサイズ (キロバイト)

IXUXCFT

使用可能な XCF リスナー・スレッドの数

IXURCFN

リポジトリー・サーバーの構成ファイル名

IXURSPN

IVP - リポジトリー・サーバー名

IXUBPER

IVP - リポジトリー・サーバーに使用される BPE 構成名

IXURCGN

IVP - リポジトリーの XCF グループ名

IXUIMRN

IVP - IMS リポジトリー名

IXUAUDI

IVP - 監査

IXUAUID

IVP - 監査 ID

IXUAF AI

IVP - ログ・ストリームが使用不可の場合に RS を開始またはキャンセルする

IXUALOG

IVP - MVS™ ログ・ストリーム名

IXUALVL

IVP - 監査レベル

IXUADFL

IVP - 監査デフォルト

IXURPNM

IVP - リポジトリーの IMSplex グループ名

IXURLRI

IVP - リポジトリーの RM で使用する CSLRIxxx サフィックス

IXURRMN_

IVP - リポジトリーで使用する RM 名

IXURLSI

IVP - リポジトリーの SCI で使用する CSLSIxxx サフィックス

IXURCSN

IVP - リポジトリーで使用する SCI 名

IXURLOI

IVP - リポジトリーの OM で使用する CSLOIxxx サフィックス

IXUACVTN

IVP - 非同期コールアウトのコンバーター名

IXUSCVTN

IVP - 同期コールアウトのコンバーター名

IXUCATAL

IVP - IMS カタログに使用する別名

関連資料

IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

データ・セット割り振り変数

IVP はデータ・セット割り振りのためにこの変数を使用します。

名前**表題****IXUOBJD**

OBJDSET 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXULGNI

LGENIN 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXULGNO

LGENOUT 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUPROC

PROCLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMBKS

MODBLKS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMBKA

MODBLKSA 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMBKB

MODBLKSB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMTRX

MATRIX 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMRXA

MATRIXA 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMRXB

MATRIXB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUPGML

PGMLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUPSBL

PSBLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUDBDL

DBDLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUACBL

ACBLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUACBA

ACBLIBA 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUACBB

ACBLIBB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUFMTL

FORMAT 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUFMTA

FORMATA 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUFMTB

FORMATB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUTFMT

TFORMAT 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXURFRL

REFERAL 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUMST1

MODSTAT 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUMST2

MODSTAT2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXUMON1

IMSMON 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC

IXUMON2

IMSMON2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC - IVP2

IXUTRC1

DFSTRA01 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUTRC2

DFSTRA02 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUTRC3

DFSTRA01 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUTRC4

DFSTRA02 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXURDS1

IMSRDS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXURDS2

IMSRDS2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXURCN1

RECON1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC

IXURCN2

RECON2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC

IXURCN3

RECON3 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC

IXUOLP0

DFSOLP00 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP1

DFSOLP01 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP2

DFSOLP02 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP3

DFSOLP03 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP4

DFSOLP04 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP5

DFSOLP05 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLP9

DFSOLP99 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS0

DFSOLS00 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS1

DFSOLS01 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS2

DFSOLS02 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS3

DFSOLS03 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS4

DFSOLS04 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS5

DFSOLS05 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUOLS9

DFSOLS99 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUWADO

DFSWADS0 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUWAD1

DFSWADS1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUWAD8

DFSWADS8 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUWAD9

DFSWADS9 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUJOB1

JOBS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUJOB2

JOBS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR - IVP

IXUTCFS

TCFSLIB 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM、SEC、DIR

IXUQBK1

QBLKS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUQBK2

QBLKS 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUQBL1

QBLKSL 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXUQBL2

QBLKSL 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSHM1

SHMSG 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUSHM2

SHMSG 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSHM3

SHMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUSHM4

SHMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSHL1

SHMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXUSHL2

SHMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXULGM1

LGMSG 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXULGM2

LGMSG 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXULGM3

LGMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXULGM4

LGMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXULGM5

LGMSG2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXULGM6

LGMSG2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXULGL1

LGMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXULGL2

LGMSG1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSPL1

SYSO1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUSP12

SYSO1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSPL2

SYSO2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUSP22

SYSO2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUSPL3

SYSO3 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUSP32

SYSO3 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - IVP2

IXUMCP1

MSDBCP1 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUMCP2

MSDBCP2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUMCP3

MSDBCP3 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXUMCP4

MSDBCP4 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IXUMDM1

MSDBDUMP 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM

IXUMDM2

MSDBDMP2 割り振りパラメーター - HLQ、VOL、BLK、TYP、PRM - XRF

IVP ジョブおよびタスク

このセクションでは、IVP プロセスで使用できるすべてのジョブおよびタスクについて説明します。

IVP ダイアログで現れるジョブおよびタスクは、環境オプションおよび IVP サブオプションの選択によって決まります。このグループの最終のリストであるステップ Zx ~ 追加の PDS メンバーの索引は、IVP プロセスにおけるジョブまたはタスクではなく、IVP プロセスをサポートする SDFSILIB および SDFSISRC のメンバーを示します。IVP ジョブおよびタスクに関する追加資料は、IVP ダイアログのファイル調整段階または実行段階のいずれかで、DOC アクションを使用して印刷できます。

IVP ダイアログを使用して、IVP ジョブおよびタスクに関する現行情報を入手できます。

以下のリストでは、ジョブおよびタスクは IVP ダイアログで使用されるのと同じ順序で示されています。ジョブおよびタスクに対して使用される命名規則は以下の通りです。

IV_ssnnt

ここで、それぞれの意味は、以下のとおりです。

- - (下線) は、以下に示す選択された環境オプションを識別します。

- 1 - DBB - バッチ
- 2 - DBC - DBCTL
- 3 - DBT - DB/DC
- 4 - XRF - XRF 付き DB/DC
- 9 - DCC - DCCTL

- *ss* - IVP ステップを識別します。
- *nn* - 固有名を提供する IVP によって割り当てられる番号です。
- *t* - 以下に示す項目のタイプを識別します。

- J - JOB

同一の名前を持つ PDS メンバーが、ファイル調整段階の間 INSTALIB に置かれます。タイプ J の項目は、実行のために実行依頼されることを意図しています。

- T - TASK

タスクは、ユーザーが準備する必要がある作業項目を表します。タスクによっては、INSTALIB データ・セットに例が示されているものもあります。これらの例は、実行されることを意図したものではありません。

- N - サポート材料

INSTALIB データ・セットには、他のジョブ (CLIST や制御ステートメントなど) をサポートするメンバーも入れることができます。

関連概念

8 ページの『IVP 出力』

IVP システムは、豊富で多様なジョブおよびタスクのセットを提供します。このジョブおよびタスクを完了すると、z/OS 環境に統合されて、IVP パネルから選択した環境でテストされた、全機能装備の IMS システムが提供されます。

ステップ Ax ~ IVP 準備用

A シリーズのステップ内の項目は、IVP ダイアログの初期化の実行に使用されます。

名前

表題

IV_A001T

NOTE - 紹介 - ダイアログ・セットアップ

IV_A301N

CLIST - オフライン定様式ダンプ - IVP1/2/3/4

IV_A302N

CLIST - オフライン・ダンプ・フォーマッター - BATCH

IV_A303N

CNTRL - MSDB ロード制御ステートメント - DBFSAMD1/DBFSAMD2

ステップ Cx ~ システム定義用 (SYSDEF)

C シリーズのステップには、IMS システム定義の実行に必要なジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

IV_C001T

NOTE - 紹介 - システム定義

IV_C101J

JOB - SYSDEF データ・セットの割り当て

IV_C105J

JOB - RACF セキュリティー出口のアセンブリー/バインド

IV_C201T

TASK - STAGE1 ソース・デックのブラウズ

IV_C202J

JOB - SYSDEF プリプロセッサの実行

IV_C203J

JOB - SYSDEF STAGE1 の実行

IV_C301J

JOB - SYSDEF STAGE2 の実行

IV_C302J

JOB - インストールのアセンブリー/バインド デフォルト・ブロック

IV_C401J

JOB - SMP/E JCLIN の実行

IV_C405T

TASK - IMS PROCLIB メンバーの編集

ステップ Dx ~ IMS から z/OS および VTAM へのインターフェース

D シリーズのステップは、IMS と z/OS 間、および IMS と VTAM 間にインターフェースを確立するために実行する必要のあるジョブおよびタスクを指定します。

名前**表題****IV_D001T**

NOTE - 紹介 - z/OS および VTAM インターフェース

IV_D101T

TASK - XMPL - インターフェース・データ・セットの割り振り

IV_D102T

TASK - XMPL - 共用制御データ・セット (SHCDS) の割り振り

IV_D200T

TASK - XMPL - JESx プロシージャの更新

IV_D201T

TASK - XMPL - IEAAPFxx または PROGxx の更新 - 許可 DSN

IV_D202T

TASK - XMPL - IEALPAxx の更新 - MLPA モジュール

IV_D203T

TASK - XMPL - IFAPRDxx の更新 - DFSMStvs 使用可能性 - PRA

IV_D204T

TASK - XMPL - IGDSMSxx の更新 - SMS 初期化 - PRA

IV_D205T

TASK - XMPL - IEFSSNxx の更新 - SMS & z/OS リソース・リカバリー・サービス サブシステム名

IV_D206T

TASK - XMPL - IEFSSNxx の更新 - RLM サブシステム名

IV_D207T

TASK - XMPL - IEASVCxx の更新 - SVC 番号

IV_D209T

TASK - XMPL - TYPE 2 SVC のインストール

IV_D210T

TASK - XMPL - TYPE 4 SVC のバインド

- IV_D215T**
TASK - XMPL - BLSCECTX IPCS 出口の更新
- IV_D216T**
TASK - XMPL - IPCS ISPF データ・セット連結
- IV_D217T**
TASK - XMPL - z/OS ダンプ・オプションの定義
- IV_D218T**
TASK - XMPL - RACF セキュリティー・プロファイルの定義
- IV_D301T**
TASK - XMPL - VTAM アプリケーション・ノードの定義
- IV_D302T**
TASK - XMPL - VTAM ネットワーク・ノードの定義
- IV_D303T**
TASK - XMPL - VTAM ログオン・モード表の定義
- IV_D304T**
TASK - XMPL - VTAM インタープリット表の定義
- IV_D305T**
TASK - XMPL - VTAM USS 定義表の定義
- IV_D306T**
TASK - XMPL - VTAM 構成リスト (ATCCONxx) の定義
- IV_D307T**
TASK - XMPL - VTAM スタート・オプション・リスト (ATCSTRxx) の定義
- IV_D308T**
TASK - XMPL - VTAM プロシージャを SYS1.PROCLIB にコピー
- IV_D401T**
TASK - MLPA または CLPA オプションを使用した z/OS の再始動

ステップ Ex ~ IVP アプリケーションおよびシステム準備用

E シリーズのステップには、実行するサンプル・アプリケーションおよびサンプル IMS システムを準備するために実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

- IV_E001T**
NOTE - 紹介 - IVP アプリケーション/システムの構築
- IV_E101J**
JOB - データ・セットの割り振り
- IV_E102J**
JOB - PROC および開始タスクのコピー
- IV_E104T**
TASK - IMS PROC の変更
- IV_E201J**
JOB - DBDGEN
- IV_E202J**
JOB - PSBGEN
- IV_E203J**
JOB - ACBGEN
- IV_E204J**
JOB - MFS 言語ユーティリティー

- IV_E206J**
JOB - アプリケーションのアセンブリー/バインド
- IV_E301J**
JOB - 動的割り振りメンバーの作成
- IV_E302J**
JOB - 制御ステートメントを IMS.PROCLIB に追加
- IV_E303J**
JOB - SCI/OM/RM メンバーを IMS.PROCLIB に追加
- IV_E304J**
JOB - CQS メンバーを IMS.PROCLIB に追加
- IV_E305J**
JOB - EXEC PARM デフォルトの定義
- IV_E306T**
TASK - 構文検査機能サンプル
- IV_E307T**
TASK - z/OS ポリシーの定義
- IV_E308J**
JOB - DRA 始動表の定義
- IV_E309J**
JOB - TCO スクリプトの検証
- IV_E310J**
JOB - XRF プロシーチャーの作成
- IV_E311T**
TASK - IMS PROC の修正 >>> 説明参照
- IV_E312J**
JOB - STC プロシーチャーを SYS1.PROCLIB にコピー
- IV_E313J**
JOB - ジョブを IMS JOBS にコピー
- IV_E314J**
JOB - DBRC スケルトンを IMS.PROCLIB にコピー
- IV_E315J**
JOB - ユーザー出口のアセンブリー/バインド
- IV_E317J**
JOB - MODSTAT 初期設定
- IV_E318J**
JOB - ステージング・ライブラリーのコピー
- IV_E319J**
JOB - IMS カタログ・データベースの割り振りおよびロード
- IV_E401T**
TASK - システムのバックアップ

ステップ Fx ~ IVP 実行 - DBB システム (バッチ)

F シリーズのステップには、DBB バッチ・サンプル・システムの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

IV_F001T

NOTE - 紹介 - IVP 実行 - DBB

IV_F101J
JOB - データ・セットの割り振り

IV_F102J
JOB - RECON の初期設定/データベースの登録

IV_F103J
JOB - データベースの初期ロード

IV_F104J
JOB - バッチ・イメージ・コピー

IV_F105T
z/OS - z/OS DUMPxx データ・セットのクリア

IV_F106J
JOB - データベースのダンプ (DFSDDLTO (DBBBATCH) を使用)

IV_F201J
JOB - IRLM の開始

IV_F204J
JOB - FF HIDAM の更新

IV_F205J
JOB - FF HDAM の更新

IV_F206J
JOB - FF HIDAM の更新

IV_F207J
JOB - FF HDAM の更新

IV_F208T
TASK - z/OS - ジョブを取り消しダンプをとる

IV_F209J
JOB - バッチ・バックアウト・ユーティリティー - HIDAM の更新

IV_F210J
JOB - バッチ・バックアウト・ユーティリティー - HDAM の更新

IV_F211J
JOB - FF HIDAM の更新

IV_F212J
JOB - FF HDAM の更新

IV_F213T
z/OS - IRLM の停止

IV_F301J
JOB - RECON データ・セットのリスト

IV_F302J
JOB - DFDSS のログの印刷

IV_F303J
JOB - DB モニター報告書の印刷

IV_F305J
JOB - ファイル選択および印刷ユーティリティー

IV_F401J
JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ Gx ~ IVP 実行 - DBC システム (DBCTL)

G シリーズのステップには、DBC (DBCTL) サンプル・システムの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

IV_G001T

NOTE - 紹介 - IVP 実行 - DBC

IV_G101J

JOB - データ・セットの割り振り

IV_G102J

JOB - RECON データ・セット/レジスター・データベースの初期化

IV_G103J

JOB - データベースの初期ロード

IV_G104J

JOB - バッチ・イメージ・コピー

IV_G105T

z/OS - z/OS DUMPxx データ・セットのクリア

IV_G201J

JOB - IRLM の開始

IV_G203J

JOB - DBCTL 領域の開始 - IVP3

IV_G204T

z/OS - DBCTL のコールド・スタート

IV_G205T

z/OS - DBCTL オペレーター・コマンドの検討

IV_G206J

JOB - FP BMP - DEDB ロード

IV_G207J

JOB - FF BMP - オンライン・イメージ・コピー

IV_G208J

JOB - 同時イメージ・コピー

IV_G209J

JOB - FF BMP - HIDAM の更新

IV_G210J

JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_G211J

JOB - FP BMP - DEDB の更新

IV_G212J

JOB - FF JBP - HDAM の更新

IV_G213T

TASK - MVS - /CHE FREEZE を指定した DBCTL の停止

IV_G214J

JOB - DBCTL 領域の開始 - IVP3

IV_G215T

TASK - MVS - DBCTL のウォーム・スタート

IV_G216J

JOB - FF BMP - HIDAM の更新

IV_G217J

JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_G218J
JOB - FP BMP - DEDB の更新

IV_G219T
TASK - MVS - /STO REGION ABDUMP を指定した BMP 領域の停止

IV_G220J
JOB - FF BMP - HIDAM の更新

IV_G221J
JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_G222J
JOB - FP BMP - DEDB の更新

IV_G223T
TASK - MVS - MODIFY IMS,DUMP を指定した DBCTL の停止

IV_G224J
JOB - ログ・リカバリー・ユーティリティー - CLS/WADS

IV_G225J
JOB - DBCTL 領域の開始 - IVP3

IV_G226T
TASK - MVS - DBCTL の緊急時再始動

IV_G227J
JOB - FF BMP - HIDAM の更新

IV_G228J
JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_G229J
JOB - FP BMP - DEDB の更新

IV_G230T
TASK - MVS - /CHE FREEZE を指定した DBCTL の停止

IV_G231T
TASK - MVS - IRLM の停止

IV_G301J
JOB - RECON データ・セットのリスト

IV_G302J
JOB - OLDS の印刷 (DFDSS を使用)

IV_G303J
DC - IMS モニター報告書の印刷

IV_G305J
JOB - 高速機能ログ・アナリシスの印刷

IV_G306J
JOB - ログ・リカバリー・ユーティリティー - PSB モード

IV_G307J
JOB - ファイル選択および印刷ユーティリティー

IV_G308J
JOB - プログラム分離 (PI) 追跡報告書

IV_G309T
TASK - IPCS ダンプ・サンプル (DBCTL 用)

IV_G401J
JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ Hx ~ IVP 実行 - DBT システム (DB/DC)

H シリーズのステップには、DBT (DB/DC) サンプル・システムの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

IV_H001T

NOTE - 紹介 - IVP 実行 - DBT

IV_H101J

JOB - データ・セットの割り振り

IV_H102J

JOB - RECON 初期設定

IV_H103J

JOB - データベースの登録

IV_H104J

JOB - データベースの初期ロード

IV_H105J

JOB - バッチ・イメージ・コピー

IV_H106T

z/OS - z/OS DUMPxx データ・セットのクリア

IV_H201J

JOB - IRLM の開始

IV_H203J

JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP1

IV_H204T

TASK - IVP1 - IMS のコールド・スタート

IV_H205T

TASK - IVP1 - MTO オペレーター・コマンドの検討

IV_H206T

TASK - USER - ユーザー・オペレーター・コマンドの検討

IV_H207J

JOB - FP BMP - DEDB ロード

IV_H208J

JOB - FF BMP - オンライン・イメージ・コピー

IV_H209J

JOB - 同時イメージ・コピー

IV_H210J

JOB - FF BMP - HIDAM の更新

IV_H211J

JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_H212J

JOB - FP BMP - DEDB の更新

IV_H213J

JOB - FF JBP - HDAM の更新

IV_H214T

USER - FP MPP トランザクション

IV_H215T

USER - FP IFP トランザクション

IV_H216T

USER - FF JMP トランザクション

IV_H225T
IVP1 - /CHE DUMPQ を指定した IMS の停止

IV_H226J
JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP1

IV_H227T
IVP1 - IMS のウォーム・スタート

IV_H228J
JOB - FF BMP - HIDAM の更新

IV_H229J
JOB - FP BMP - HDAM の更新

IV_H230J
JOB - FP BMP DEDB の更新

IV_H231T
USER - FF MPP トランザクション

IV_H232T
IVP1 - /STO REGION ABDUMP を指定した従属領域の停止

IV_H233J
JOB - FF BMP - HIDAM の更新

IV_H234J
JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_H235J
JOB - FF BMP - DEDB の更新

IV_H236T
TASK - USER - FF MPP トランザクション

IV_H237J
JOB - FP BMP - HIDAM の更新

IV_H238J
JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_H239J
JOB - FP BMP - DEDB の更新

IV_H240T
TASK - USER - FF MPP トランザクション

IV_H241T
z/OS - MODIFY IMS,DUMP を指定した IMS の停止

IV_H242J
JOB - ログ・リカバリー・ユーティリティー - CLS/WADS

IV_H243J
JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP1

IV_H244T
IVP1 - IMS の緊急時再始動

IV_H245J
JOB - FF BMP - HIDAM の更新

IV_H246J
JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_H247J
JOB - FP BMP - DEDB の更新

IV_H248T
USER - FF MPP トランザクション

IV_H249T
IVP1 - /CHE FREEZE を指定した IMS の停止

- IV_H250T**
z/OS - IRLM の停止
- IV_H301J**
JOB - RECON データ・セットのリスト
- IV_H302J**
JOB - OLDS の印刷 (DFDSS を使用)
- IV_H303J**
DC - IMS モニター報告書の印刷
- IV_H305J**
JOB - ログ統計の印刷
- IV_H306J**
JOB - 印刷ログ・トランザクション分析
- IV_H307J**
JOB - 高速機能ログ・アナリシスの印刷
- IV_H308J**
JOB - ログ・リカバリー・ユーティリティー - PSB モード
- IV_H309J**
JOB - ファイル選択および印刷ユーティリティー
- IV_H310J**
JOB - PI トレース報告ユーティリティー
- IV_H311T**
TASK - IPCS ダンプ・サンプル (DB/DC および XRF 用)
- IV_H401J**
JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ Ix ~ IVP 実行 - XRF システム (XRF 付き DB/DC)

I シリーズのステップには、XRF (XRF 付き DB/DC) サンプル・システムの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

- IV_I001T**
NOTE - 紹介 - IVP 実行 - XRF
- IV_I101J**
JOB - データ・セットの割り振り
- IV_I102J**
JOB - RECON 初期設定
- IV_I103J**
JOB - データベースの登録
- IV_I104J**
JOB - データベースの初期ロード
- IV_I105J**
JOB - バッチ・イメージ・コピー
- IV_I106T**
TASK - MVS - MVS DUMPxx データ・セットのクリア
- IV_I201J**
JOB - IRLM の開始
- IV_I203J**
JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP1

IV_I204T
TASK - IVP1 - IVP1 のコールド・スタート (アクティブとして)

IV_I205J
JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP2

IV_I206T
TASK - IVP2 - IVP2 の緊急時再始動 (代替として)

IV_I207J
JOB - FP BMP - DEDB ロード

IV_I208J
JOB - FF JBP - HDAM の更新

IV_I209T
USER - FF MPP トランザクション

IV_I210T
USER - FP IFP トランザクション

IV_I211T
USER - FF JMP トランザクション

IV_I212T
IVP1 - /DIS HSB

IV_I213T
IVP2 - /DIS HSB

IV_I214T
z/OS - TKOVR IVP1 から IVP2 へ (MODIFY IVP1,STOP を指定)

IV_I215T
IVP2 - /UNLOCK SYSTEM

IV_I216J
JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP1

IV_I217T
IVP1 - IVP1 の緊急再始動 (代替として)

IV_I218T
TASK - USER - FF MPP トランザクション

IV_I219T
TASK - USER - FP IFP トランザクション

IV_I220T
TASK - USER - FF JMP トランザクション

IV_I221T
TASK - IVP1 - TKOVER IVP2 から IVP1 へ (/SWI SYSTEM FORCE を指定)

IV_I222T
IVP1 - /UNLOCK SYSTEM

IV_I223J
JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP2

IV_I224T
IVP2 - IVP2 の緊急再始動 (代替として)

IV_I225T
USER - FF MPP トランザクション

IV_I226T
USER - FP IFP トランザクション

IV_I227T
USER - FF JMP トランザクション

IV_I228T
IVP2 - /STO BACKUP を指定した IVP2 の停止

- IV_I229T**
IVP1 - /CHE FREEZE を指定した IVP1 の停止
- IV_I230T**
z/OS - IRLM の停止
- IV_I301J**
JOB - RECON データ・セットのリスト
- IV_I401J**
JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ Jx ~ IVP 実行 - DCC システム (DCCTL)

J シリーズのステップには、DCC (DCCTL) サンプル・システムの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

- IV_J001T**
NOTE - 紹介 - IVP 実行 - DCC
- IV_J101J**
JOB - データ・セットの割り振り
- IV_J102J**
JOB - RECON データ・セットの初期化
- IV_J103T**
z/OS - z/OS DUMPxx データ・セットのクリア
- IV_J201J**
JOB - DCCTL 領域の開始 - IVP4
- IV_J202T**
IVP4 - IMS のコールド・スタート
- IV_J203T**
IVP4 - MTO オペレーター・コマンドの検討
- IV_J204T**
USER - ユーザー・オペレーター・コマンドの検討
- IV_J205J**
JOB - WFI BMP の開始
- IV_J206T**
USER - BMP/MPP/IFP トランザクション
- IV_J208T**
IVP4 - /CHE DUMPQ を指定した IMS の停止
- IV_J209J**
JOB - DCCTL 領域の開始 - IVP4
- IV_J210T**
IVP4 - IMS のウォーム・スタート
- IV_J211J**
JOB - WFI BMP の開始
- IV_J212T**
USER - BMP TADD トランザクション
- IV_J214T**
IVP4 - WFI BMP のアベンド - /STO REGION ABDUMP
- IV_J215J**
JOB - WFI BMP の再始動 (XRST)

IV_J216T
USER - BMP TADD トランザクション

IV_J218T
z/OS - MODIFY IMS,DUMP を指定した IMS の停止

IV_J219J
JOB - ログ・リカバリー・ユーティリティー - CLS/WADS

IV_J220J
JOB - DCCTL 領域の開始 - IVP4

IV_J221T
IVP4 - IMS の緊急時再始動

IV_J222J
JOB - WFI BMP の再始動 (XRST)

IV_J223T
USER - WFI BMP TADD トランザクション

IV_J224T
USER - BMP/MPP/IFP トランザクション

IV_J225T
IVP4 - /CHE FREEZE を指定した IMS の停止

IV_J301J
JOB - RECON データ・セットのリスト

IV_J302J
JOB - OLDS の印刷 (DFDSS を使用)

IV_J303J
DC - IMS モニター報告書の印刷

IV_J305J
JOB - ログ統計の印刷

IV_J306J
JOB - 印刷ログ・トランザクション分析

IV_J307J
JOB - ログ・リカバリー・ユーティリティー - PSB モード

IV_J308J
JOB - ファイル選択および印刷ユーティリティー

IV_J309T
TASK - IPCS ダンプ・サンプル (DCCTL 用)

IV_J401J
JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ Nx ~ 実行用 - パーティション・データベースのサンプル・アプリケーション

N シリーズのステップには、IMS パーティション・データベース・サンプル・アプリケーションの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

IV_N001T
NOTE - 紹介 - データベースの区分化のサンプル

IV_N101J
JOB - データ・セットの割り振り

IV_N102J
JOB - RECON データ・セット/レジスター・データベースの初期化

IV_N103J
JOB - データベースの初期ロード

IV_N202J
JOB - データベースのアンロード - Migrate = YES

IV_N203J
JOB - DBD の削除

IV_N204J
JOB - DBDGEN

IV_N205J
JOB - ACBGEN

IV_N206T
TASK - HALDB 区画定義ユーティリティー

IV_N207J
JOB - パーティション・データベースの割り振り

IV_N208J
JOB - パーティション・データベースの初期設定

IV_N209J
JOB - データベースの再ロード

IV_N210J
JOB - バッチ・イメージ・コピー

IV_N211J
JOB - ステージング・ライブラリーのコピー

IV_N301J
JOB - IRLM の開始

IV_N303J
JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP1

IV_N304T
z/OS - IMS のコールド・スタート - IVP1

IV_N305T
USER - サンプル・トランザクション

IV_N306T
IVP1 - /CHE FREEZE を指定した IMS の停止

IV_N307T
z/OS - IRLM の停止

IV_N313J
JOB - DBCTL 領域の開始 - IVP3

IV_N314T
z/OS - DBCTL のコールド・スタート

IV_N315J
JOB - FF BMP - HIDAM の更新

IV_N316T
z/OS - /CHE FREEZE を指定した DBCTL の停止

IV_N317T
z/OS - IRLM の停止

IV_N401J
JOB - クリーンアップ

IV_N402J
JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ 0x ~ 共通サービス層および共通キュー・サーバーのサンプル・アプリケーション

0 シリーズのステップには、Common Service Layer サンプル・アプリケーションの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

IV_0001T

NOTE - 紹介 - CSL、DRD、OM 監査証跡、IMS カタログ

IV_0002T

NOTE - 紹介 - CSL、CQS、DRD、OM 監査証跡、IMS カタログ

IV_0004T

NOTE - 紹介 - CSL、CQS、DRD、OM 監査証跡、IMS カタログ

IV_0101J

JOB - データ・セットの割り振り

IV_0102J

JOB - CQS 実行データ・セットの割り振り

IV_0103J

JOB - RECON データ・セット/レジスター・データベースの初期化

IV_0104J

JOB - データベースの初期ロード

IV_0105J

JOB - バッチ・イメージ・コピー

IV_0201J

JOB - SCI の開始

IV_0202J

JOB - OM の開始

IV_0203J

JOB - CQS の開始

IV_0204J

JOB - RM の開始

IV_0205T

TASK - SPOC サンプル

IV_0210J

JOB - IRLM の開始

IV_0214J

JOB - DCCTL 領域の開始 - IVP4

IV_0215J

JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP1

IV_0216J

JOB - DBCTL 領域の開始 - IVP3

IV_0217T

TASK - IVP1 - IMS のコールド・スタート

IV_0218T

TASK - IVP3 - DBCTL のコールド・スタート

IV_0219T

TASK - IVP4 - DCCTL のコールド・スタート

IV_0220T

TASK - タイプ 2 コマンド・サンプル

IV_0221T
TASK - 動的リソース定義サンプル

IV_0222T
TASK - OM 監査証跡サンプル

IV_0231J
JOB - WFI BMP の開始

IV_0232J
JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_0233J
JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_0234T
USER - FF MPP トランザクション

IV_0235T
USER - BMP トランザクション

IV_0236T
IVP1 - /CHE FREEZE NOCQSSHUT を指定した IMS の停止

IV_0237T
z/OS - /CHE FREEZE を指定した DBCTL の停止

IV_0238T
IVP1 - /CHE FREEZE を指定した DCCTL の停止

IV_0239J
JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP1

IV_0240J
JOB - DBCTL 領域の開始 - IVP3

IV_0241J
JOB - DCCTL 領域の開始 - IVP4

IV_0242T
IVP1 - IMS のコールド・スタート

IV_0243T
IVP3 - DBCTL のコールド・スタート

IV_0244T
IVP4 - DCCTL のコールド・スタート

IV_0245J
JOB - WFI BMP の開始

IV_0246J
JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_0247J
JOB - FF BMP - HDAM の更新

IV_0248T
USER - FF MPP トランザクション

IV_0249T
USER - BMP トランザクション

IV_0250T
IVP1 - /CHE FREEZE を指定した DCCTL の停止

IV_0251T
IVP1 - /CHE FREEZE を指定した IMS および CQS の停止

IV_0252T
z/OS - /CHE FREEZE を指定した DBCTL の停止

IV_0253T
z/OS - SCI/OM/RM のシャットダウン

IV_0254T
TASK - IMS カタログの概要

IV_0255J
JOB - XRF 付き DB/DC 領域の開始

IV_0256J
JOB - DB/DC 領域の開始

IV_0257J
JOB - DBCTL 領域の開始

IV_0258T
TASK - IMS のコールド・スタート

IV_0259T
TASK - DBCTL のコールド・スタート

IV_0260J
JOB - IMS カタログ・データベースのデータの取得

IV_0261J
JOB - Java サンプル (Type-2 コネクティビティーを持つ SQL) の実行

IV_0262J
JOB - Java サンプル (Type-2 コネクティビティーを持つ DL/I) の実行

IV_0263T
TASK - /CHE FREEZE を指定した IMS の停止

IV_0264T
TASK - TCP/IP と RRS の開始

IV_0265J
JOB - SCI の開始

IV_0266J
JOB - OM の開始

IV_0267J
JOB - RM の開始

IV_0268J
JOB - XRF 機能付き DB/DC の開始

IV_0269J
JOB - DB/DC の開始

IV_0270J
JOB - DBCTL の開始

IV_0271T
TASK - IMS DB/DC のコールド・スタート

IV_0272T
TASK - IMS DBCTL のコールド・スタート

IV_0273J
JOB - ODBM の開始

IV_0274J
JOB - IMS Connect の開始

IV_0275J
JOB - Java サンプル (Type-4 コネクティビティーを持つ SQL) の実行

IV_0276J
JOB - Java サンプル (Type-4 コネクティビティーを持つ DL/I) の実行

IV_0277T
TASK - CSL コンポーネントのシャットダウン

IV_0278T
TASK - TCP/IP と RRS の停止

IV_O279T

TASK - IMS Connect 領域の停止

IV_O280T

TASK - /CHE FREEZE を指定した IMS の停止

IV_O282T

TASK - IRLM の停止

IV_O401J

JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ Px ~ タイプ 2 コマンド環境のサンプル・アプリケーション

P シリーズのステップには、拡張コマンド環境サンプル・アプリケーションの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

IV_P001T

NOTE - 紹介 - タイプ 2 コマンド環境のサンプル

IV_P101J

JOB - データ・セットの割り振り

IV_P102J

JOB - RECON データ・セット/レジスター・データベースの初期化

IV_P103J

JOB - データベースの初期ロード

IV_P104J

JOB - バッチ・イメージ・コピー

IV_P210J

JOB - IRLM の開始

IV_P214J

JOB - DCCTL 領域の開始 - IVP4

IV_P215J

JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP1

IV_P216J

JOB - DBCTL 領域の開始 - IVP3

IV_P217T

TASK - SPOC サンプル I

IV_P218T

IVP1 - IMS のコールド・スタート

IV_P219T

IVP3 - DBCTL のコールド・スタート

IV_P220T

IVP4 - DCCTL のコールド・スタート

IV_P221T

TASK - SPOC サンプル II

IV_P229T

IVP4 - /CHE FREEZE を指定した DCCTL の停止

IV_P230T

IVP1 - /CHE FREEZE を指定した IMS の停止

IV_P231T

IVP3 - /CHE FREEZE を指定した DBCTL の停止

IV_P232T

z/OS - SCI/OM のシャットダウン

IV_P233T

z/OS - IRLM の停止

IV_P401J

JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ Qx ~ 実行用 - IMS Connect サンプル・アプリケーションを使用する全機能 MPP トランザクション

Q シリーズのステップには、IMS Connect サンプル・アプリケーションを使用する全機能 MPP トランザクションの実行時に使用する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

IV_Q001T

NOTE - IMS Connect サンプルの紹介

IV_Q101J

JOB - データ・セットの割り振り

IV_Q102J

JOB - RECON 初期設定

IV_Q103J

JOB - データベースの登録

IV_Q104J

JOB - データベースの初期ロード

IV_Q105J

JOB - バッチ・イメージ・コピー

IV_Q201J

JOB - IRLM の開始

IV_Q202JT

TASK - TCPIP の開始

IV_Q203J

JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP1

IV_Q204T

TASK - IMS のコールド・スタート - IVP1

IV_Q205J

JOB - IMS Connect 領域の開始

IV_Q206J

JOB - IMS Connect クライアント・アプリケーション

IV_Q207T

TASK - IMS Connect コマンド

IV_Q210T

TASK - IVP1 - IMS Connect 領域の停止

IV_Q211T

TASK - /CHE FREEZE を指定した IMS の停止

IV_Q212T

z/OS - IRLM の停止

IV_Q401J

JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ Rx ～ 並列 RECON アクセス・サンプル用

R シリーズのステップには、並列 RECON アクセス・サンプルの実行時に実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

IV_R001T

NOTE - 紹介 - 並列 RECON アクセス・サンプル

IV_R002T

TASK - z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS)

IV_R003T

TASK - トランザクション VSAM (TVS) の開始

IV_R004J

JOB - SCI の開始

IV_R005J

JOB - DBRC SCI 登録出口のアセンブリー/バインド

IV_R101J

JOB - データ・セットの割り振り

IV_R102J

JOB - RECON 初期設定

IV_R103J

JOB - データベースの登録

IV_R104J

JOB - データベースの初期ロード

IV_R105J

JOB - バッチ・イメージ・コピー

IV_R201J

JOB - IRLM の開始

IV_R203J

JOB - DB/DC 領域の開始 - IVP1

IV_R204T

IVP1 - IMS のコールド・スタート

IV_R220J

JOB - FF BMP - HIDAM の更新

IV_R221T

USER - FF MPP トランザクション

IV_R222J

USER - JOB - WFI BMP の開始

IV_R223T

USER - BMP/MPP/IFP トランザクション

IV_R224J

JOB - RECON のリスト

IV_R230T

TASK - DB/DC の停止

IV_R231T

TASK - DBCTL の停止

IV_R232T

TASK - DCCTL の停止

IV_R233T

z/OS - IRLM の停止

IV_R234T

z/OS - SCI の停止

IV_R235T

z/OS - TVS の停止

IV_R236T

z/OS - RRS の停止

IV_R401J

JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ Sx ~ コールアウト・サンプル用

S シリーズのステップには、同期/非同期コールアウト IVP サンプルの実行環境をセットアップするために実行する必要があるジョブおよびタスクが含まれます。これらのサンプルは、IMS TM リソース・アダプター、IMS Enterprise Suite SOAP Gateway、またはユーザー提供の IMS Connect クライアント・アプリケーションを使用します。

名前

表題

IV_S001T

NOTE - 紹介 - コールアウト・サンプル

IV_S101J

JOB - データ・セットの割り振り

IV_S102J

JOB - RECON 初期設定

IV_S103J

JOB - データベースの登録

IV_S104J

JOB - データベースの初期ロード

IV_S105J

JOB - バッチ・イメージ・コピー

IV_S201J

JOB - IRLM の開始

IV_S202T

TASK - TCP/IP の開始

IV_S203J

JOB - DB/DC 領域の開始

IV_S205T

TASK - IMS のコールド・スタート - IVP1

IV_S207J

JOB - IMS Connect 領域の開始

IV_S220J

JOB - ホスト・プログラムが非同期コールアウト・メッセージを送信する

IV_S221T

TASK - トランザクション・パイプ状況の表示

IV_S222J

JOB - クライアント・プログラムが非同期コールアウト要求を受信する

IV_S223J

JOB - IMS プログラムによる同期コールアウト・メッセージの送信

IV_S224T

TASK - トランザクション・パイプの同期状況の表示

IV_S225J

JOB - ユーザー・アプリケーションが同期要求 (同期応答) を受信する

IV_S226T

TASK - NOTE - コールアウト・サンプル - IMS TM Resource Adapter

IV_S227J

JOB - IMS プログラムによる非同期コールアウト・メッセージの送信

IV_S228J

JOB - IMS プログラムによる同期コールアウト・メッセージの送信

IV_S229T

TASK - コールアウト・サンプル - IMS Enterprise Suite SOAP Gateway

IV_S230J

JOB - IMS プログラムによる非同期コールアウト・メッセージの送信

IV_S231J

JOB - IMS プログラムによる同期コールアウト・メッセージの送信

IV_S301T

TASK - IMS Connect 領域の停止

IV_S302T

TASK - /CHE FREEZE を指定した IMS の停止

IV_S304T

TASK - IRLM の停止

IV_S401J

JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ Tx ~ オープン・データベース・サンプル・アプリケーション

T シリーズのステップには、オープン・データベース・サンプル・アプリケーションの実行中に実行する必要があるジョブやタスクが含まれます。

名前**表題****IV_T101T**

NOTE - 紹介 - オープン・データベース・サンプル

IV_T101J

JOB - データ・セットの割り振り

IV_T102J

JOB - RECON 初期設定

IV_T103J

JOB - データベースの登録

IV_T104J

JOB - データベースの初期ロード

IV_T105J

JOB - バッチ・イメージ・コピー

IV_T201T

TASK - TCP/IP と z/OS リソース・リカバリー・サービスの開始

IV_T201J

JOB - SCI の開始

IV_T202J

JOB - OM の開始

IV_T203J

JOB - RM の開始

IV_T204J

JOB - IRLM の開始

- IV_T205J**
JOB - XRF 機能付き DB/DC の開始
- IV_T206J**
JOB - DB/DC の開始
- IV_T207J**
JOB - DBCTL の開始
- IV_T208T**
TASK - IMS DB/DC のコールド・スタート
- IV_T209T**
TASK - IMS DBCTL のコールド・スタート
- IV_T210J**
JOB - ODBM の開始
- IV_T211J**
JOB - IMS Connect の開始
- IV_T220J**
JOB - アプリケーション実行のための UNIX スクリプト作成
- IV_T230J**
JOB - サンプルの実行とジョブ・ログへのアウトプットのコピー
- IV_T301T**
TASK - OM、RM、SCI、ODBM、IMS Connect の停止
- IV_T302T**
TASK - /CHE FREEZE を指定した IMS の停止
- IV_T303T**
TASK - IRLM の停止
- IV_T401J**
JOB - データ・セットのスクラッチ

ステップ Ux ~ IMSRSC リポジトリ・サンプル・アプリケーション

U シリーズのステップには、IMSRSC リポジトリ・サンプル・アプリケーションの実行中に実行する必要があるジョブやタスクが含まれます。

名前

表題

- IV_U101T**
NOTE - IMSRSC リポジトリの DRD リソースの使用法の紹介
- IV_U101J**
JOB - データ・セットの割り振り
- IV_U102J**
JOB - SCI の開始
- IV_U103J**
JOB - OM の開始
- IV_U104J**
JOB - リポジトリ・サーバー (RS) の開始
- IV_U105J**
JOB - IMSRSC リポジトリを RS カタログ・リポジトリに追加してからリポジトリを開始
- IV_U106J**
JOB - RM の開始
- IV_U202J**
JOB - すべてのリポジトリの状況情報をリスト

IV_U204J

JOB - IMSRSC リポジトリへのデータの設定

IV_U205J

JOB - RS カタログ・リポジトリの IMSRSC リポジトリの停止および名前変更

IV_U206J

JOB - 単一リポジトリの詳細情報をリスト

IV_U207J

JOB - リポジトリの定義の変更/更新

IV_U208J

JOB - RS カタログ・リポジトリからのリポジトリの削除

IV_U209J

JOB - 削除済みリポジトリの開始を RS に要求

IV_U401T

z/OS - SCI、OM、RM、および RS のシャットダウン

IV_U402J

z/OS - データ・セットのスクラッチ

関連概念29 ページの『[IMSRSC リポジトリを使用した動的リソース定義サンプル・アプリケーション](#)』

動的リソース定義 (DRD) サンプル・アプリケーションは、IMSRSC リポジトリを使用した DRD のセットアップおよび操作方法を示します。

ステップ Zx ~ 追加の PDS メンバーの索引

Z シリーズのステップには、追加の PDS メンバーの索引用のジョブおよびタスクが含まれます。

名前

表題

IV_Z001T

NOTE - 紹介 - INDEX を PDS メンバーに

DFSAAAS0

著作権ステートメント - /*

DFSAAAS1

著作権ステートメント - *

DFSAAAS2

著作権ステートメント - /* */

DFSIXS00

IMBED - 著作権ステートメント - /*

DFSIXS01

IMBED - 著作権ステートメント - *

DFSIXS02

IMBED - 著作権ステートメント - /* */

DFSIXS03

IMBED - EXAMPLE ブロック

DFSIXS04

IMBED - IMBED - JMP #1 実行 JCL (IVP1 用)

DFSIXS05

IMBED - 標準 JOB ステートメント

DFSIXS06

IMBED - SMP/E カタログ式プロシージャ

DFSIXS07

IMBED - IRLM DXRJPROC インライン・プロシージャ

DFSIXS08
IMBED - JMP #1 実行 JCL (IVP2 用)

DFSIXS09
IMBED - DFSPBIV3 (DBCTL 用)

DFSIXS10
IMBED - DFSPBIV1 (DB/DC 用)

DFSIXS11
IMBED - DFSPBIV2 (XRF 用) - システム IVP2

DFSIXS12
IMBED - DFSPBIV1 (XRF 用) - システム IVP1

DFSIXS13
IMBED - DFSPBIV4 (DCCTL 用) - システム IVP4

DFSIXS14
IMBED - IRLM #1 実行 JCL

DFSIXS15
IMBED - IRLM #2 実行 JCL

DFSIXS16
IMBED - DBCTL 実行ステップ (IVP3 用)

DFSIXS17
IMBED - DB/DC 実行ステップ (IVP1 用)

DFSIXS18
IMBED - DB/DC 実行ステップ (IVP2 用)

DFSIXS19
IMBED - MPP #1 実行 JCL (IVP1 用)

DFSIXS20
IMBED - IFP #1 実行 JCL (IVP1 用)

DFSIXS21
IMBED - IFP #2 実行 JCL (IVP1 用)

DFSIXS22
IMBED - IFP #3 FP サンプル・アプリケーション (IVP1 用)

DFSIXS23
IMBED - MPP #1 実行 JCL (IVP2 用)

DFSIXS24
IMBED - IFP #1 実行 JCL (IVP2 用)

DFSIXS25
IMBED - IFP #2 実行 JCL (IVP2 用)

DFSIXS26
IMBED - HIDAM BMP 実行ステップ (IVP3 用)

DFSIXS27
IMBED - HDAM BMP 実行ステップ (IVP3 用)

DFSIXS28
IMBED - DEDB BMP LOAD 実行ステップ (IVP3 用)

DFSIXS29
IMBED - DEDB BMP 実行ステップ (IVP3 用)

DFSIXS30
IMBED - DBRC インライン・プロシージャ

DFSIXS32
IMBED - DBRC 基幹 JCL - JOBJCL2

DFSIXS33
IMBED - DBRC 基幹 JCL - ARCHJCL

DFSIXS34
IMBED - DBRC 基幹 JCL - CAJCL

DFSIXS35
IMBED - DBRC 基幹 JCL - ICJCL

DFSIXS36
IMBED - DBRC 基幹 JCL - JOBJCL

DFSIXS37
IMBED - DBRC 基幹 JCL - LOGCLJCL

DFSIXS38
IMBED - DBRC 基幹 JCL - OICJCL

DFSIXS39
IMBED - DBRC 基幹 JCL - RECOVJCL

DFSIXS40
IMBED - ステージ 1 ソース - IVP サンプル・アプリケーション

DFSIXS41
IMBED - ステージ 1 ソース - IMS サンプル・アプリケーション

DFSIXS42
IMBED - ステージ 1 ソース - FP サンプル・アプリケーション

DFSIXS43
IMBED - ステージ 1 ソース - 通信

DFSIXS46
IMBED - JES 制御ステートメント (ユーザー PROCLIB 用)

DFSIXS47
IMBED - ユーザー提供の JES 制御ステートメント

DFSIXS48
IMBED - IVPB HIDAM Batch 実行ステップ

DFSIXS49
IMBED - IVPB HDAM Batch 実行ステップ

DFSIXS50
IMBED - IVP1 HIDAM BMP 実行ステップ

DFSIXS51
IMBED - IVP1 HDAM BMP 実行ステップ

DFSIXS52
IMBED - IVP1 DEDB BMP LOAD 実行ステップ

DFSIXS5A
IMBED - IVP1 HDAM JBP 実行ステップ

DFSIXS53
IMBED - IMSWT000 - IVP1/IVP4

DFSIXS54
IMBED - IMSWT000 - IVP2

DFSIXS56
IMBED - 統計分析ユーティリティー・インライン・プロシージャ

DFSIXS57
IMBED - ログ・トランザクション分析ユーティリティー・インライン・プロシージャ

DFSIXS58
IMBED - FP Log Analysis utility インライン・プロシージャ

DFSIXS59
IMBED - DEDB BMP 実行ステップ (IVP1 用)

DFSIXS60
IMBED - DFSIVD1 - HIDAM/OSAM - DB ロード JOB ステップ

DFSIXS61
IMBED - DFSIVD2 - HDAM/VSAM - DB ロード JOB ステップ

DFSIXS62
IMBED - DFSIVD3 - DEDB/VSAM - DB ロード JOB ステップ

DFSIXS63
IMBED - DI21PART - HISAM/VSAM - DB ロード JOB ステップ

DFSIXS64
IMBED - DBFSAMD3 - DEDB/VSAM - DB ロード JOB ステップ

DFSIXS65
IMBED - DBFSAMD4 - HDAM/VSAM - DB ロード JOB ステップ

DFSIXS66
IMBED - MSDB - DB ロード JOB ステップ - IVP & FP サンプル

DFSIXS67
IMBED - INIT.RECON データ・セット制御ステートメント

DFSIXS68
IMBED - INIT.DB/DBDS/ADS - DFSIVD1 - HIDAM/OSAM

DFSIXS69
IMBED - INIT.DB/DBDS/ADS - DFSIVD2 - HDAM/VSAM

DFSIXS70
IMBED - INIT.DB/DBDS/ADS - DFSIVD3 - DEDB/VSAM

DFSIXS71
IMBED - INIT.DB/DBDS/ADS - DI21PART - HISAM/VSAM

DFSIXS72
IMBED - INIT.DB/DBDS/ADS - DBFSAMD3 - DEDB/VSAM

DFSIXS73
IMBED - INIT.DB/DBDS/ADS - DBFSAMD4 - HDAM/VSAM

DFSIXS74
IMBED - 割り振り JCL - DFSIVD1 - HIDAM/OSAM

DFSIXS75
IMBED - 割り振り JCL - DFSIVD2 - HDAM/VSAM

DFSIXS76
IMBED - 割り振り JCL - DFSIVD3 - DEDB/VSAM

DFSIXS77
IMBED - 割り振り JCL - DI21PART - HISAM/VSAM

DFSIXS78
IMBED - 割り振り JCL - DBFSAMD3 - DEDB/VSAM

DFSIXS79
IMBED - 割り振り JCL - DBFSAMD4 - HDAM/VSAM

DFSIXS80
IMBED - 割り振り JCL - MSDBINIT - IVP & FP SMPL

DFSIXS81
IMBED - 割り振り JCL - DBRC RECON データ・セット

DFSIXS82
IMBED - JCL のスクラッチ - DFSIVD1 - HIDAM/OSAM

DFSIXS83
IMBED - JCL のスクラッチ - DFSIVD2 - HDAM/VSAM

DFSIXS84
IMBED - JCL のスクラッチ - DFSIVD3 - DEDB/VSAM

DFSIXS85
IMBED - JCL のスクラッチ - DI21PART - HISAM/VSAM

DFSIXS86
IMBED - JCL のスクラッチ - DBFSAMD3 - DEDB/VSAM

DFSIXS87
IMBED - JCL のスクラッチ - DBFSAMD4 - HDAM/VSAM

DFSIXS88
IMBED - JCL のスクラッチ - MSDBINIT - IVP & FP SMPL

DFSIXS89
IMBED - JCL のスクラッチ - DBRC RECON データ・セット

DFSIXS90
IMBED - DCCTL 実行ステップ (システム IVP4 用)

DFSIXS91
IMBED - 実行ステップ (BMP 用) - IVP4

DFSIXS92
IMBED - 実行 JCL (MPP #1 用) - IVP4

DFSIXS93
IMBED - 実行 JCL (IFP #1 用) - IVP4

DFSIXS94
IMBED - XRST 実行 JCL (WFI BMP 用) - IVP4

DFSIXS95
IMBED - PI Trace Report utility - インライン・プロシージャ

DFSIXS96
IMBED - JCL のスクラッチ - CQS 実行データ・セット

DFSIXS97
IMBED - JCL のスクラッチ - Java データ・セット

DFSIXS98
IMBED - 割り振り JCL - Java データ・セット

DFSIXS99
IMBED - Java AUTO および EMPL - DB ロード JOB ステップ

DFSIVC04
IVP - CPY - HD DB Load 制御ステートメント

DFSIVC05
IVP - CPY - HD DB DLI/DBB/BMP 制御ステートメント

DFSIVC06
IVP - CPY - MSDB Load 制御ステートメント

DFSIVC07
IVP - CPY - WFI BMP (DCCTL) ロード・ステートメント

DFSIVD1
IVP - DBD - HIDAM/OSAM

DFSIVD1I
IVP - DBD - HIDAM Index/VSAM

DFSIVD2
IVP - DBD - HDAM/VSAM

DFSIVD3
IVP - DBD - DEDB/VSAM

DFSIVD4
IVP - DBD - MSDB

DFSIVD5
IVP - DBD - GSAM/BSAM

DFSIVP1
IVP - PSB - 非会話型 HIDAM

DFSIVP2
IVP - PSB - 非会話型 HDAM

DFSIVP3
IVP - PSB - 会話型 HDAM

DFSIVP31
IVP - PSB - 会話型 HDAM - PASCAL バージョン

DFSIVP32
IVP - PSB - 会話型 HDAM - C バージョン

DFSIVP33
IVP - PSB - 会話型 HDAM - Java バージョン

DFSIVP34
IVP - PSB - 会話型 HDAM - COBOL バージョン

DFSIVP35
IVP - PSB - 会話型 HDAM - REXX バージョン

DFSIVP37
IVP - PSB - 会話型 HDAM - Java バージョン

DFSIVP4
IVP - PSB - IFP DEDB

DFSIVP5
IVP - PSB - IFP MSDB

DFSIVP6
IVP - PSB - DLI/DBB/BMP HIDAM

DFSIVP61
IVP - PSB - DLI/DBB/BMP HIDAM - PASCAL バージョン

DFSIVP62
IVP - PSB - DLI/DBB/BMP HIDAM - C バージョン

DFSIVP64
IVP - PSB - DLI/DBB/BMP HIDAM - COBOL バージョン

DFSIVP65
IVP - PSB - DLI/DBB/BMP HIDAM - REXX バージョン

DFSIVP67
IVP - PSB - DLI/DBB/JBP HDAM - Java バージョン

DFSIVP7
IVP - PSB - DLI/DBB/BMP HDAM

DFSIVP8
IVP - PSB - BMP DEDB

DFSIVP9
IVP - PSB - OLIC BMP - HIDAM/OSAM

DFSIVPA
IVP - PSB - HIDAM ロード

DFSIVPB
IVP - PSB - HDAM ロード

DFSIVPC
IVP - PSB - DEDB ロード

DFSIVPD
IVP - PSB - DCCTL WFI BMP

DFSIVPE
IVP - PSB - DCCTL 非会話型 MPP

DFSIVPF
IVP - PSB - DCCTL 会話型 MPP

DFSIVPG
IVP - PSB - DCCTL IFP

DFSIVF1
IVP - MFS - 非会話型 HIDAM

DFSIVF2
IVP - MFS - 非会話型 HDAM

DFSIVF3
IVP - MFS - 会話型 HDAM

DFSIVF31
IVP - MFS - 会話型 HDAM - PASCAL バージョン

DFSIVF32
IVP - MFS - 会話型 HDAM - C バージョン

DFSIVF33
IVP - MFS - 会話型 HDAM - Java バージョン

DFSIVF34
IVP - MFS - 会話型 HDAM - COBOL バージョン

DFSIVF35
IVP - MFS - 会話型 HDAM - REXX バージョン

DFSIVF37
IVP - MFS - 会話型 HDAM - Java バージョン

DFSIVF4
IVP - MFS - IFP DEDB

DFSIVF5
IVP - MFS - IFP MSDB

DFSIVFD
IVP - MFS - WFI BMP

DFSIVFE
IVP - MFS - 非会話型 MPP

DFSIVFF
IVP - MFS - 会話型 MPP

DFSIVFG
IVP - MFS - IFP

DFSIVA1
IVP - PGM - 非会話型 HIDAM

DFSIVA2
IVP - PGM - 非会話型 HDAM

DFSIVA3
IVP - PGM - 会話型 HDAM

DFSIVA31
IVP - PGM - 会話型 HDAM - PASCAL バージョン

DFSIVA32
IVP - PGM - 会話型 HDAM - C バージョン

DFSIVA34
IVP - PGM - 会話型 HDAM - COBOL バージョン

DFSIVA35
IVP - PGM - 会話型 HDAM - REXX バージョン

DFSIVA4
IVP - PGM - IFP DEDB

DFSIVA5
IVP - PGM - IFP MSDB

DFSIVA6
IVP - PGM - DLI/DBB/BMP HIDAM

DFSIVA61
IVP - PGM - DLI/DBB/BMP HIDAM - PASCAL バージョン

DFSIVA62
IVP - PGM - DLI/DBB/BMP HIDAM - C バージョン

DFSIVA64
IVP - PGM - DLI/DBB/BMP HIDAM - COBOL バージョン

DFSIVA65
IVP - PGM - DLI/DBB/BMP HIDAM - REXX バージョン

DFSIVA7
IVP - PGM - DLI/DBB/BMP HDAM

DFSIVA8
IVP - PGM - BMP DEDB

DFSIVA9
IVP - PGM - IMS Connect クライアント

DFSIVAC
IVP - PGM - DEDB ロード

DFSIVAD
IVP - PGM - WFI BMP (DCCTL 用)

DFSIVAE
IVP - PGM - 非会話型 MPP (DCCTL 用)

DFSIVAF
IVP - PGM - 会話型 MPP (DCCTL 用)

DFSIVAG
IVP - PGM - IFP (DCCTL 用)

IV_REXX
IVP - PGM - IVPREXX 汎用 EXEC ドライバー

DFSIVG20
IVP - PGM - WTOR サブルーチン (PASCAL 用)

DFSIVG30
IVP - PGM - WTOR サブルーチン (C 用)

DFSIVJG2
IVP - JCL - サンプル・アセンブルおよびリンク (DFSIVG20 用)

DFSIVJG3
IVP - JCL - サンプル・アセンブルおよびリンク (DFSIVG30 用)

DFSIVJP3
IVP - JCL - サンプル・アセンブルおよびリンク (DFSIVA31 用)

DFSIVJP6
IVP - JCL - サンプル・アセンブルおよびリンク (DFSIVA61 用)

DFSIVJC3
IVP - JCL - サンプル・アセンブルおよびリンク (DFSIVA32 用)

DFSIVJC6
IVP - JCL - サンプル・アセンブルおよびリンク (DFSIVA62 用)

DFSIVJB3
IVP - JCL - サンプル・アセンブルおよびリンク (DFSIVA34 用)

DFSIVJB6
IVP - JCL - サンプル・アセンブルおよびリンク (DFSIVA64 用)

DI21PART
IMS - DBD - HISAM/VSAM

DFSSAMC1

IMS - CPY - DI21PART ダンプ制御ステートメント

DFSSAM11

IMS - PSB - DB ロード

DFSSAM12

IMS - PSB - PART Tran

DFSSAM13

IMS - PSB - DSPINV Tran

DFSSAM14

IMS - PSB - ADDPART/ADDINV/DLETPART/DLETINV Tran

DFSSAM15

IMS - PSB - CLOSE Tran

DFSSAM16

IMS - PSB - DISBURSE Tran

DFSSAM17

IMS - PSB - DSPALLI Tran

DFSSAM18

IMS - PSB - DB ダンプ

DFSSAM19

IMS - PSB - Batch/BMP Misc

DFSSAM01

IMS - PGM - DB ロード

DFSSAM02

IMS - PGM - PART Tran

DFSSAM03

IMS - PGM - DSPINV Tran

DFSSAM04

IMS - PGM - ADDPART/ADDINV/DLETPART/DLETINV Tran

DFSSAM05

IMS - PGM - CLOSE Tran

DFSSAM06

IMS - PGM - DISBURSE Tran

DFSSAM07

IMS - PGM - DSPALLI Tran

DFSSAM08

IMS - PGM - DB ダンプ

DFSSUT04

IMS - PGM - Unexpected Status exit

MFD SYSN

IMS - CPY - DB ロード入力

DFSI VPC1

IMS - PSB - IBM CICS Transaction Server for z/OS IVP DFHSAM04

DFSI VPC2

IMS - PSB - CICS IVP DFHSAM05

DFSI VPC3

IMS - PSB - CICS IVP DFHSAM14

DFSI VPC4

IMS - PSB - CICS IVP DFHSAM24

DFSI VPC5

IMS - PSB - CICS IVP DFHSAM15

DFSIVPC6
IMS - PSB - CICS IVP DFHSAM25

DBFSAMD1
FP - DBD - MSDB

DBFSAMD2
FP - DBD - MSDB

DBFSAMD3
FP - DBD - DEDB

DBFSAMD4
FP - DBD - HDAM/VSAM

DBFSAMP1
FP - PSB - DEDB ロード

DBFSAMP2
FP - PSB - HDAM ロード

DBFSAMP3
FP - PSB - FPSAMP1

DBFSAMP4
FP - PSB - FPSAMP2

DBFSAMP5
FP - PSB - HDAM MISC

DBFSAMP6
FP - PSB - DEDB MISC

DBFSAMF1
FP - MFS - FPSAMP1/FPSAMP2

DBFSAMA1
FP - PGM - DEDB ロード

DBFSAMA2
FP - PGM - HDAM ロード

DBFSAMA3
FP - PGM - FPSAMP1/FPSAMP2

DFSIVJ01
JOB - Dialog init - ICF ユーザー・カタログ/ALIAS の定義

DFSIVJ02
JOB - Dialog init - Alloc INSTALIB/テープのコピー

DFSIVJ03
JOB - Dialog init - Alloc SYSLIBS/テープからのコピー

ARCHJCL
SKEL - ARCHJCL

CAJCL
SKEL - CAJCL

ICJCL
SKEL - ICJCL

JOBJCL
SKEL - JOBJCL

LOGCLJCL
SKEL - LOGCLJCL

OICJCL
SKEL - OICJCL

RECOVJCL
SKEL - RECOVJCL

IVP システム定義のステージ 1 の入力ストリーム

IVP のサンプル・ソース・デックまたは入力ソースを教育ツールとして使用します。この情報は、問題判別時および障害追及時に重要です。

このセクションの IMS システム定義のステージ 1 の入力ストリームは、IVP ダイアログによって生成されます。サンプルは、SDFSISRC のメンバーではありません。

DBB - DB バッチ (バッチ) ステージ 1

このトピックには、DB バッチ・システム用のステージ 1 ソースの情報が含まれています。

DBC - データベース制御 (DBCTL) ステージ 1

このトピックには、DBCTL システム用のステージ 1 ソースの情報が含まれています。

DBT - データベース/トランザクション・マネージャー (DB/DC) ステージ 1

このトピックには、DBT (DB/DC) システム用のステージ 1 ソースの情報が含まれています。

XRF - 拡張回復機能付きデータベース/トランザクション・マネージャー (XRF 付き DB/DC) ステージ 1

このトピックには、DB/DC システム用のステージ 1 ソースの情報が含まれています。

DCC - トランザクション・マネージャー制御 (DCCTL) ステージ 1

このトピックには、DCCTL システム用のステージ 1 ソースの情報が含まれています。

IVP 環境オプション

IVP プロセスの初期化段階では、ユーザーは業務ニーズに固有の環境オプションを選択します。

各環境オプションごとに、使用する IMS コンポーネントおよび機能は異なります。以下の表は、IVP 環境オプションと、その環境に固有の IMS コンポーネントおよび機能を示します。

| IVP 環境オプション | IMS コンポーネントおよび機能 |
|-------------|--|
| DBB (DB) | GSAM DB (HISAM、HIDAM、および HDAM) ロギング データベース・リカバリー管理 (DBRC) 内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) (オプション) バッチ・アプリケーション |

IVP 環境オプション**IMS コンポーネントおよび機能**

DBC (DBCTL)

GSAM
DB (HISAM、HIDAM、HDAM、PHIDAM、DEDB)
データベース・リカバリー管理 (DBRC)
内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) (オプション)
リソース・アクセス管理機能 (RACF) (オプション)
バッチ・アプリケーション
バッチ指向の BMP アプリケーション
HALDB サンプル
共通サービス層サンプル
並列 RECON アクセス (オプション)
オープン・データベース (オプション)
動的リソース定義 (DRD) (Dynamic resource definition (DRD))

DBT (DB/DC)

GSAM
DB (HISAM、HIDAM、HDAM、PHIDAM、DEDB、MSDB)
ロギング
データベース・リカバリー管理 (DBRC)
Java サンプル・アプリケーション
ロギング
IMS Connect サンプル・アプリケーション
内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) (オプション)
IMS Transaction Manager (IMS TM)
時間コントロール・オプション (TCO) ファイル
バッチ・アプリケーション
バッチ指向の BMP アプリケーション
非会話型メッセージ処理プログラム (MPP) アプリケーション
会話型 MPP アプリケーション
IFP アプリケーション (オプション)
HALDB サンプル
共通サービス層サンプル
リソース・アクセス管理機能 (RACF) (オプション)
並列 RECON アクセス (オプション)
オープン・データベース (オプション)
動的リソース定義 (DRD) (Dynamic resource definition (DRD))

XRF (XRF 付き DB/DC)

GSAM
 DB (HISAM、HIDAM、HDAM、PHIDAM、DEDB、MSDB)
 ロギング
 データベース・リカバリー管理 (DBRC)
 Java サンプル・アプリケーション
 IMS Connect サンプル・アプリケーション
 内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) (オプション)
 IMS Transaction Manager (IMS TM)
 時間コントロール・オプション (TCO) ファイル
 バッチ・アプリケーション
 バッチ指向の BMP アプリケーション
 非会話型 MPP アプリケーション
 会話型 MPP アプリケーション
 IFP アプリケーション (オプション)
 HALDB サンプル
 共通サービス層サンプル
 リソース・アクセス管理機能 (RACF) (オプション)
 並列 RECON アクセス (オプション)
 オープン・データベース (オプション)
 動的リソース定義 (DRD) (Dynamic resource definition (DRD))

DCC (DCCTL)

GSAM
 ロギング
 データベース・リカバリー管理 (DBRC)
 IMS Transaction Manager (IMS TM)
 時間コントロール・オプション (TCO) ファイル
 トランザクション起動型 WFI BMP アプリケーション
 非会話型 MPP アプリケーション
 会話型 MPP アプリケーション
 IFP アプリケーション (オプション)
 共通サービス層サンプル
 リソース・アクセス管理機能 (RACF) (オプション)
 並列 RECON アクセス (オプション)
 動的リソース定義 (DRD) (Dynamic resource definition (DRD))

関連タスク

13 ページの『環境オプションの選択』

環境に適用するオプションを選択します。IVP は、ユーザーの選択に基づいてサブオプションとタスクを提供し、インストール検査用のサンプル IMS システムを構築します。

変数収集のダイアログ・オプション

変数収集段階で選択可能なアクション・コマンドおよびモードを使用します。

変数収集アクション・コマンド

変数の表示には、次の 2 つのモードが使用されます。

LST

変数は、スクロール可能な項目のリストとして表示されます。一度に 1 つ以上の項目を変更することができますが、それぞれの項目に関しては最小限の情報が表示されます。LST はデフォルトです。

ENT

変数は、一度に1つずつ表示されます。スクロール可能な説明が、それぞれの変数ごとに提供されません。

アクション・コマンドが提供され、変数収集段階での IVP ダイアログを サポートします。アクション・コマンドは、「アクション verb」とも呼ばれます。

以下の表には、アクション・コマンド、受け入れモード、およびコマンドの説明が含まれています。モードは、そのコマンドがどのモードで受け入れられるかを示しています。

LST

LST モード

ENT

ENT モード

その両方

LST モードと ENT モード

以下の表で、「アクション」の欄で大文字で示されている字は、それぞれのコマンドで許される最短の省略形を示します。

表 3. 変数収集アクション・コマンド

| 処置 | モード | 説明 |
|-----|------|---|
| Chg | その両方 | 項目内の情報を変更する。ダイアログは、新たな値に対して基本的な妥当性検査を行います。項目が変更された場合、CHG がデフォルトです。アクション・フィールドに CHG を指定する必要はありません。 |
| Doc | その両方 | 変数の資料を、ISPF リスト・データ・セットに印刷する。DOC アクションは、DOC アクションが要求された変数だけでなく、すべての変数を印刷します。 |
| eNt | LST | ENT モードに切り替える。ENT モードは、項目を一度に1つずつ、フォーマット済みの画面に表示し、変数の説明をその使用法と一緒に表示します。 |
| Lst | ENT | LST モードに切り替える。LST モードは、スクロール可能な項目のリストを表示します。ENT モードでは、ISPF END コマンドも LST アクションとして解釈されます。 |
| Nxt | ENT | 次の項目へ進む。 |
| Prv | ENT | 直前の項目に戻る。 |
| Rfr | その両方 | IVP マスター表からの変数値を最新表示する。 |
| Imp | その両方 | IVP 変数をインポートする。 |
| Exp | その両方 | IVP 変数をエクスポートする。 |

LST モードでは、**Enter** を押す前に、一度に1つの項目のみを変更することも、あるいは多くの項目に多くの変更を行うことも、どちらも可能です。**Enter** を押す前に複数の変更が行われた場合は必ず、ダイアログは制御を戻す前にすべての変更要求を処理しようとします。

変数収集段階でエラーが発生すると、項目は、提供された情報で更新され、アクション・フィールドには文字ストリング「ERR」が入れられます。すべての要求が処理された後で複数のエラーがあっても、単一のエラー・メッセージが表示され、画面は 'ERR' を含んだ最初の項目のアクション・フィールドに位置付けられます。ダイアログがユーザーに対してファイル調整段階または実行段階に入ることを許可するには、すべてのエラーを修正してください。示された項目のどこが正しくないかわからない場合は、その項目のアクション・フィールドに **CHG** と入力し、一度に1項目ずつ変更します。**Enter** を押すと、ダイアログはその項目について変数の編集を再実行し、該当するエラー・メッセージを生成します。

変数収集 - LST モード

変数収集段階に入った時は、LST モードになっています。次の図に、変数収集段階の LST モード・パネルを示します。このモードは、選択されたオプションで使用できる変数を最大限に見やすくします。

```
Help
-----
IVP          Variable Gathering (LST Mode)- XRF          IMS 15
.1 ROW 1 to 8 of 154
COMMAND ==>>                                SCROLL ==>> PAGE

Action Codes: Chg Doc eNt Rfr Imp Exp - CHG is the default for a modified
              item
Variable = Value.....
  Var-Title.....
*   IXUIVPHQ = IVP1VP11
      IVP - High-level DSNAME qualifier for IVP (IVP) data sets
*   IXURLMHQ = IVP1RLM11
      IVP - High-level DSNAME qualifier for the IRLM (RLM) data sets
*   IXUDLBHQ = IVP1V11
      IVP - High-level DSNAME qualifier for IMS DLIB (DLB) data sets
*   IXUSYSHQ = IVP1V11
      IVP - High-level DSNAME qualifier for IMS System (SYS) data sets
*   IXUEXEHQ = IVP1V11
      IVP - High-level DSNAME qualifier for Execution (EXE) data sets
*   IXUUTLHQ = IVP1V11
      IVP - High-level DSNAME qualifier for Utility (UTL) data sets
!   IXUSSCLS =
      SMS - Storage Class
!   IXUSMCLS =
      SMS - Management Class
!   IXUTAPEU = 3480
      IVP - Tape device type
```

図 42. 変数収集 (LST モード) パネル

変数がよくわからない場合は、ENT アクションを使用して ENT モードに切り替えて、変数の説明を読み、それから LST アクションを使用して LST モードに戻ってください。ENT アクションを使用して ENT モードに切り替えてから、一度に 1 つずつ変数を進めていくこともできます。

アクション・フィールドの特殊文字は、変数に対する変更について示しています。

!

これは、変数が表に追加されたか (サービスによって)、またはマスター表のデフォルト値を復元するのに RFR アクションが使用されたかのいずれかであることを示します。表マージ・プロセスを実行することにより、! 標識を除去できます。

*

変数が CHG アクションまたは開始変数のコピー・プロセスによって変更されたことを示します。

@

グローバル変数の変更が、影響を受けるデータ・セット割り振り変数に伝達され、その結果、CHG アクションまたは開始変数のコピー・プロセスによって、変数が変更されたことを示します。

最初の項目について ENT アクションを試みてください。選択する項目の隣のアクション・フィールドに、ENT (または N) と入力します。LST モード・パネルでは、コマンド行でアクション・コマンドを使用することはできません。

モードを切り替えるには、**Enter** を押します。

変数収集 - ENT モード

次の図に、LST モード・パネルでユーザーが選択した項目に対応する ENT モード・パネルを示します。

```

Help
-----
IVP          Variable Gathering (ENT Mode)-XRF          IMS 15
.1
COMMAND ==>          SCROLL ==> PAGE
DFSIX001: DFSIXX08 - "ENT" action complete
Action..... *   Select one of: Chg Doc Lst Nxt Prv Rfr Imp Exp
Name.....: IXUIVPHQ
User Value..: IVPIV11
Title.....: IVP - High-level DSNNAME qualifier for IVP (IVP) data sets
Blank-OK....: N HLQ-Group... VOL-Group... BLK-Group...
-----
***** Top of Data *****
This variable specifies the high level DSNNAME qualifier (HLQ) to be
used when allocating and referencing IVP data sets.

This grouping of data sets includes those data sets which are specific
to the IVP process:
  o INSTALIB, INSTATBL, ...

Data sets associated with this HLQ variable belong to the "IVP"
group. If this variable is changed, then the HLQ variables for ALL
data sets belonging to this group will be changed accordingly.

NOTE:
Press HELP for additional information on the following:
  o Global Variables
  o Data Set Allocation Variables
    (including the overriding of global VOLSER and BLKSIZE values)

JCL (and VSAM, if applicable) coding rules apply.

***** BOTTOM OF DATA *****

```

図 43. 変数収集 (ENT モード) パネル

ENT モードではそれぞれの変数について、次のような、さらに詳細な情報が提供されます。

- その変数はブランクであってもかまわないかどうか。
- グローバル変数グループ内のメンバーシップ。これらのフィールドは、データ・セット割り振りに使用される変数以外についてはブランクになります。
- 変数についての、スクロール可能な説明。

NXT アクションおよび PRV アクションを用いることにより、変数表の中のすべての項目を表示することができます。

DOC アクションを使用して、オンライン・ヘルプのコピーを印刷することができます。アクション・フィールドに DOC と入力して **Enter** を押します。

変数収集 - DOC アクション

次の図に、変数収集段階の DOC アクション・パネルを示します。

```

Help
-----
IVP          Variables Documentation - XRF          IMS 15
.1
COMMAND ==>

  Select (1 or 2) the type of output:
  - 1 - LST Mode equivalent containing names, titles, and current values
  - 2 - ENT Mode equivalent containing full descriptions

  Select (/) the types of variables to be documented:
  - General variables (HLQ, VOL, BLK, JOB, SMP, SYSDEF, etc.)
  - Data set allocation variables

  Press END to return to Variable Gathering.
  Press ENTER to initiate the documentation request.

  NOTE: Output will be printed to the ISPF List data set.
  Maximum output (for XRF/ISD) is about 2K lines for Type 1
  and 12K lines for Type 2.

```

図 44. 変数収集 (DOC アクション) パネル

このパネルで、以下の出力リストのタイプから、必要なものを選択します。

1. LST モードと同等
2. ENT モードと同等

その後、印刷したい変数を選択し、**Enter** を押します。要求された資料が ISPF LIST データ・セットに印刷されます。単一の項目に対して DOC アクションを入力しても、結果の資料は選択されたタイプの項目すべてに関するものになります。

上記の図の例では、資料は印刷されません。**End** を 2 回押して LST モードに戻り、さらにもう一度 **End** を押して、変数収集段階を終了します。

関連タスク

18 ページの『変数の収集』

変数の収集には、ファイル調整段階でより高度なカスタマイズに必要な JCL および他の資料を準備するための変更作業が伴います。

ファイル調整のダイアログ・オプション

ファイル調整段階で選択可能なアクション・コマンドおよびモードを使用します。

ファイル調整アクション・コマンド

ファイル調整段階での IVP ダイアログをサポートするためのアクション・コマンドが提供されます。以下の表には、アクション・コマンド、受け入れモード、およびコマンドの説明が含まれています。

以下の表で、「アクション」の欄で大文字で示されている字は、それぞれのコマンドで許される最短の省略形を示します。「モード」欄の項目は、そのコマンドが次のモードで受け入れられるかどうかを示しています。

LST

LST モード

ENT

ENT モード

その両方

LST モードと ENT モード

表 4. ファイル調整コマンド、受け入れモード、およびコマンドの説明

| 処置 | モード | 説明 |
|-----|------|---|
| ALL | その両方 | INSTALIB メンバーについてファイル調整段階を実行する (要求された項目から開始する)。 |
| brM | その両方 | INSTALIB メンバーをブラウズする。 |
| brS | その両方 | SDFSSLIB メンバーまたは SDFSISRC メンバーをブラウズする。 |
| Doc | その両方 | JOB/TASK/INDEX の資料を、ISPF リスト・データ・セットに印刷する。DOC アクションは、DOC アクションが要求された項目だけでなく、すべての項目を印刷します。 |
| Edm | その両方 | INSTALIB メンバーを編集する。 |
| eNt | LST | ENT モードに切り替える。項目、実行可能なアクション、予想される結果、およびエラー・リカバリーの詳細な説明を表示します。 |
| Ftl | その両方 | 単一の INSTALIB メンバーについて ファイル調整段階を実行します。 |
| Lst | ENT | LST モードに切り替える。LST モードは、スクロール可能な項目のリストを表示します。ENT モードでは、ISPF END コマンドも LST アクションとして解釈されます。 |
| Nxt | ENT | 次の項目へ進む。 |
| Prv | ENT | 直前の項目に戻る。 |

ファイル調整 - LST モード

以下の図に、ファイル調整段階の LST モード・パネルを示します。ファイル調整段階に入ると、LST モードに切り替わります。LST Mode. このモードは、選択されたオプションで利用できるジョブとタスクを、最大限に見やすくします。INDEX 項目をブラウズする場合を除き、ファイル調整段階で必要なのはこのモードのみです。これは、ENT モードで表示される項目説明が、実行段階での使用を想定しているためです。

```

Help
-----
IVP - File Tailoring (LST Mode) - XRF      ROW 1 OF 17 of 369
COMMAND ==>>>                          SCROLL ==>>> PAGE

Action Codes : All brM brS Doc Edm eNt Ftl
Member..      Skeleton      Step
Title.....
! IV4A001T    IVPA001T    A0    NOTE    - Step Introduction-Dialog Set-up
* IV4A301N    DFSIXSA4    A3    CLIST    - Offline Formatted Dump - IVP1/2/3/4
* IV4A302N    DFSIXSA5    A3    CLIST    - Offline Dump Formatter - BATCH
* IV4A303N    DFSIXSA6    A3    CNTRL    - MSDB Load Cntrl Stmts - DBFSAMD1/DBFSA
! IV4C001T    IVPC001T    C0    NOTE    - Step Introduction - System Definition
* IV4C101J    DFSIXSC0    C1    JOB      - Alloc SYSDEF Data Sets
* IV4C201T    DFSIXSC1    C2    TASK     - Browse the STAGE1 Source Deck
* IV4C202J    DFSIXSC2    C2    JOB      - Run SYSDEF Preprocessor
* IV4C203J    DFSIXSC3    C2    JOB      - Run SYSDEF STAGE1
* IV4C301J    DFSIXSC4    C3    JOB      - Run SYSDEF STAGE2      >>> SEE DESCRIPT
* IV4C401J    DFSIXSC5    C4    JOB      - Run SMP/E JCLIN
! IV4C405T    IVPC405T    C4    TASK     - Edit IMS PROCLIB Members
! IV4D001T    IVPD001T    D0    NOTE     - Step Introduction - and VTAM Interf
* IV4D101T    DFSIXSD0    D1    XMPL     - Allocate Interface Data Sets
* IV4D201T    DFSIXSD1    D2    XMPL     - Update JESx Procedure
* IV4D202T    DFSIXSD2    D2    XMPL     - Update BLSCECTX - DFSOFMD0 / DXRRML50
* IV4D203T    DFSIXSD3    D2    XMPL     - Udpate IEAAPFxx or PROGxx - Authorized

```

図 45. ファイル調整 (LST モード) パネル

リストの下方にスクロールすると、Zシリーズのステップに属するファイル調整項目を見ることができます。これらはINDEX項目です。「Z1」項目は、それ以前の項目によって組み込まれた、SDFSSLIB(ファイル調整スケルトン)のメンバーです。「Z2」項目は、SDFSISRCのメンバーです(例えばDBD、PSB、MFS、PGM)。これらのメンバーをブラウズするには、BRSアクションを使用します。

アクション・フィールドでは下記のような特殊文字が使用されます。

!

項目が表に追加されたことを示します(サービスによって)。表マージ・プロセスを再実行すれば、標識を除去できます。

*

項目がALLアクションまたはFTLアクションのいずれかにより処理されたことを示します。

最初の項目についてENTアクションを試みてください。選択したい項目の隣のアクション・フィールドに、ENT(またはN)と入力する必要があります。LSTモード・パネルでは、コマンド行でアクション・コマンドを使用することはできません。

Enterを押して、モードを切り替えます。

ファイル調整 - ENT モード

以下の表は、LSTモード・パネルでユーザーが選択した項目に対応するENTモード・パネルです。

```
Help
-----
IVP      File Tailoring(ENT Mode) - XRF      IMS 15
.1 ROW 1 OF 22
COMMAND ==>                                SCROLL ==> CSR
DFSIX001: DFSIXX09 - "ENT" action complete
Action.....> DOC <----- All brM brS Doc Edm Ftl Lst Nxt Prv
Member.....: IV4A001T
Skeleton....: IVPAA001T
Step.....: A0
Title.....: NOTE - Step Introduction - Dialog Set-up
-----
o Item Type:

NOTE - Information only

o Action Required:

Read the description below.

Use the "NXT" action to proceed to the next item.

o Description:

The items within the "Ax" series of steps are used to perform
initialization for the IVP Dialog. There are no user
executable JOBS within these steps. Please skip to the first
item for Step C0 (This is the default starting position for
the Execution Phase of the IVP Dialog).
```

図 46. ファイル調整 (ENT モード) パネル

ENTモードが提供する追加情報は、スクロール可能な項目説明のみです。INDEX項目を除き、これらの説明は実行段階を対象としており、ファイル調整段階には意味はありません。

NXTアクションおよびPRVアクションを用いて、ファイル調整表の中のすべての項目を表示することができます。

DOCアクションを使用して、オンライン・ヘルプのコピーを印刷することができます。アクション・フィールドにDOCと入力して**Enter**を押します。

ファイル調整 - DOC アクション

以下の表は、ファイル調整段階のDOCアクション・パネルです。

Help

```
-----  
IVP      JOB/TASK/INDEX Documentation - XRF      IMS 15  
.1  
COMMAND ==>
```

```
Select (1 or 2) the type of output and press Enter.  
1 - LST Mode equivalent containing names and titles  
2 - ENT Mode equivalent containing full descriptions
```

```
Select (/) the types of JOBS/TASKs to be documented:  
SETUP - IVP Preparation (CLISTs, Control statements)  
IVP   - IMS System Definition  
IVP   - /VTAM Interface  
IVP   - IVP System and Application Build  
IVP   - IVP Execution  
INDEX - DFSSLIB (IMBEDs) and DFSISRC members
```

```
NOTE: Output will be printed to the ISPF List data set.  
Maximum output (for XRF/ISD) is about 3K lines for Type 1  
and 22K lines for Type 2.
```

図 47. ファイル調整 (DOC アクション) パネル

このパネルで、以下の出力リストのタイプから、必要なものを選択します。

1. LST モードと同等
2. ENT モードと同等

次に、印刷する項目を選択し、**Enter** を押します。要求された資料が ISPF LIST データ・セットに印刷されます。

単一の項目に対して DOC アクションを入力しても、結果の資料は選択されたタイプの項目すべてに関するものになります。

ファイル調整段階でも実行段階でも、ジョブおよびタスクに関する資料を印刷することができます。INDEX 項目に関する資料は、ファイル調整段階からのみ、印刷します。

ファイル調整 (DOC アクション) パネルの例では、資料は印刷されません。**End** を 2 回押して LST モードに戻り、さらにもう一度 **End** を押してファイル調整段階を終了します。

関連タスク

22 ページの『ファイル調整』

ファイル調整段階では、IVP はユーザーが変数収集段階で指定した変数を使用して、カスタマイズ済みの IVP JCL およびタスクのセットを準備し、実行段階用に INSTALIB データ・セットのメンバーとして保管します。

実行段階のダイアログ・オプション

実行段階で選択可能なアクション・コマンドおよびモードを使用します。

実行アクション・コマンド

アクション・コマンドが提供され、実行段階での IVP ダイアログをサポートします。以下の表には、アクション・コマンド、受け入れモード、およびコマンドの説明が含まれています。

ジョブおよびタスクの表示には、次の 2 つのモードが使用されます。

LST

項目はスクロール可能なリストで示されます。それぞれの項目が 1 つのジョブまたはタスクを表します。LST がデフォルトです。

ENT

ジョブおよびタスク・メンバーは、一度に 1 つずつ順番に表示されます。それぞれの項目を説明するための、スクロール可能な情報が提供されます。

以下の表で、「アクション」の欄で大文字で示されている字は、それぞれのコマンドで許される最短の省略形を示します。「モード」欄の項目は、そのコマンドが次のモードで受け入れられるかどうかを示しています。

LST

LST モード

ENT

ENT モード

その両方

LST モードと ENT モードの両方

| 処置 | モード (LST または ENT) | 説明 |
|-----|-------------------|--|
| brM | その両方 | INSTALIB メンバーをブラウズする。 |
| Doc | その両方 | ジョブまたはタスクの資料を、ISPF リスト・データ・セットに印刷する。DOC アクションは、DOC アクションが要求された項目だけでなく、すべての項目を印刷します。 |
| Edm | その両方 | INSTALIB メンバーを編集する。 |
| eNt | LST | ENT モードに切り替える。ENT モードは、項目を一度に1つずつ、フォーマット済みの画面に表示します。 |
| eXe | その両方 | TSO SUBMIT コマンドを使用して、INSTALIB ジョブを実行依頼します。あるいは、EDM アクション (この表の EDM を参照) を通じて INSTALIB メンバーを編集しているときに、TSO SUBMIT コマンドを直接、出すこともできます。 |
| Ftl | LST | 個々のメンバーをファイル調整します。 |
| Lst | ENT | LST モードに切り替える。LST モードは、スクロール可能な項目のリストを表示します。項目、実行可能なアクション、予想される結果、およびエラー・リカバリーの詳細な説明を表示します。 |
| Nxt | ENT | 次の項目へ進む。 |
| Prv | ENT | 直前の項目に戻る。 |
| spR | その両方 | タスクのパフォーマンスを援助するために提供されている特別な処理ルーチンを実行する。 |

実行段階 - LST モード

実行段階に入った時は、LST モードになっています。以下に、実行段階の LST モード・パネルを示します。

```

Help
-----
IVP           Execution (LST Mode) - XRF           ROW 11 to 26 OF 177
COMMAND ==>>                                SCROLL ==>> PAGE

Action Codes : Brm Doc Edm eNt eXe spR
                JOB/Task Step Title.....
! IV4C001T C0 NOTE - Step Introduction - System Definition
! IV4C101J C1 JOB - Allocate SYSDEF Data Sets
! IV4C201T C2 TASK - Browse the STAGE1 Source Deck
! IV4C202J C2 JOB - Run SYSDEF Preprocessor
! IV4C203J C2 JOB - Run SYSDEF STAGE1
* IV3C301J C3 JOB - Run SYSDEF STAGE2 >>> SEE DESCRIPTION
! IV3C401J C4 JOB - Run SMP/E JCLIN
! IV3C405T C4 TASK - Edit IMS PROCLIB Members
! IV3D001T D0 NOTE - Step Introduction - and VTAM Interface
! IV3D101T D1 XMPL - Allocate Interface Data Sets
! IV3D201T D2 XMPL - Update JESx Procedure
! IV3D202T D2 XMPL - Update BLSCECTX - DFSOFMD0 / DXRRML50
! IV3D203T D2 XMPL - Update IEAAPFxx or PROGxx - Authorized DSN
! IV3D204T D2 XMPL - Update IEALPAXx - MLPA Modules
! IV3D207T D2 XMPL - Update IEASVCxx - SVC Numbers
! IV3D208T D2 XMPL - Update SCHEDxx - PPT Entries

```

図 48. 実行段階 (LST モード) パネル

LST モードでは、IVP プロセスを構成する項目を最大限に見やすくします。ただし、最小限の説明情報しか提供されません。それぞれのジョブおよびタスクの要件に精通するまでは、実行段階の LST モードを使用しないでください。代わりに ENT モードを使用してください。

アクション・フィールドの特殊文字は、変数に対する変更について示しています。

!

項目が表に追加されたことを示します (サービスによって)。

*

項目が SUB アクションまたは EDM アクションのいずれかにより処理されたことを示します。(ダイアログは、ユーザーが項目を編集したとき、その項目の実行依頼も行ったと仮定します。)

表マージ・プロセスを再実行すれば、! 標識および * 標識を除去することができます。

2 番目の項目について ENT アクションを試みてください。アクション・フィールドに、ENT (または N) と入力してください。

モードを切り替えるには、**Enter** を押します。

実行段階 - ENT モード

以下の図に、実行段階の ENT モード・パネルを示します。表示される項目は、ユーザーが LST モード・パネルで ENT アクションを要求した項目です。

```

Help
-----
IVP          Execution (ENT Mode) - XRF          IMS 15
.1
COMMAND ==>          SCROLL ==> PAGE
DFSIX001: DFSIXX11 - "ENT" action complete
Action..... !      Select one of: Brm Doc Edm eXe Lst Nxt Prv spR
JOB or Task.....: IV4C101J
Step.....: C1
Title.....: JOB - Alloc SYSDEF Data Sets
-----
***** Top of Data *****
o Item Type:

    JOB - The batch JOB provided for this item must be run.

o Action Required:

    1. Review "Description" below.
    2. If desired (or required by the description below), use the
       "EDM" action to edit the supplied JOB. (The "BRM" action
       can be used to browse the JOB.)
    3. Submit the JOB to be run. Use the TSO SUBMIT command
       from within edit or use the "EXE" action from the Execution
       Phase panels.
    4. When the JOB completes execution, review all step completion
       for successful completion. See "Completion Codes and Messages"
       below for acceptable completion codes for this JOB.

    It might be necessary to review the printed output generated by
    this JOB in order to verify successful completion.

    If the JOB does not complete successfully, see "Error Recovery" below.

    5. When you are satisfied that the JOB completed successfully, use
       the "NXT" action to proceed to the next item.

o Description:
    This JOB scratches and reallocates the data sets needed, in addition to
    those allocated for SMP/E processing, for IMS system definition.

```

図 49. 実行段階 (ENT モード) パネル

NXT アクションおよび PRV アクションを用いて、実行表の中の項目を進めていくことができます。

それぞれのジョブおよびタスクの要件に精通したら (実際にジョブの実行依頼を開始する前に、全体のプロセスをブラウズすることによって)、LST モードに切り替えて戻ることができます。

この例では、**End** を押して LST モードに戻り、さらにもう一度 **End** を押して、実行段階を終了します。

関連タスク

23 ページの『調整済みのジョブおよびタスクの実行』

ファイル調整段階で準備されたジョブおよびタスクは、実行段階で個別に処理する必要があります。

サンプル・アプリケーションのパーツ表および PSB

サンプル・アプリケーションのパーツ表は、サンプル・アプリケーションのパーツについて説明したものです。

例えば、パーツ表によってサンプル・アプリケーションの特定のパーツの記述言語、パーツを使用するデータベースの名前、データベースの説明などがわかります。場合によっては、プログラム仕様ブロック (PSB) が、サンプル・アプリケーションで使用されるデータベースを処理するために提供されます。

IVP サンプル・アプリケーション表

SDFSISRC ターゲット・ライブラリーには、アプリケーションが使用する、プログラム、PSB、DBD、MFS のソース、およびその他のサポート資料が含まれています。

以下の表に、IVP サンプル・アプリケーションが使用するパーツの情報を示します。これには、該当するパーツに関連する言語、PSB、MFS、トランザクション・コード、DBD、JCL、および説明が含まれます。

表 6. IVP サンプル・アプリケーション・パーツ

| パーツ名 | 言語 | PSB | MFS | TRANCD | DBD | コンパイル および BIND JCL | 説明 |
|-----------------------|------------|----------|----------|--------|----------|--------------------------|--------------------------|
| DFSIVD1 | アセンブラ ー | N/A | N/A | N/A | DFSIVD1 | N/A ¹ | HIDAM/OSAM データベース |
| DFSIVD1I | アセンブラ ー | N/A | N/A | N/A | DFSIVD1I | N/A ¹ | HIDAM/OSAM 1 次索引データベース |
| DFSIVD2 | アセンブラ ー | N/A | N/A | N/A | DFSIVD2 | N/A ¹ | HDAM/VSAM データベース |
| DFSIVD3 | アセンブラ ー | N/A | N/A | N/A | DFSIVD3 | N/A ¹ | DEDB データベース |
| DFSIVD4 | アセンブラ ー | N/A | N/A | N/A | DFSIVD4 | N/A ¹ | MSDB データベース |
| DFSIVD5 | アセンブラ ー | N/A | N/A | N/A | DFSIVD5 | N/A ¹ | GSAM/BSAM データベース |
| DFSIVA1 | アセンブラ ー | DFSIVP1 | DFSIVF1 | IVTNO | DFSIVD1 | N/A ¹ | 非会話型 MPP |
| | アセンブラ ー | DFSIVPD2 | DFSIVF6 | IVTND | DFSIVD1 | N/A | 非会話型 MPP |
| DFSIVA2 | アセンブラ ー | DFSIVP2 | DFSIVF2 | IVTNV | DFSIVD2 | N/A ¹ | 非会話型 MPP |
| DFSIVA3 | アセンブラ ー | DFSIVP3 | DFSIVF3 | IVTCV | DFSIVD2 | N/A ¹ | 会話型 MPP |
| DFSIVA31 ₂ | Pascal | DFSIVP31 | DFSIVF31 | IVTCP | DFSIVD2 | DFSIVJP3 | 会話型 MPP |
| DFSIVA32 ₂ | C | DFSIVP32 | DFSIVF32 | IVTCC | DFSIVD2 | DFSIVJC3 | 会話型 MPP |
| DFSIVA34 ₂ | COBOL | DFSIVP34 | DFSIVF34 | IVTCB | DFSIVD2 | DFSIVJB3 | 会話型 MPP |
| DFSIVA35 ₅ | REXX | DFSIVP35 | DFSIVF35 | IVTCX | DFSIVD2 | N/A | 会話型 MPP |
| DFSIVP37 | Java | DFSIVP37 | DFSIVF37 | IVTCM | DFSIVD2 | N/A | 会話型 JMP |
| DFSIVA4 | アセンブラ ー | DFSIVP4 | DFSIVF4 | IVTFD | DFSIVD3 | N/A | 非会話型 IFP (EMH) |
| DFSIVA5 | アセンブラ ー | DFSIVP5 | DFSIVF5 | IVTFM | DFSIVD4 | N/A | 非会話型 IFP (EMH)。表示および置換のみ |
| DFSIVA6 | アセンブラ ー | DFSIVP6 | N/A | N/A | DFSIVD1 | N/A | DB バッチ、BMP |
| DFSIVA61 ₆ | Pascal | DFSIVP61 | N/A | N/A | DFSIVD1 | DFSIVJP6 | DB バッチ、BMP |
| DFSIVA62 ₆ | C | DFSIVP62 | N/A | N/A | DFSIVD1 | DFSIVJC6 | DB バッチ、BMP |

表 6. IVP サンプル・アプリケーション・パーツ (続き)

| パーツ名 | 言語 | PSB | MFS | TRANCD | DBD | コンパイル および BIND JCL | 説明 |
|---------------|------------|----------|---------|--------------------|------------|--------------------------|---------------------------------------|
| DFSIVA64 6 | COBOL | DFSIVP64 | N/A | N/A | DFSIVD1 | DFSIVJB6 | DB バッチ、BMP |
| DFSIVA65 5 | REXX | DFSIVP65 | N/A | N/A | DFSIVD1 | N/A | DB バッチ、BMP |
| DFSIVP67 | Java | DFSIVP67 | N/A | N/A | DFSIVD2 | N/A | JBP |
| DFSIVA7 | アセンブラ ー | DFSIVP7 | N/A | N/A | DFSIVD2 | N/A | DB バッチ、BMP |
| | アセンブラ ー | DFSIVPD3 | N/A | N/A | IVPDRD1 | N/A | DB バッチ、BMP |
| DFSIVA8 | アセンブラ ー | DFSIVP8 | N/A | N/A | DFSIVD3 | N/A | DB バッチ、BMP |
| N/A | N/A | DFSIVP9 | N/A | N/A | DFSIVD1 | N/A | オンライン・イメージ・ コピー |
| DFSDDLTO | N/A | DFSIVPA | N/A | N/A | DFSIVD1 | N/A | HIDAM ロード |
| DFSDDLTO | N/A | DFSIVPB | N/A | N/A | DFSIVD2 | N/A | HDAM ロード |
| DFSIVAC | アセンブラ ー | DFSIVPC | N/A | N/A | DFSIVD3 | N/A | DEDB ロード BMP |
| DFSIVAD | アセンブラ ー | DFSIVPD | DFSIVFD | IVTC1 ⁷ | シミュレー ト | N/A | メッセージ・ドリブン WFI BMP |
| | アセンブラ ー | DFSIVPH | DFSIVFH | IVTC5 | シミュレー ト | N/A | メッセージ・ドリブン WFI BMP |
| DFSIVAE | アセンブラ ー | DFSIVPE | DFSIVFE | IVTC2 ⁷ | N/A | N/A | 非会話型 MPP。 DFSIVAD への MSG 切 り替え |
| DFSIVAF | アセンブラ ー | DFSIVPF | DFSIVFF | IVTC3 ⁷ | N/A | N/A | 会話型 MPP。DFSIVAD への MSG 切り替え |
| DFSIVAG | アセンブラ ー | DFSIVPG | DFSIVFG | IVTC4 ⁷ | N/A | N/A | IFP (EMH)。DFSIVAD への MSG 切り替え |
| DFSIVG20 8 | アセンブラ ー | N/A | N/A | N/A | N/A | DFSIVJG2 | Pascal 用 WTOR ルーチ ン |
| DFSIVG30 8 | アセンブラ ー | N/A | N/A | N/A | N/A | DFSIVJG3 | C 用 WTOR ルーチン |
| DFSIVC04 | アセンブラ ー | N/A | N/A | N/A | N/A | N/A | HD DB ロード用制御ス テートメント (DFSDDLTO) |
| DFSIVC05 | アセンブラ ー | N/A | N/A | N/A | N/A | N/A | DB バッチ、BMP GSAM 入力 |
| DFSIVC06 | アセンブラ ー | N/A | N/A | N/A | N/A | N/A | MSDB ロード用 制御ス テートメント |

表 6. IVP サンプル・アプリケーション・パーツ (続き)

| パーツ名 | 言語 | PSB | MFS | TRANCD | DBD | コンパイル および BIND JCL | 説明 |
|----------|-------|-----|-----|--------|-----|--------------------------|-----------------|
| DFSIVC07 | アセンブラ | N/A | N/A | N/A | N/A | N/A | WFI BMP GSAM 入力 |

¹ これらのパーツは IVP によってインストールされます。

² コンパイルされ結合された後、プログラム DFSIVA31/32/34 は任意の 24x80 (3270) MFS 装置から実行可能です。IVP 実行 JCL に、PL/I か Pascal のどちらかのランタイム・ライブラリーを追加する必要があります。

⁵ プログラム DFSIVA35 および DFSIVA65 は、IVP によって完全にインストールされます。DFSIVA35 は任意の 24x80 (3270) MFS 装置から実行可能です。DFSIVA65 は、DFSIVA6 用の IVP 実行 JCL を変更することにより、実行可能です。

⁶ コンパイルされ結合された後、プログラム DFSIVA61/62/64 は、DFSIVA6 用の IVP 実行 JCL を変更することにより、実行可能です。IVP 実行 JCL に、PL/I か Pascal のどちらかのランタイム・ライブラリーを追加する必要があります。

⁷ これらのトランザクション・コードは、DCCTL システムでのみ、提供されます。

⁸ DFSIVG20 および DFSIVG30 は、Pascal および C プログラムに対して WTOR サポートを提供する、アセンブラ・サブルーチンです。

関連概念

25 ページの『IVP サンプル・アプリケーション』

IVP サンプル・アプリケーションは、トランザクションを送信して IMS 電話データベースに情報を要求する単純な電話帳アプリケーションです。

関連資料

154 ページの『IVP サンプル・アプリケーション・データベース』

DCCTL 環境では、IVP データベースはプログラム DFSIVAD 中のデータ域を使用してシミュレートされます。

IMS サンプル・アプリケーション表

以下の表に、IMS サンプル・アプリケーションが使用するパーツの情報を示します。これには、各パーツに関連する言語、PSB、トランザクション・コード、DBD、および説明が含まれます。

表 7. IMS サンプル・アプリケーション・パーツ

| パーツ名 | 言語 | PSB | TRANCD | DBD | 説明 |
|----------|-------|----------|--|----------|---------------------|
| DI21PART | アセンブラ | N/A | N/A | DI21PART | HISAM/VSAM データベース |
| DFSSAM1 | COBOL | DFSSAM11 | N/A | DI21PART | DB バッチ - データベース・ロード |
| DFSSAM2 | COBOL | DFSSAM12 | PART | DI21PART | 非会話型 MPP |
| DFSSAM3 | COBOL | DFSSAM13 | DSPINV | DI21PART | 非会話型 MPP |
| DFSSAM4 | COBOL | DFSSAM14 | ADDPART ADDINV DLETPART DLETINV | DI21PART | 非会話型 MPP |
| DFSSAM5 | COBOL | DFSSAM15 | CLOSE | DI21PART | 非会話型 MPP |
| DFSSAM6 | COBOL | DFSSAM16 | DISBURSE | DI21PART | 非会話型 MPP |

表 7. IMS サンプル・アプリケーション・パーツ (続き)

| パーツ名 | 言語 | PSB | TRANCD | DBD | 説明 |
|----------|------------|----------|---------|----------|----------------------------------|
| DFSSAM7 | COBOL | DFSSAM17 | DSPALLI | DI21PART | 非会話型 MPP |
| DFSSAM08 | アセンブラ ー | DFSSAM18 | N/A | DI21PART | DB バッチ |
| DFSDDLTO | アセンブラ ー | DFSSAM19 | N/A | DI21PART | DB バッチ/BMP |
| DFSSUT04 | REXX | N/A | N/A | N/A | 状況コード・サブルーチン |
| MFDFSYSN | N/A | N/A | N/A | N/A | データベース・ロード用 制御ステートメント |
| DFSSAMC1 | N/A | N/A | N/A | N/A | データベース・ダンプ用 制御ステートメント (DFSDDLTO) |

IMS サンプル・アプリケーション PSB

この PSB は、IMS サンプル・アプリケーションが使用する部品データベースの処理用に提供されます。

次の図は、IMS サンプル・アプリケーションを IMS ユーザー端末から実行するために提供される PSB を示します。

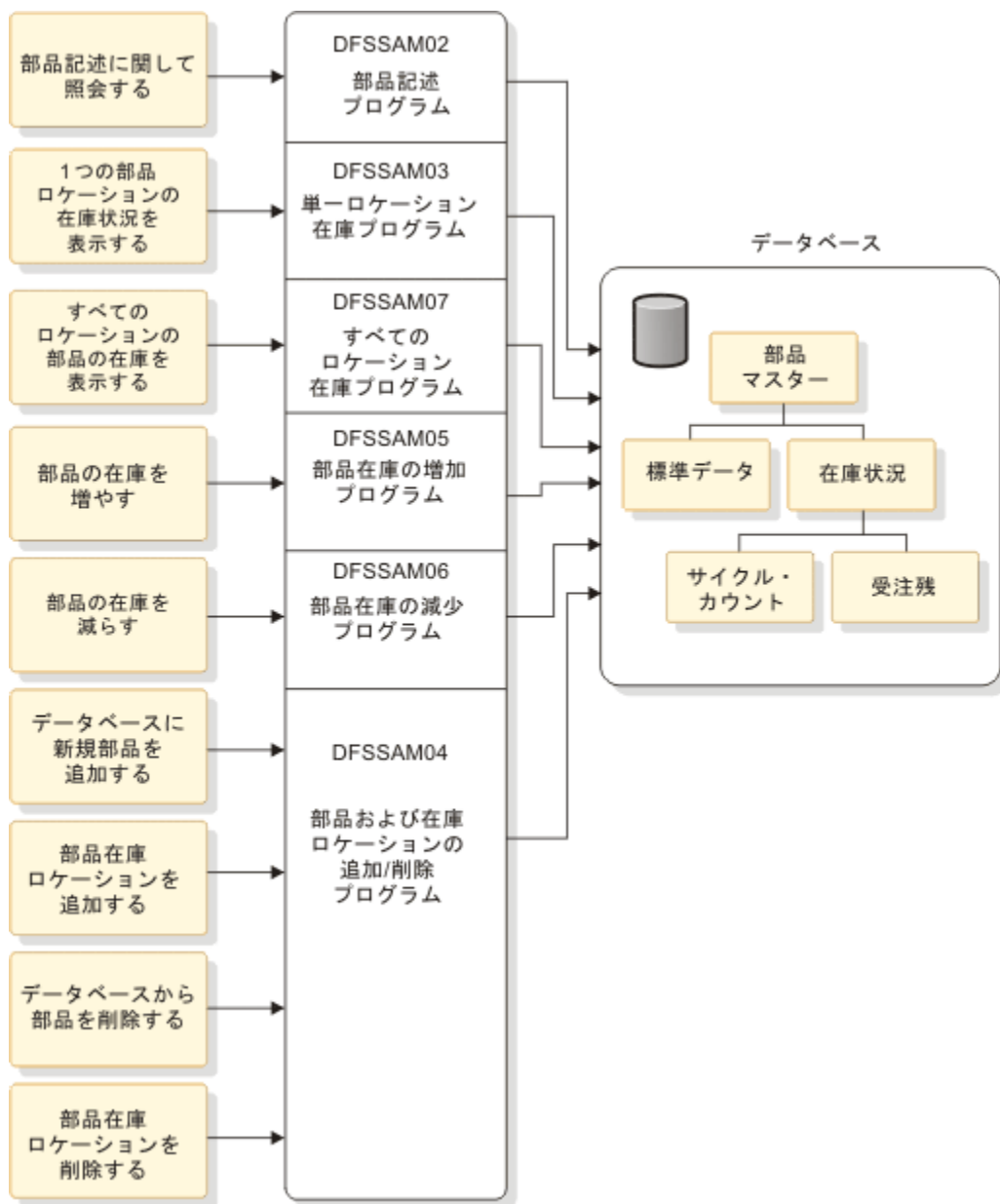


図 50. PSB による部品データベースの処理

6つのPSBおよびその関連トランザクションにより、ユーザーは以下の9つのオンライン機能を実行できます。

| MPP トランザクション | オンライン機能 |
|--------------|---|
| PART | 部品およびその記述を照会します。 |
| DSPALLI | 部品の在庫、サイクル・カウント、および受注残情報を照会します。 |
| DSPINV | すべてのロケーションの部品の合計在庫数あるいは特定の在庫ロケーションの在庫数を照会します。 |
| ADDPART | 新規の部品およびその記述を追加します。 |
| ADDINV | 既存の部品記述に対し、ロケーション別に、在庫情報を追加します。 |
| DLETINV | ロケーション別に、在庫情報を削除します。 |
| DLETPART | すべての従属在庫情報を削除した後で、部品を削除します。 |
| CLOSE | 部品注文をクローズし、特定ロケーションでの部品在庫を増加させます。 |

MPP トランザクション オンライン機能

DISBURSE 計画に基づいて、あるいは計画に基づかずに、特定数の特定部品を特定の部品在庫ロケーションで支払って、在庫を減らします。

関連タスク

32 ページの『IMS サンプル・アプリケーションの実行』

IMS サンプル・アプリケーション・データベースを検査するには、関連トランザクションおよび 9 つのオンライン機能を持つ 6 つの PSB を使用して IMS サンプル・アプリケーションを実行する必要があります。

関連資料

146 ページの『IVP サンプル・アプリケーション表』

SDFSISRC ターゲット・ライブラリーには、アプリケーションが使用する、プログラム、PSB、DBD、MFS のソース、およびその他のサポート資料が含まれています。

高速機能サンプル・アプリケーション表

以下の表に、高速機能サンプル・アプリケーションが使用するパーツの情報を示します。これには、各パーツに関連する言語、PSB、MFS、トランザクション・コード、DBD、および説明が含まれます。

表 8. 高速機能サンプル・アプリケーション・パーツ

| パーツ名 | 言語 | PSB | MFS | TRANCD | DBD | 説明 |
|----------|-------|----------|----------|---------|--|-------------------------|
| DBFSAMD1 | アセンブラ | N/A | N/A | N/A | DBFSAMD1 | MSDB - 総勘定元帳データベース |
| DBFSAMD2 | アセンブラ | N/A | N/A | N/A | DBFSAMD2 | MSDB - 出納データベース |
| DBFSAMD3 | アセンブラ | N/A | N/A | N/A | DBFSAMD3 | DEADB/VSAM - 顧客勘定データベース |
| DBFSAMD4 | アセンブラ | N/A | N/A | N/A | DBFSAMD4 | HDAM/VSAM - ローン・データベース |
| DBFSAMA1 | アセンブラ | DBFSAMP1 | N/A | N/A | DBFSAMD3 | BMP - DEADB/VSAM ロード |
| DBFSAMA2 | アセンブラ | DBFSAMP2 | N/A | N/A | DBFSAMD4 | DB バッチ - HDAM/VSAM ロード |
| DBFSAMA3 | アセンブラ | DBFSAMP3 | DBFSAMF1 | FPSAMP1 | DBFSAMD1 DBFSAMD2 DBFSAMD3 DBFSAMD4 | 非会話型 IFP (EMH) |
| DBFSAMA3 | アセンブラ | DBFSAMP4 | DBFSAMF1 | FPSAMP2 | DBFSAMD1 DBFSAMD2 DBFSAMD3 DBFSAMD4 | 非会話型 MPP |
| DFSDDLTO | アセンブラ | DBFSAMP5 | N/A | N/A | DBFSAMD4 | DB バッチ/BMP - HDAM/VSAM |
| DFSDDLTO | アセンブラ | DBFSAMP6 | N/A | N/A | DBFSAMD3 | BMP - DEADB/VSAM |
| DFSIVC06 | N/A | N/A | N/A | N/A | DBFSAMD1 DBFSAMD2 | MSDB ロード制御ステートメント |

関連概念

37 ページの『高速機能サンプル・アプリケーション』

この高速機能サンプル・アプリケーションでは、銀行アプリケーションを示します。

関連資料

158 ページの『[高速機能サンプル・アプリケーションのエラー・メッセージ](#)』
以下の情報を使用して、高速機能サンプル・アプリケーションのエラーを診断します。

区分化サンプル・アプリケーション表

IVP 区分化サンプル・アプリケーションが使用するパーツが、以下の表に示されています。

これらのパーツはすべて、IVP によってインストールされます。

表 9. IVP サンプル区分化アプリケーション・パーツ

| パーツ名 | 言語 | PSB | MFS | TRANCD | DBD | コンパイル および BIND JCL | 説明 |
|---------|-------|---------|---------|--------|----------|--------------------------|--------------------------|
| DFSIVD1 | アセンブラ | N/A | N/A | N/A | DFSIVD1 | N/A ¹ | PHIDAM/OSAM データベース |
| DFSIVD1 | アセンブラ | N/A | N/A | N/A | DFSIVD1I | N/A ¹ | PHIDAM/OSAM 1 次索引 データベース |
| DFSIVA1 | アセンブラ | DFSIVP1 | DFSIVF1 | IVTNO | DFSIVD1 | N/A ¹ | 非会話型 MPP |

関連概念

27 ページの『[区分化サンプル・アプリケーション](#)』
IVP によって提供される区分化サンプル・アプリケーションは、非パーティション・データベースからパーティション・データベースへの移行を示します。

IMS Connect サンプル・アプリケーション表

以下の表に、IMS Connect サンプル・アプリケーションが使用するパーツを示します。これらのパーツはすべて、IVP ジョブおよびタスクによってインストールされます。

表 10. IVP サンプル IMS Connect パーツ

| パーツ名 | 言語 | PSB | TRANCD | DBD | 説明 |
|----------|------|----------|--------|----------|------------|
| DFSSAM02 | REXX | DFSSAM12 | PART | DI21PART | パーツ照会プログラム |

関連概念

28 ページの『[IMS Connect サンプル・アプリケーション](#)』
IMS Connect サンプル・アプリケーションは、IMS Connect を使用する全機能 MPP トランザクションを実行することによって、IMS Connect が作動可能であることを示します。

サンプル・アプリケーション・データベース

IVP ジョブおよびタスクは、IMS の特定のコンポーネントをテストするためにサンプル・アプリケーションが照会するデータベースをロードします。

- [154 ページの『IVP サンプル・アプリケーション・データベース』](#)
- [156 ページの『高速機能サンプル・アプリケーション・データベース』](#)
- [157 ページの『区分化サンプル・アプリケーション・データベース』](#)

IVP サンプル・アプリケーション・データベース

DCCTL 環境では、IVP データベースはプログラム DFSIVAD 中のデータ域を使用してシミュレートされます。

IVP の 4 つのルートのみデータベースのそれぞれに、同じ 6 つのレコードが入っています。以下の図に、これらのレコードの内容 (ラストネーム、ファーストネーム、内線番号、および郵便番号) を示します。

| レコード番号 | ラストネーム | ファーストネーム | 内線番号 | 郵便番号 |
|--------|--------|----------|------------|---------|
| 1 | LAST1 | FIRST1 | 8-111-1111 | D01/R01 |
| 2 | LAST2 | FIRST2 | 8-111-2222 | D01/R02 |
| 3 | LAST3 | FIRST3 | 8-111-3333 | D01/R03 |
| 4 | LAST4 | FIRST4 | 8-111-4444 | D02/R04 |
| 5 | LAST5 | FIRST5 | 8-111-5555 | D02/R05 |
| 6 | LAST6 | FIRST6 | 8-111-6666 | D03/R06 |

DFSIVD1 - HIDAM/OSAM

- データベース記述

データベース名:

IVPDB1

セグメント名:

A1111111

セグメント長:

40

キー・フィールド名:

A1111111

キー・フィールド長:

10

- データベース・レコード・フォーマット:

| オフセット | 長さ | フィールド名 | 説明 |
|-------|----|----------|----------|
| 0 | 10 | A1111111 | ラストネーム |
| 10 | 10 | N/A | ファーストネーム |
| 20 | 10 | N/A | 内線番号 |
| 30 | 7 | N/A | 社内郵便番号 |
| 37 | 3 | N/A | 予約済み |

DFSIVD2 - HDAM/VSAM

- データベース記述

データベース名:

IVPDB2

セグメント名:

A1111111

セグメント長:

40

キー・フィールド名:

A1111111

キー・フィールド長:

10

- データベース・レコード・フォーマット:

| オフセット | 長さ | フィールド名 | 説明 |
|-------|----|----------|----------|
| 0 | 10 | A1111111 | ラストネーム |
| 10 | 10 | N/A | ファーストネーム |
| 20 | 10 | N/A | 内線番号 |
| 30 | 7 | N/A | 社内郵便番号 |
| 37 | 3 | N/A | 予約済み |

DFSIVD3 - DEDB/VSAM

- データベース記述

データベース名:

IVPDB3

セグメント名:

A1111111

セグメント長:

42

キー・フィールド名:

A1111111

キー・フィールド長:

10

- データベース・レコード・フォーマット:

| オフセット | 長さ | フィールド名 | 説明 |
|-------|----|----------|----------|
| 0 | 2 | N/A | セグメント長 |
| 2 | 10 | A1111111 | ラストネーム |
| 12 | 10 | N/A | ファーストネーム |
| 22 | 10 | N/A | 内線番号 |
| 32 | 7 | N/A | 社内郵便番号 |
| 39 | 3 | N/A | 予約済み |

DFSIVD4 - MSDB

- データベース記述

データベース名:

IVPDB4

セグメント名:
A1111111
セグメント長:
40
キー・フィールド名:
A1111111
キー・フィールド長:
10

- データベース・レコード・フォーマット:

| オフセット | 長さ | フィールド名 | 説明 |
|-------|----|----------|----------|
| 0 | 10 | A1111111 | ラストネーム |
| 10 | 10 | N/A | ファーストネーム |
| 20 | 10 | N/A | 内線番号 |
| 30 | 7 | N/A | 社内郵便番号 |
| 37 | 3 | N/A | 予約済み |

DFSIVD5 - GSAM/BSAM

- データベース記述

データベース名:
IVPDB5

RECFM:
F

RECORD:
80

関連概念

25 ページの『IVP サンプル・アプリケーション』

IVP サンプル・アプリケーションは、トランザクションを送信して IMS 電話データベースに情報を要求する単純な電話帳アプリケーションです。

関連資料

146 ページの『IVP サンプル・アプリケーション表』

SDFSISRC ターゲット・ライブラリーには、アプリケーションが使用する、プログラム、PSB、DBD、MFS のソース、およびその他のサポート資料が含まれています。

高速機能サンプル・アプリケーション・データベース

以下の表で説明されているトランザクションは、高速機能サンプル・アプリケーション・データベースについての知識を深めるのに役立ちます。以下の顧客勘定情報と共に、これらの表はオペレーターおよびプログラマーのオンライン訓練の準備をする場合のリソースとなります。

次の表は、DEDB にロードされる顧客貯蓄勘定データベースの口座番号を示しています。これらは高速機能サンプル・アプリケーションの実行に使用することができます。

表 16. 顧客貯蓄勘定データベース - ルート・セグメント (DEDB)

| 顧客勘定番号 | 顧客名 | 顧客住所 | 勘定タイプ | 勘定残高 (\$) |
|------------------|-------------------|---|-----------|-----------------------|
| BR01-B01S1 C1 | Robert Bennett | 1601 California Ave. Palo Alto, CA 95432 | S JT C TS | 4,000.00、 1,500.00 |

表 16. 顧客貯蓄勘定データベース - ルート・セグメント (DEDB) (続き)

| 顧客勘定番号 | 顧客名 | 顧客住所 | 勘定タイプ | 勘定残高 (\$) |
|------------------|-----------------|--|-----------|----------------------|
| BR01-A01S1 | Mary Adams | 2044 Hamilton Ave. Campbell, CA 95030 | S JT | 2,000.00 |
| BR01-F01S1 C1 | John Ford | 4312 Skyline Road Mt. View, CA 96048 | S BA C TR | 15,000.00、 800.00 |
| BR01-H01C1 | Betty Hill | 7676 Santa Teresa Rd San Jose, CA 97050 | C TR | 6,000.00 |
| BR02-B02U1 | Samuel Brown | 9624 Prospect Ave. San Jose, CA 95129 | U UB | 13,000.00 |
| BR02-T01U1 | James Taylor | 5411 Ocean Dr. Santa Cruz, CA 96080 | U UA | 41,500.00 |
| BR02-T02C1 | Peter Thomas | 1900 Stanford Ave. Palo Alto, CA 95432 | C TR | 9,000.00 |

次の表は、HDAM データベースにロードされる顧客ローン勘定データベースの口座番号を示しています。これらは高速機能サンプル・アプリケーションの実行に使用することができます。

表 17. 顧客ローン勘定データベース (HDAM)

| 顧客勘定番号 | 顧客名 | ローン金額 (\$) | 毎月の支払額 (\$) |
|------------|----------------|------------|-------------|
| BR01-B01A1 | Robert Bennett | 4,500.00 | 145.00 |
| BR01-A01V1 | Mary Adams | 1,200.00 | 106.06 |
| BR01-F01H1 | John Ford | 60,000.00 | 76.01 |
| BR01-H01M1 | Betty Hill | 60,000.00 | 482.77 |
| BR02-B02P1 | Samuel Brown | 1,000.00 | 88.38 |
| BR02-T01H1 | James Taylor | 6,000.00 | 76.01 |
| BR02-T02A1 | Peter Thomas | 4,000.00 | 129.07 |

関連概念

37 ページの『高速機能サンプル・アプリケーション』

この高速機能サンプル・アプリケーションでは、銀行アプリケーションを示します。

関連資料

158 ページの『高速機能サンプル・アプリケーションのエラー・メッセージ』

以下の情報を使用して、高速機能サンプル・アプリケーションのエラーを診断します。

区分化サンプル・アプリケーション・データベース

以下のデータベースに関する説明は、区分化サンプル・アプリケーションによって使用されるサンプル・データベースに慣れるために役立ちます。

- データベース記述

データベース名:

IVPDB1

セグメント名:
A1111111
セグメント長:
40
キー・フィールド名:
A1111111
キー・フィールド長:
10

- データベース・レコード・フォーマット:

| オフセット | 長さ | フィールド名 | 説明 |
|-------|----|----------|----------|
| 0 | 10 | A1111111 | ラストネーム |
| 10 | 10 | N/A | ファーストネーム |
| 20 | 10 | N/A | 内線番号 |
| 30 | 7 | N/A | 社内郵便番号 |
| 37 | 3 | N/A | 予約済み |

関連概念

27 ページの『[区分化サンプル・アプリケーション](#)』

IVP によって提供される区分化サンプル・アプリケーションは、非パーティション・データベースからパーティション・データベースへの移行を示します。

高速機能サンプル・アプリケーションのエラー・メッセージ

以下の情報を使用して、高速機能サンプル・アプリケーションのエラーを診断します。

エラー・メッセージの形式

```
REQUEST CAN NOT BE SERVICED:  
PROCSG ERROR xx yy zz...
```

ここで、それぞれの意味は、以下のとおりです。

xx:
アプリケーション・プログラムが設定するエラー・コード

yy:
PCB 状況コード (適用できる場合)

zz:
入力データ

ERROR CODES

IE -
無効な入力データ

LM -
ローン・セグメントがない (HDAM)

LU -
ローン・セグメントの更新時のエラー (HDAM)

MA -
顧客勘定セグメントがない (DEDB)

MR -
顧客ルート・セグメントがない (DEDB)

- MT -**
出納セグメントがない (MSDB)
- MX -**
トランザクション・セグメントがない (DEDB)
- OD -**
引き出しにおいて、顧客勘定残高よりもトランザクション金額のほうが大きい
- RB -**
処理でエラーがあり、ロールバック
- TR -**
入力時の端末伝送エラー
- UA -**
勘定セグメントの更新時のエラー (DEDB)
- UG -**
総勘定元帳セグメントの更新時のエラー (DEDB)
- UI -**
順次従属の追加時のエラー (DEDB)
- UT -**
出納データベースの更新時のエラー (MSDB)
- UX -**
勘定トランザクション・セグメントの追加時のエラー (DEDB)

関連タスク

40 ページの『高速機能サンプル・トランザクションの実行』

端末から高速機能サンプル・トランザクションを実行して、高速機能インフラストラクチャーのセットアップが適切であることを検査します。

関連資料

152 ページの『高速機能サンプル・アプリケーション表』

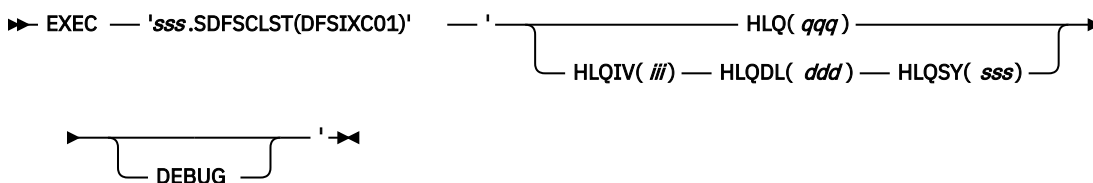
以下の表に、高速機能サンプル・アプリケーションが使用するパーツの情報を示します。これには、各パーツに関連する言語、PSB、MFS、トランザクション・コード、DBD、および説明が含まれます。

156 ページの『高速機能サンプル・アプリケーション・データベース』

以下の表で説明されているトランザクションは、高速機能サンプル・アプリケーション・データベースについての知識を深めるのに役立ちます。以下の顧客勘定情報と共に、これらの表はオペレーターおよびプログラマーのオンライン訓練の準備をする場合のリソースとなります。

IVP 開始 CLIST を呼び出すための TSO EXEC コマンド構文

以下の構文図は、TSO EXEC コマンドを使用して IVP 開始 CLIST を呼び出す方法を示しています。



sss

IMS システム (SYS) データ・セット
デフォルトは IVPDLB15 です。

EXEC

CLIST および REXX EXEC を実行する、TSO コマンド

HLQ(qqq)

IVP ライブラリー、システム・ライブラリー、および配布ライブラリー・データ・セットの高位修飾子を識別するキーワード (qqq)。

HLQIV(*iii*)

IVP データ・セット、INSTALIB、および INSTATBL (*iii*) の高位修飾子を識別するキーワード。

デフォルトは IVPIVP15 です。

HLQDL(*ddd*)

IMS 配布ライブラリー (DLB) データ・セット (*ddd*) の高位修飾子を識別するキーワード。

デフォルトは IVPDLB15 です。

HLQSY(*sss*)

IMS システム (SYS) データ・セット (*sss*) の高位修飾子を識別するキーワード。

デフォルトは IVPSYS15 です。

DEBUG

診断オプションを設定し、トレース情報を表示するパラメーター。ISPF コードが処理されるにつれて、その各行が表示されます。

関連タスク

11 ページの『ISPF 内からの EXEC コマンドによる IVP の開始』

単純なコマンドによる部分的な構文または完全な構文を使用して、ISPF 内から IVP ダイアログを開始できます。

「IMS Application Menu」を開始するための REXX EXEC コマンド構文

以下の構文は、「IMS Application Menu」を開始するための REXX EXEC コマンドに適用されます。

▶ EXEC — '*qqq*.SDFSEXEC(DFSAPPL)' →

```
HLQ(imshlq)ALTRESL(" myhlq.data_set_name1 " "myhlq.data_set_name2 ")
```

qqq

IMS REXX データ・セットの高位修飾子

DFSAPPL

「IMS Application Menu」を開始するための REXX EXEC

imshlq

IMS データ・セットの高位修飾子

ALTRESL(''*myhlq.data_set_name1*'')

キーワードは、ロード・モジュールを収めるデータ・セットのリストを指定します。

myhlq.data_set_name1 は、ロード・モジュールを収めるデータ・セットの完全修飾名です。ALTRESL パラメーターを指定する場合は、データ・セット名のリストに SDFSRESL データ・セットを含める必要があります。ALTRESL パラメーターを指定しなかった場合は、*imshlq.SDFSRESL* が ISPLLIB データ・セットとして使用されます。

複数のデータ・セットを指定する必要がある場合は、名前をコンマで分離します。

EXEC コマンドとデータ・セット名は両方とも句読文字として単一引用符を使用するため、EXEC パラメーター・ストリング内にデータ・セット名を指定する場合は、2つの隣接した単一引用符を使用します。

関連タスク

12 ページの『「IMS Application Menu」からの IVP の開始』

IVP ダイアログは、「IMS Application Menu」から開始できます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書の他言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス 渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing

IBM Corporation

North Castle Drive, MD-NC119

Armonk, NY 10504-1785

US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、

次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

©(お客様の会社名)(年).

このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. _年を入れる_.

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux[®] は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用される条件

このご使用条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加して適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンライン・プライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用の詳細については、『IBM プライバシー・ステートメント』 (<https://www.ibm.com/jp-ja/privacy>) および『IBM オンライン・プライバシー・ステートメント』 (<https://www.ibm.com/jp-ja/privacy/details>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』 および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) というタイトルのセクションを参照してください。

参考文献

この参考文献のリストには、IMS 15 ライブラリーのすべての資料が記載されています。

| 表題 | 頭字語 | 資料番号 |
|--|-----|------------------------|
| IMS V15 アプリケーション・プログラミング | APG | SC43-4281 |
| IMS V15 アプリケーション・プログラミング API | APR | SC43-4279 |
| IMS V15 コマンド 第1巻: IMS コマンド A-M | CR1 | SC43-4284 |
| IMS V15 コマンド 第2巻: IMS コマンド N-V | CR2 | SC43-4285 |
| IMS V15 コマンド 第3巻: IMS コンポーネントおよび z/OS コマンド | CR3 | SC43-4286 |
| IMS V15 コミュニケーションおよびコネクション | CCG | SC43-4277 |
| IMS V15 データベース管理 | DAG | SC43-4276 |
| IMS V15 データベース・ユーティリティー | DUR | SC43-4280 |
| IMS Version 15 Diagnosis | DGR | GC27-6786 |
| IMS V15 出口ルーチン | ERR | SC43-4279 SA88-7180 |
| IMS V15 インストール | INS | SC27-6788 |
| IMS Version 15 Licensed Program Specifications | LPS | GC27-6799 |
| IMS V15 メッセージおよびコード 第1巻: DFS メッセージ | MC1 | GC43-4282 |
| IMS V15 メッセージおよびコード 第2巻: DFS 以外メッセージ | MC2 | GC43-4283 |
| IMS V15 メッセージおよびコード 第3巻: IMS 異常終了コード | MC3 | GC27-6791 |
| IMS V15 メッセージおよびコード 第4巻: IMS コンポーネント・コード | MC4 | GC27-6792 |
| IMS V15 オペレーションおよびオートメーション | OAG | SC43-4275 |
| IMS V15 リリース計画 | RPG | GC43-4272 |
| IMS V15 システム管理 | SAG | SC43-4271 |
| IMS V15 システム定義 | SDG | GC43-4272 |
| IMS V15 システム・プログラミング API | SPR | SC43-4269 |
| IMS V15 システム・ユーティリティー | SUR | SC43-4270 |

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。
なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセシビリティ
 キーボード・ショートカット [ix](#)
 機能 [ix](#)
アクティブおよび非アクティブ・ライブラリー [47](#)
アプリケーション・プログラム用のソース・コード [25, 27, 28](#)
インストール
 前提条件 [1](#)
 IMS DB/DC 環境 [13](#)
 IMS DBCTL 環境 [13](#)
 IMS DCCTL 環境 [14](#)
 IMS XRF 環境 [14](#)
 IMS バッチ環境 [13](#)
インストール検査プログラム (IVP) (installation verification program (IVP))
 サンプル・アプリケーション・プログラム
 IMS カタログ [43](#)
 IMS カタログ
 サンプル・アプリケーション・プログラム [43](#)
インストール前
 CBPDO ユーザー [1](#)
 CustomPac [1](#)
 PTF [1](#)
 PTF の SOURCEID [1](#)
 ServerPac ユーザー [1](#)
オプション変更検査パネル [14](#)
オンライン変更機能 [47](#)

[カ行]

開始変数コピー [7](#)
開始変数のコピー・プロセス [7](#)
拡張回復機能
 環境選択 [14](#)
カタログ、IMS
 サンプル・アプリケーション・プログラム [43](#)
 IVP
 サンプル・アプリケーション・プログラム [43](#)
環境
 バッチ [13](#)
 DB/DC [13](#)
 DBCTL [13](#)
 DCCTL [14](#)
 XRF [14](#)
環境オプション
 基本オプション・メニュー [13](#)
 DBB [13](#)
 DBC [13](#)
 DBT [13](#)
 DCC [13](#)
 XRF [13](#)
関係するデータ・セット

関係するデータ・セット (続き)
システム

IMS SYSDEF [66](#)
IMS HFS [66](#)
IMS MODBLKS [66](#)
IMS RDDS [66](#)
JOBS [66](#)
TCFSLIB [67](#)

実行

オンライン変更 [71](#)
形式 [70](#)
メッセージ・キュー [70](#)
ログ [70](#)
ACBLIB [69](#)
DBRC RECON データ・セット [69](#)
SYSOUT [71](#)

ターゲット

IMS SYSDEF [59](#)
IMS SYSDEF 以外 [59](#)

DLIB

データベース・マネージャー [56](#)
IMS Java オンデマンド機能データ・セット [56](#)
IMS 拡張端末オプション・サポート [56](#)
System Services [51](#)
Transaction Manager [56](#)

キーボード・ショートカット [ix](#)

基本オプション・パネル・オプション、IVP

DBB [13](#)
DBC [13](#)
DBT [13](#)
DCC [14](#)
XRF [14](#)

キュー・ブロック・データ・セット [79, 81](#)

区分化サンプル・アプリケーション

データベース [157](#)
パーツ [153](#)

高速機能、サンプル・アプリケーション [37, 40](#)

高速機能サンプル・アプリケーション

データベース [156](#)
パーツ [152](#)

高速機能領域 [37](#)

構文図

読み方 [vii](#)

コールアウト機能

サンプル [44](#)

コールアウト機能のサンプル [44](#)

コマンド

CLIST [11](#)
REXX EXEC [11](#)
SET BDY [49](#)
TSO EXEC [11](#)
/FOR IVTNO [25](#)

[サ行]

サブオプション選択パネル [15](#)
サブオプション変更検査パネル [15](#)

- サンプル
 - コールアウト機能 [44](#)
 - Java 開発用の IMS ソリューション [44](#)
- サンプル IMS システム
 - 作成 [11](#)
- サンプル・アプリケーション
 - カタログ、IMS [43](#)
 - 共通サービス層と共通キュー・サーバー [30](#)
 - 区分化 [27](#)
 - 高速機能 (Fast Path) [37](#), [40](#)
 - 構文検査機能 [103](#)
 - その他 [30](#)
 - タイプ 2 コマンド環境 [30](#)
 - データベース [153](#)
 - 動的リソース定義 [28](#), [29](#)
 - パーツ [146](#)
 - IMS [31](#), [32](#)
 - IMS カタログ [43](#)
 - IMS コールアウト [44](#)
 - IVP [25](#)
 - IVP によるテストなし [31](#)
 - Java 開発用の IMS ソリューション [44](#)
- サンプル・アプリケーション IMS Connect [28](#)
- サンプル・アプリケーションで使用されるパーツ [146](#)
- サンプル・トランザクション [31](#), [32](#)
- システム定義 (system definition)
 - ステージ 1 の入力ストリーム [134](#)
 - IVP [134](#)
- システム定義ステージ 1 ソース
 - DB/DC [134](#)
 - DBB [134](#)
 - DBCTL [134](#)
 - DCCTL [134](#)
 - XRF [134](#)
- システム・データ・セット
 - 関係するシステム・データ・セット
 - IMS SYSDEF [66](#)
 - IMS HFS [66](#)
 - IMS MODBLKS [66](#)
 - IMS RDDS [66](#)
 - JOBS [66](#)
 - TCFSLIB [67](#)
 - 属性 [66](#)
- 実行段階
 - アクション・コマンド
 - 使用 [143](#)
 - Brm アクション・コマンド [144](#)
 - Doc アクション・コマンド [144](#)
 - Edm アクション・コマンド [144](#)
 - eNt アクション・コマンド [144](#)
 - eXe アクション・コマンド [144](#)
 - Ftl アクション・コマンド [144](#)
 - Lst アクション・コマンド [144](#)
 - Nxt アクション・コマンド [144](#)
 - Prv アクション・コマンド [144](#)
 - spR アクション・コマンド [144](#)
 - 説明 [23](#)
 - 標識シンボル [145](#)
 - ENT モード・パネル [145](#)
 - LST モード [144](#)
 - LST モード・パネル [144](#)
- 実行データ・セット
 - 関係する実行データ・セット
 - オンライン変更 (online change) [71](#)

- 実行データ・セット (続き)
 - 関係する実行データ・セット (続き)
 - 形式 [70](#)
 - メッセージ・キュー (message queue) [70](#)
 - ログ [70](#)
 - ACBLIB [69](#)
 - DBRC RECON データ・セット [69](#)
 - SYSOUT [71](#)
 - 属性 [69](#)
 - 重要な注意
 - ファイル調整 [22](#)
 - IMS.SDFSMAC [62](#)
 - 商標 [161](#), [162](#)
 - ジョブ
 - ファイル調整段階および実行段階での使用 [7](#)
 - ステージング・ライブラリー (staging libraries) [47](#)
 - セキュリティー
 - ジョブ・パスワード [67](#)
 - セッション初期設定
 - オプションの選択 [13](#)
 - オプション変更検査 [14](#)
 - 概要 [6](#)
 - 基本オプション・メニュー [13](#)
 - 初期インストール環境オプション [13](#)
 - 段階選択 [17](#)
 - 表のマージ [6](#), [17](#)
 - DLIBZONE [49](#)
 - GLBLZONE [49](#)
 - TRGTZONE [50](#)
 - セッションの初期設定
 - オプションの選択 [13](#)
 - オプション変更検査 [14](#)
 - 概要 [6](#)
 - 基本オプション・メニュー [13](#)
 - 初期インストール環境オプション [13](#)
 - 段階選択 [17](#)
 - 表のマージ [6](#), [17](#)

- [タ行]
- ターゲット・ゾーン (TRGTZONE) [50](#)
- ターゲット・データ・セット
- 関係するターゲット・データ・セット
 - IMS SYSDEF [59](#)
 - IMS SYSDEF 以外 [59](#)
 - 属性 [59](#)
- ターゲット・ライブラリー
 - SDFSISRC [31](#), [37](#)
- ダイアログ段階
 - 変数収集 [17](#)
 - 無効な選択の通知 [17](#)
- 段階選択 [17](#)
- データ・セット
- グループによる
 - システム [66](#)
 - 実行 [69](#)
 - ターゲット [59](#)
 - DLIB [51](#)
 - IRLM [83](#)
 - SMP/E [49](#)
 - user [85](#)
- 実行 [69](#)
- の DLIB
 - データベース・マネージャー [56](#)

データ・セット (続き)

の DLIB (続き)

トランザクション・マネージャー [56](#)

ETO [56](#)

IMS Java オンデマンド機能データ・セット [56](#)

System Services [51](#)

IMS PROCLIB [68](#)

IMS.ACBLIB

関係する実行データ・セット [69](#)

属性 [71](#)

複数コピー [47](#)

IMS.ACBLIBA [72](#)

IMS.ACBLIBB [72](#)

IMS.ADFSBASE [51](#)

IMS.ADFSCLST [52](#)

IMS.ADFSDATA [52](#)

IMS.ADFSEXEC [52](#)

IMS.ADFSIC4J [57](#)

IMS.ADFSISRC [53](#)

IMS.ADFSJCIC [58](#)

IMS.ADFSJCPI [58](#)

IMS.ADFSJHFS [57](#)

IMS.ADFSJLIB [56](#)

IMS.ADFSJRAR [57](#)

IMS.ADFSJSAM [58](#)

IMS.ADFSLOAD [53](#)

IMS.ADFSMAC [53](#)

IMS.ADFSMLIB [54](#)

IMS.ADFSPLIB [54](#)

IMS.ADFSRRTRM [54](#)

IMS.ADFSSLIB [55](#)

IMS.ADFSSMPL [55](#)

IMS.ADFSSRC [55](#)

IMS.ADFSTLIB [55](#)

IMS.ADXRLOAD [83](#)

IMS.ADXRSAMP [84](#)

IMS.DBDLIB [69](#), [72](#)

IMS.DFSOLPnn [73](#)

IMS.DFSOLSnn [73](#)

IMS.DFSTRA01 [73](#)

IMS.DFSTRA02 [73](#)

IMS.DFSTRA0T [73](#)

IMS.DFSWADSn [74](#)

IMS.DLIBZONE.CSI [49](#)

IMS.FORMAT [47](#), [74](#)

IMS.FORMATA [74](#)

IMS.FORMATB [74](#)

IMS.GLBLZONE.CSI [49](#)

IMS.IEFRDER [75](#)

IMS.IMSDALIB [75](#)

IMS.IMSMON [76](#)

IMS.INSTALIB [48](#)

IMS.JOBS [67](#)

IMS.LGMSG/1-9 [79](#), [80](#)

IMS.LGMSG1 [81](#)

IMS.MODBLKS [47](#), [59](#)

IMS.MODBLKSA [67](#)

IMS.MODBLKSB [67](#)

IMS.MODSTAT [76](#)

IMS.MODSTAT2 [76](#)

IMS.MSDBCP1 [77](#)

IMS.MSDBCP2 [77](#)

IMS.MSDBCP3 [77](#)

IMS.MSDBCP4 [77](#)

データ・セット (続き)

IMS.MSDBDUMP [78](#)

IMS.MSDBINIT [78](#)

IMS.OBJDSET [68](#)

IMS.PGMLIB [78](#)

IMS.PSBLIB [79](#)

IMS.QBLKS [79](#)

IMS.QBLKSL [81](#)

IMS.RDS [81](#)

IMS.RDS2 [81](#)

IMS.RECON1 [82](#)

IMS.RECON2 [82](#)

IMS.RECON3 [82](#)

IMS.REFERAL [82](#)

IMS.SDFSBASE [60](#)

IMS.SDFSCLST [60](#)

IMS.SDFSDATA [60](#)

IMS.SDFSEXEC [61](#)

IMS.SDFSISRC [61](#)

IMS.SDFSJLIB [61](#)

IMS.SDFSJSID [62](#)

IMS.SDFSJMAC [62](#)

IMS.SDFSMLIB [63](#)

IMS.SDFSPLIB [63](#)

IMS.SDFSRESL [63](#)

IMS.SDFSRRTRM [64](#)

IMS.SDFSRLIB [64](#)

IMS.SDFSAMPL [65](#)

IMS.SDFSRC [65](#)

IMS.SDFSTLIB [65](#)

IMS.SDXRRESL [84](#)

IMS.SDXRSAMP [84](#)

IMS.SHMSG/1-9 [79](#)

IMS.SHMSG1 [81](#)

IMS.SMPLTS [49](#)

IMS.SMPPTS [50](#)

IMS.SMPSCDS [50](#)

IMS.SMPSTS [50](#)

IMS.SYSOnnn [82](#)

IMS.TCFSLIB [69](#)

IMS.TFORMAT [83](#)

IMS.TRGZONE.CSI [50](#)

IMSPLEX.OLCSTAT [79](#)

INSTATBL [6](#), [17](#)

IVP によって割り振られた [11](#)

user [85](#)

USER.TLIB [85](#)

データ・セット割り振り

変数 [97](#)

データベース

組織サンプル [31](#)

レコード・フォーマット [154](#)

データベース・マネージャー・データ・セット [56](#)

デフォルト変更 [17](#)

動的リソース定義

リソース定義データ・セット [28](#)

IMSRSC リポジトリ (IMSRSC repository) [29](#)

特記事項

商標 [161](#), [162](#)

特記事項 [161](#)

[ハ行]

配布ゾーン

配布ゾーン (続き)

説明 [49](#)
の属性 [49](#)

配布メディア

段階選択 [17](#)
CBPDO [1](#)
ServerPac [1](#)

バッチ環境 [13](#)

パネル、IVP

オプション変更検査 [14](#)
サブオプションの選択 [15](#)
サブオプション変更検査 [15](#)
実行段階 - ENT モード [145](#)
実行段階 - LST モード [144](#)
初期インストール環境オプション [13](#)
表マージ要求 [17](#)
ファイル調整 - DOC アクション [142](#)
ファイル調整 - ENT モード [142](#)
ファイル調整 - LST モード [141](#)
変数収集 - DOC アクション [139](#)
変数収集 - ENT モード [138](#)
変数収集 - LST モード [138](#)
IVP 段階選択 [17](#)

パラメーター、REXX EXEC コマンド用

ALTRESL [160](#)

非アクティブおよびアクティブ・ライブラリー [47](#)

標識シンボル [142](#)

表のマージ [6](#), [17](#)

表マージ要求パネル [17](#)

ファイル調整

アクション・コマンド

使用 [140](#)
ALL [140](#)
brM [140](#)
brS [140](#)
Doc [140](#)
Edm [140](#)
eNt [140](#)
Ftl [140](#)
Lst [140](#)
Nxt [140](#)
Prv [140](#)

重要な注意 [22](#)

標識シンボル [142](#)

ENT モード [142](#)

LST モード [141](#)

ファイル調整パネル

DOC アクション・パネル [142](#)

ENT モード [142](#)

LST モード・パネル [141](#)

変数収集段階

開始コピー [7](#)

説明 [17](#)

モード

LST [138](#)

モードの切り替え [18](#)

ENT モード [138](#)

変数収集段階、IVP

アクション・コマンド

Chg [137](#)
Doc [137](#)
eNt [137](#)
Exp [137](#)
Imp [137](#)

変数収集段階、IVP (続き)

アクション・コマンド (続き)

Lst [137](#)

Nxt [137](#)

Prv [137](#)

Rfr [137](#)

verb [136](#)

標識シンボル [138](#)

モード

ENT [138](#)

LST [136](#)

LST モード [138](#)

変数収集パネル、IVP

DOC アクション・パネル [139](#)

ENT モード・パネル [138](#)

LST モード・パネル [138](#)

[マ行]

無効な段階の選択の通知 [17](#)

メッセージ形式サービスを参照。 [27](#)

[ラ行]

リスト・メンバー [142](#)

例

高速機能アプリケーション [37](#), [40](#)

データベース編成 [31](#)

CLIST を呼び出す TSO コマンド [11](#)

IVP サンプル・アプリケーション [25](#)

IVP サンプル区分化アプリケーション [27](#)

A

ALTRESL パラメーター [160](#)

B

brM アクション・コマンド

実行段階アクション・コマンド [144](#)

ファイル調整アクション・コマンド [140](#)

brS、ファイル調整アクション・コマンド [140](#)

C

CBPDO (カスタムビルト製品デリバリー・オフリング) [1](#)

CHG アクション [7](#)

Chg、変数収集アクション・コマンド [137](#)

CLIST コマンド・オプション

の説明 [11](#)

CustomPac インストール [1](#)

D

DB/DC

環境 [13](#)

DBCTL

環境 [13](#)

DCCTL

環境 [14](#)

DFSIVP1 プログラム [25](#)

DFSIXC01 [158](#)

DLIB 構築ステップ [1](#)
DLIB データ・セット
 関係する DLIB データ・セット
 データベース・マネージャー [56](#)
 トランザクション・マネージャー [56](#)
 IMS Java オンデマンド機能データ・セット [56](#)
 IMS 拡張端末オプション・サポート [56](#)
 System Services [51](#)
 Transaction Manager [56](#)
 属性 [51](#)
DLIBZONE (配布ゾーン)
 説明 [49](#)
 の属性 [49](#)
DOC アクション
 ファイル調整 [142](#)
 変数収集 [139](#)
Doc アクション・コマンド
 実行段階アクション・コマンド [144](#)
 変数収集アクション・コマンド [137](#)
DSNAME 高位修飾子 [47](#)

E

Edm アクション・コマンド
 実行段階アクション・コマンド [144](#)
 ファイル調整アクション・コマンド [140](#)
EMH プログラム [25](#)
eNt アクション・コマンド
 実行段階アクション・コマンド [144](#)
 ファイル調整アクション・コマンド [140](#)
 変数収集アクション・コマンド [137](#)
ENT モード
 アクション・コードの使用 [138](#)
 実行段階 [145](#)
 パネル [138](#)
 ファイル調整段階 [142](#)
 変数収集段階 [138](#)
 変数収集用の DOC アクション・パネル [139](#)
ETO (IMS 拡張端末オプション)
 インストール [15](#)
 可用性 [15](#)
 デフォルト [15](#)
ETO (IMS 拡張端末オプション・サポート)
 データ・セット [56](#)
eXe アクション・コマンド
 実行段階アクション・コマンド [144](#)
Exp アクション・コマンド
 変数収集アクション・コマンド [137](#)

F

Ftl アクション・コマンド
 実行段階アクション・コマンド [144](#)
Ftl、ファイル調整アクション・コマンド [140](#)

G

GLBLZONE (グローバル・ゾーン)
 説明 [49](#)
 の属性 [49](#)

I

IFP (高速機能領域) [37](#)
Imp アクション・コマンド
 変数収集アクション・コマンド [137](#)
IMS
 サンプル・アプリケーション [31, 32](#)
 サンプル・トランザクション [31, 32, 150](#)
IMS Application Menu
 コマンド
 DFSAPPL [160](#)
 呼び出し [12](#)
 DFSAPPL コマンド [160](#)
 REXX EXEC コマンドの使用の開始 [160](#)
IMS Connect [28](#)
IMS Connect サンプル・アプリケーション
 パーツ [153](#)
IMS カタログ
 サンプル・アプリケーション・プログラム [43](#)
IVP
 サンプル・アプリケーション・プログラム [43](#)
IMS 共通サービス層および共通キュー・サーバーのサンプル・
 アプリケーション [30](#)
IMS 構文検査機能サンプル・アプリケーション [103](#)
IMS サンプル・アプリケーション
 パーツ [149](#)
 PSBs [150](#)
IMS タイプ 2 コマンド環境のサンプル・アプリケーション
 [30](#)
IMS.SDFSMAC、重要な注意 [62](#)
INDEX [7](#)
INDEX 項目 [141](#)
INSTALIB
 ファイル調整段階での使用 [7](#)
IRLM (内部リソース・ロック・マネージャー)
 データ・セット属性 [83](#)
IVP サブセット
 インストール [15](#)
 可用性 [15](#)
 デフォルト [15](#)
ISPF (対話式システム生産性向上機能)
 論理画面の制限 [158](#)
IVP
 教育ツール [5](#)
 参照情報 [47](#)
 出力 [8](#)
 段階 [6](#)
 定義 [5](#)
IVP (インストール検査プログラム)
 サンプル・アプリケーション・プログラム
 IMS カタログ [43](#)
 IMS カタログ
 サンプル・アプリケーション・プログラム [43](#)
IVP 開始 CLIST
 TSO EXEC コマンドの使用による呼び出し [159](#)
IVP サンプル・アプリケーション
 データベース [153, 154](#)
 パーツ [146](#)
IVP システム
 画面フォーマット [26](#)
 初期インストール環境 [134](#)
 IMS 機能の使用法
 DBB (DB) [134](#)
 DBC (DBCTL) [135](#)

IVP システム (続き)
IMS 機能の使用法 (続き)
DBT (DB/DC) [135](#)
DCC (DCCTL) [136](#)
SRF (XRF 付き DB/DC) [136](#)

IVP ジョブおよびタスク
概要 [100](#)
ステップ Ax ~ IVP 準備用 [101](#)
ステップ Cx ~ システム 定義用 (SYSDEF) [101](#)
ステップ Dx ~ IMS から z/OS および VTAM へのインターフェース [102](#)
ステップ Ex ~ IVP アプリケーションおよびシステム 準備用 [103](#)
ステップ Fx ~ IVP 実行 - DBB システム (パッチ) [104](#)
ステップ Gx ~ IVP 実行 - DBC システム (DBCTL) [106](#)
ステップ Hx ~ IVP 実行 - DBT システム (DB/DC) [108](#)
ステップ Ix ~ IVP 実行 - XRF システム (XRF 付き DB/DC) [110](#)
ステップ Jx ~ IVP 実行 - DCC システム (DCCTL) [112](#)
ステップ Nx ~ 実行用 - パーティション・データベースのサンプル・アプリケーション [113](#)
ステップ Ox ~ 共通サービス層および共通キュー・サーバーのサンプル・アプリケーション [115](#)
ステップ Px ~ タイプ 2 コマンド環境のサンプル・アプリケーション [118](#)
ステップ Qx ~ 実行用 - IMS Connect サンプル・アプリケーション [119](#)
ステップ Rx ~ 並列 RECON アクセス・サンプル用 [120](#)
ステップ Sx ~ コールアウト・サンプル用 [121](#)
ステップ Tx ~ オープン・データベース・サンプル・アプリケーション [122](#)
ステップ Ux ~ IMSRSC リポジトリ・サンプル・アプリケーション [123](#)
ステップ Zx ~ 追加の PDS メンバーの索引 [124](#)

IVP セッションの終了 [24](#)

IVP ダイアログ
アプリケーション・プログラム [146](#)
開始、TSO コマンドの使用 [11](#)
開始メッセージ [158](#)
実行段階の概要 [8](#)
処理コード [25](#)
セッション初期設定
オプションの選択 [13](#)
オプション変更検査 [14](#)
概要 [6](#)
表のマージ [17](#)
セッションの終了 [24](#)
段階選択 [17](#)
データ・セット
IMS.INSTALIB [48](#)
データベース・レコード・フォーマット [154](#)
デフォルト変更 [17](#)
ファイル調整の概要 [7](#)
変数収集の概要 [7](#)
無効な段階の選択の通知 [17](#)
呼び出し [11](#)
呼び出し用構文 [11](#)

IVP 段階選択パネル [17](#)

IVP データ・セット
高位修飾子の指定 [11](#)

IVP 変数
一括変更 [22](#)
一般的な [85](#)
概要 [85](#)

IVP 変数 (続き)
収集 [18](#)
調整 [22](#)
データ・セット割り振り [97](#)

IVP 変数収集段階 [18](#)

IVP 変数のインポート [19](#)

IVP 変数のエクスポート [19](#)

J

Java 開発用の IMS ソリューション [44](#)
Java 開発用の IMS ソリューション・サンプル [44](#)

L

Lst アクション・コマンド
実行段階アクション・コマンド [144](#)
ファイル調整アクション・コマンド [140](#)
変数収集アクション・コマンド [137](#)

LST モード
アクション・コードの使用 [138](#)
実行段階 [144](#)
パネル [138](#)
ファイル調整段階 [141](#)
変数収集段階 [138](#)
変数収集用の DOC アクション・パネル [139](#)

M

MFS (メッセージ形式サービス) [27](#)

MPP
メッセージ処理
領域 [37](#)

N

NODE パラメーター
IMSGEN マクロの [47](#)
SYSTEM データ・セット用の [47](#)

Nxt アクション・コマンド
実行段階アクション・コマンド [144](#)
ファイル調整アクション・コマンド [140](#)
変数収集アクション・コマンド [137](#)

P

PDSE リソース制限 [47](#)

Prv アクション・コマンド
実行段階アクション・コマンド [144](#)
ファイル調整アクション・コマンド [140](#)
変数収集アクション・コマンド [137](#)

PTF [1](#)
PTF の SOURCEID [1](#)

R

Rfr アクション・コマンド
変数収集アクション・コマンド [137](#)

S

SDFSISRC

SDFSISRC (続き)
 ターゲット・ライブラリー [25](#)
 ファイル調整段階での使用 [7](#)
SDFSISRC ターゲット・ライブラリー [31, 37](#)
SDFSSLIB
 ファイル調整段階での使用 [7](#)
ServerPac [1](#)
SET BDY コマンド [49](#)
SMP/E
 データ・セット [49](#)
spR、アクション・コマンド
 実行段階アクション・コマンド [144](#)

T

TADD 処理コード [25](#)
TASK [7](#)
TRGTZONE (ターゲット・ゾーン) [50](#)

X

XRF (拡張回復機能)
 環境 [14](#)

[特殊文字]

/FOR IVTNO コマンド [25](#)



プログラム番号: 5635-A06
5655-DS5
5655-TM4